2026年度
千代田コンソ単位互換提供（他大学向け）科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0001】憲法Ⅰ［金子　匡良］春学期授業/Spring …… 1
【A0002】憲法Ⅱ［金子　匡良］秋学期授業/Fall …… 2
【A0003】憲法Ⅰ［髙橋　正明］春学期授業/Spring …… 3
【A0004】憲法Ⅱ［髙橋　正明］秋学期授業/Fall …… 4
【A0005】憲法Ⅲ［國分　典子］春学期授業/Spring …… 6
【A0006】憲法Ⅳ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 7
【A0010】国際社会と憲法Ⅱ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 8
【A0067】国際人権法Ⅰ［松田　浩道］秋学期授業/Fall …… 9
【A0068】国際人権法Ⅱ［松田　浩道］秋学期授業/Fall …… 11
【A0090】労働法総論・労働契約法［藤木　貴史］春学期授業/Spring …… 13
【A0091】労働基準法［藤木　貴史］秋学期授業/Fall …… 15
【A0092】労働法総論・労働契約法［沼田　雅之］春学期授業/Spring …… 17
【A0093】労働基準法［沼田　雅之］秋学期授業/Fall …… 19
【A0094】労働組合法［藤木　貴史］春学期授業/Spring …… 21
【A0095】労働法特論［細川　良］秋学期授業/Fall …… 23
【A0096】社会保障法Ⅰ［沼田　雅之］春学期授業/Spring …… 25
【A0097】社会保障法Ⅱ［沼田　雅之］秋学期授業/Fall …… 27
【A0100】教育法Ⅰ［村元　宏行］春学期授業/Spring …… 29
【A0101】教育法Ⅱ［村元　宏行］秋学期授業/Fall …… 30
【A0237】比較政治論Ⅰ［新川　敏光］春学期授業/Spring …… 31
【A0238】比較政治論Ⅱ［新川　敏光］秋学期授業/Fall …… 32
【A0573】憲法Ⅳ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 33
【A0574】憲法Ⅲ［國分　典子］春学期授業/Spring …… 34
【A0663】戦後国際関係史［高橋　和宏］秋学期授業/Fall …… 35
【A0733】平和・軍事研究Ⅱ［権　鎬淵］秋学期授業/Fall …… 36
【A0771】朝鮮半島の政治と社会Ⅰ［権　鎬淵］春学期授業/Spring …… 37
【A0772】朝鮮半島の政治と社会Ⅱ［権　鎬淵］秋学期授業/Fall …… 38
【A0777】平和・軍事研究Ⅰ［権　鎬淵］春学期授業/Spring …… 39
【A0786】現代政策学特講Ⅰ（千代田区）［杉崎　和久］オータムセッション/Autumn Session …… 40
【A0840】ヨーロッパ政治史Ⅰ［網谷　龍介］春学期授業/Spring …… 41
【A0841】ヨーロッパ政治史Ⅱ［網谷　龍介］秋学期授業/Fall …… 42
【A0898】アメリカ政治史Ⅰ［中野　勝郎］春学期授業/Spring …… 43
【A0899】アメリカ政治史Ⅱ［中野　勝郎］秋学期授業/Fall …… 44
【A2245】現代思想２（フランスの思想）１［大池　惣太郎］春学期授業/Spring …… 45
【A2246】現代思想２（フランスの思想）２［大池　惣太郎］秋学期授業/Fall …… 46
【A2251】宗教学１（伝統宗教）１［松本　力］春学期授業/Spring …… 47
【A2252】宗教学１（伝統宗教）２［松本　力］秋学期授業/Fall …… 48
【A2260】日本思想史１［山本　伸裕］春学期授業/Spring …… 49
【A2268】ラテン語１［内山　真莉子］春学期授業/Spring …… 50
【A2269】ラテン語２［内山　真莉子］秋学期授業/Fall …… 51
【A2270】ギリシア語１［文　景楠］春学期授業/Spring …… 52
【A2271】ギリシア語２［文　景楠］秋学期授業/Fall …… 53
【A2553】日本文芸批評史A［伊東　祐吏］春学期授業/Spring …… 54
【A2555】日本文芸批評史B［伊東　祐吏］秋学期授業/Fall …… 55

【A2561】中国文芸史A［遠藤　星希］春学期授業/Spring 56
【A2563】中国文芸史B［遠藤　星希］秋学期授業/Fall 57
【A2665】日本文芸研究特講（3）中世A［阿部　真弓］春学期授業/Spring 58
【A2666】日本文芸研究特講（3）中世B［阿部　真弓］秋学期授業/Fall 59
【A2669】日本文芸研究特講（4）近世A［小林　ふみ子］春学期授業/Spring 60
【A2670】日本文芸研究特講（4）近世B［齊藤　千恵］秋学期授業/Fall 61
【A2703】日本文芸研究特講（１５）国際日本学A［スティーヴン　ネルソン］春学期授業/Spring 62
【A2704】日本文芸研究特講（１５）国際日本学B［スティーヴン　ネルソン］秋学期授業/Fall 64
【A3113】日本考古学［高橋　健］秋学期授業/Fall 66
【A3116】日本近世史［松本　剣志郎］秋学期授業/Fall 67
【A3152】考古学概論［高橋　健］春学期授業/Spring 68
【A3157】日本史特講Ⅳ［中山　学］秋学期授業/Fall 69
【A3164】東洋史特講Ⅲ［芦沢　知絵］秋学期授業/Fall 70
【A3171】西洋史特講Ⅳ［皆川　卓］春学期授業/Spring 71
【A3172】西洋史特講Ⅴ［皆川　卓］秋学期授業/Fall 73
【A3208】東洋近現代史［芦沢　知絵］春学期授業/Spring 75
【A3214】東洋史序説［宇都宮　美生］春学期授業/Spring 76
【A3215】西洋史序説［柴田　隆功］春学期授業/Spring 77
【A3216】日本史特講XI［小倉　慈司］秋学期授業/Fall 78
【A3217】東洋史特講Ⅶ［久野　美樹］春学期授業/Spring 79
【A3218】東洋史特講Ⅷ［松本　隆志］春学期授業/Spring 80
【A3219】西洋史特講Ⅸ［篠原　琢］秋学期授業/Fall 81
【A3226】日本史序説［齋藤　智志］春学期授業/Spring 83
【A3227】歴史特講［皆川　卓、柏木　一朗、内田　康太、高井　康行、宇都宮　美生］秋学期授業/Fall 84
【A3417】自然環境論［福與　直人］春学期授業/Spring 85
【A3482】文化地理学（1）［村田　陽平］春学期授業/Spring 86
【A3483】文化地理学（2）［村田　陽平］秋学期授業/Fall 87
【A3809】民俗学Ⅰ［室井　康成］春学期授業/Spring 88
【A3810】民俗学Ⅱ［室井　康成］秋学期授業/Fall 89
【A3811】イスラム世界論Ⅰ［松本　隆志］春学期授業/Spring 90
【A3812】イスラム世界論Ⅱ［松本　隆志］秋学期授業/Fall 91
【A3819】歴史地理学（1）［米家　志乃布］春学期授業/Spring 92
【A3820】歴史地理学（2）［米家　志乃布］秋学期授業/Fall 93
【A3905】社会経済地理学A（1）［坪本　裕之］春学期授業/Spring 94
【A3906】社会経済地理学A（2）［堤　純］秋学期授業/Fall 95
【A3907】社会経済地理学B（1）［甲斐　智大］春学期授業/Spring 96
【A3908】社会経済地理学B（2）［甲斐　智大］秋学期授業/Fall 97
【A3909】社会経済地理学C（1）［佐々木　達］春学期授業/Spring 98
【A3910】社会経済地理学C（2）［佐々木　達］秋学期授業/Fall 99
専門入門科目100番台【A4013】ファイナンス入門［山嵜　輝］春学期授業/Spring 100
専門入門科目100番台【A4022】統計学入門［高橋　慎］春学期授業/Spring 101
専門入門科目100番台【A4023】統計学入門［高橋　慎］秋学期授業/Fall 102
専門入門科目200番台【A4305】会計学入門Ⅰ［近藤　大輔］春学期授業/Spring 103
専門入門科目200番台【A4306】会計学入門Ⅱ［近藤　大輔］秋学期授業/Fall 104
経営学科専門科目200番台【A4353】経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）［中西　善信］春学期授業/Spring ... 105
経営学科専門科目200番台【A4354】経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）［中西　善信］秋学期授業/Fall 106
経営学科専門科目200番台【A4361】キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 107
経営学科専門科目200番台【A4362】キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 108
市場経営学科専門科目200番台【A4465】日本経営論Ⅰ［金　容度］春学期授業/Spring 109
市場経営学科専門科目200番台【A4466】日本経営論Ⅱ［金　容度］秋学期授業/Fall 110
【A6114】Comparative Education［Machiko Kobori］秋学期授業/Fall 111
【A6116】TESOL I: Introduction［Machiko Kobori］春学期授業/Spring 112
【A6207】English Teaching in Primary School［Machiko Kobori］秋学期授業/Fall 113
【A6208】TESOL II: Teaching Methodology［Machiko Kobori］春学期授業/Spring 114
【A9854】社会連携フィールドワーク（ベーシック）［伊藤　マモル］スプリングセッション/Spring Session 115

都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】 マーケティング［林　奈生子］ 秋学期授業/Fall 119
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】 マーケティング［林　奈生子］ 秋学期授業/Fall 121
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 123
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】 エコノミクス［李　江南］ 秋学期授業/Fall 125
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】 エコノミクス［李　江南］ 秋学期授業/Fall 127
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】 エコノミクス［李　江南］ 秋学期授業/Fall 129
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】 現代企業論［境　新一］ 春学期授業/Spring 131
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】 現代企業論［境　新一］ 春学期授業/Spring 133
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】 現代企業論［境　新一］ 春学期授業/Spring 135
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】 都市デザイン［上山　肇］ 春学期前半/Spring(1st half) 137
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】 都市デザイン［上山　肇］ 春学期前半/Spring(1st half) 138
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】 都市デザイン［上山　肇］ 春学期前半/Spring(1st half) .. 139
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】 建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人］ 秋学期授業/Fall 140
【B3581】 デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人、南後　由和］ 秋学期授業/Fall 142
【B3581】 デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人、南後　由和］ 秋学期授業/Fall 144
【B3581】 デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人、南後　由和］ 秋学期授業/Fall 146
【B3590】 アントレプレナーシップ［姜　理惠］ 秋学期前半/Fall(1st half) 148
【C0242】 国際文化協力［松本　悟］ 春学期授業/Spring 150
【C0243】 平和学［松本　悟］ 秋学期授業/Fall 151
【C0245】 Religion and Society ［佐々木　一惠］ 春学期授業/Spring 152
【C0595】 ドイツ語アプリケーション［林　志津江］ 春学期授業/Spring 153
【C0596】 ドイツ語アプリケーション［小川　敦］ 春学期授業/Spring 155
【C0597】 ドイツ語アプリケーション［Ｓｃｈｍｉｄｔ　Ｕｔｅ］ 秋学期授業/Fall 156
【C0625】 フランス語アプリケーション［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 157
【C0626】 フランス語アプリケーション［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 158
【C0627】 フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］ 春学期授業/Spring 159
【C0772】 視覚デザインと文化情報［稲垣　立男］ 春学期授業/Spring 160
【C0814】文化と生物［島野　智之、川上　裕司、黒沼　真由美、松崎　素道、鈴木　忠、富川　光］秋学期授業/Fall 162
【C0815】 文化と環境情報［島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂、吉川　翠、長谷川　真紀子］ 秋学期授業/Fall 163
【C0833】 ソーシャル・プラクティス［稲垣　立男］ 秋学期授業/Fall 165
【C0861】 フィールドワークと表現［稲垣　立男］ 春学期授業/Spring 167
【C0940】 ドイツ語圏の文化Ⅰ ［林　志津江］ 春学期授業/Spring 168
【C0947】 北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］ 秋学期授業/Fall 169
【C0948】 フランス語圏の文化Ⅲ（歴史）［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 170
【C0999】 フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）［廣松　勲］ 春学期授業/Spring 172
【C1046】 地域協力・統合［大中　一彌］ 秋学期授業/Fall 173
【C1048】 実践国際協力［松本　悟］ 秋学期授業/Fall 175
【C1053】 The Global South: History and Politics ［佐々木　一惠］ 秋学期授業/Fall 176
【C2416】 環境科学Ⅰ ［佐々木　大輔］ 春学期授業/Spring 178
【C2417】 環境科学Ⅱ ［佐々木　大輔］ 秋学期授業/Fall 179
【C2430】 環境モデル論Ⅰ ［渡邊　誠］ 春学期授業/Spring 180
【C2559】 現代思想と人間Ⅰ ［竹本　研史］ 春学期授業/Spring 182
【C2560】 現代思想と人間Ⅱ ［竹本　研史］ 秋学期授業/Fall 184
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5062】 学習の社会史B ［寺崎　里水］ 春学期授業/Spring 185
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5089】 アート・マネジメント論［山口　佳子］ 春学期授業/Spring 186
関連科目【C5298】 就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- ［上西　充子、梅崎　修］ 秋学期授業/Fall . 188
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1445】 日本史ＬⅠ ［貫井　裕恵］ 春学期授業/Spring 190
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1446】 日本史ＬⅡ ［貫井　裕恵］ 秋学期授業/Fall 191
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】 美術論A［稲垣　立男］ 春学期授業/Spring 192

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】 美術論Ｂ［稲垣　立男］ 秋学期授業/Fall 195
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】教養ゼミⅠ［犬塚　元］春学期授業/Spring 197
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】 教養ゼミⅡ［犬塚　元］ 秋学期授業/Fall 198
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語Ａ［林　志津江］ 春学期授業/Spring 199
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語Ｂ［林　志津江］ 秋学期授業/Fall 201
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】 教養ゼミⅠ［上田　知夫］ 春学期授業/Spring 203
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】 ドイツの思想Ａ［大久保　歩］ 春学期授業/Spring 204
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】 ドイツの思想Ｂ［大久保　歩］ 秋学期授業/Fall 205
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ａ［丸山　達也］ 春学期授業/Spring 206
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ［丸山　達也］ 秋学期授業/Fall 207
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6433】 ドイツ語圏の芸術Ａ［林　志津江］ 春学期授業/Spring 208
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6434】 ドイツ語圏の芸術Ｂ［林　志津江］ 秋学期授業/Fall 210
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】 ドイツ語圏の公共哲学Ａ［吉田　敬介］ 春学期授業/Spring 212
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】 ドイツ語圏の公共哲学Ｂ［吉田　敬介］ 秋学期授業/Fall 213
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】 ドイツ語圏の歴史Ａ［辻　英史］ 春学期授業/Spring 214
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】 ドイツ語圏の歴史Ｂ［辻　英史］ 秋学期授業/Fall 216
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6527】 教養ゼミⅠ［伊藤　マモル］ オータムセッション/Autumn Session 218
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6528】 教養ゼミⅡ［伊藤　マモル］ スプリングセッション/Spring Session 221
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】 第三外国語としてのフランス語Ａ［江澤　健一郎］ 春学期授業/Spring 224
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】 第三外国語としてのフランス語Ｂ［江澤　健一郎］ 秋学期授業/Fall 225
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】 教養ゼミⅠ［大中　一彌］ サマーセッション/Summer Session 226
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】 教養ゼミⅡ［大中　一彌］ オータムセッション/Autumn Session 228
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】 教養ゼミⅠ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 230
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】 教養ゼミⅡ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 232
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中･上級)Ａ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 234
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中･上級)Ｂ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 236
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6613】 フランス語講読Ａ［大池　惣太郎］ 春学期授業/Spring 238
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6614】 フランス語講読Ｂ［大池　惣太郎］ 秋学期授業/Fall 239
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】 第三外国語としての中国語Ａ［渋井　君也］ 春学期授業/Spring 240
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】 第三外国語としての中国語Ｂ［渋井　君也］ 秋学期授業/Fall 241

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】 第三外国語としての中国語中級Ａ［木村 佳代子］ 春学期授業/Spring 242
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】 第三外国語としての中国語中級Ｂ［木村 佳代子］ 秋学期授業/Fall 243
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】 中国語視聴覚中級Ａ［劉　渇氷］ 春学期授業/Spring 244
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】 中国語視聴覚中級Ｂ［劉　渇氷］ 秋学期授業/Fall 245
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】 中国語作文中級Ａ［楊　心苗］ 春学期授業/Spring 246
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】 中国語作文中級Ｂ［楊　心苗］ 秋学期授業/Fall 247
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】 中国語コミュニケーション中級Ａ［周　重雷］ 春学期授業/Spring 248
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】 中国語コミュニケーション中級Ｂ［周　重雷］ 秋学期授業/Fall 249
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6813】 中国語翻訳･通訳Ｃ［王　安］ 春学期授業/Spring 250
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6814】 中国語翻訳･通訳Ｄ［王　安］ 秋学期授業/Fall 251
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6819】 資格中国語中級Ａ［渡辺　昭太］ 春学期授業/Spring 252
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6820】 資格中国語中級Ｂ［渡辺　昭太］ 秋学期授業/Fall 254
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】 資格中国語上級Ａ［任　麗潔］ 春学期授業/Spring 256
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】 資格中国語上級Ｂ［任　麗潔］ 秋学期授業/Fall 257
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4297】 ドイツの文化と社会ＬＡ［小川　敦］ 春学期授業/Spring 258
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4298】 ドイツの文化と社会ＬＢ［小川　敦］ 秋学期授業/Fall 259
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5271】 フランス語の世界ＬＡ［廣松　勲］ 春学期授業/Spring 260
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5272】 フランス語の世界ＬＢ［廣松　勲］ 秋学期授業/Fall 262
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ［ニコラ　ガイヤール］ 春学期授業/Spring 264
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ［ニコラ　ガイヤール］ 秋学期授業/Fall 265
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R5277】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ［廣松　勲］ 春学期授業/Spring 266
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R5278】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ［南　玲子］ 秋学期授業/Fall 268
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5279】 時事フランス語Ⅰ［大中　一彌］ 春学期授業/Spring 270
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5280】 時事フランス語Ⅱ［大中　一彌］ 秋学期授業/Fall 273
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5291】 フランスの文化と社会ＬＡ［鈴木　正道］ 春学期授業/Spring 276
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5292】 フランスの文化と社会ＬＢ［鈴木　正道］ 秋学期授業/Fall 278
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5295】 フランス生活文化論ＬＡ［梶谷　彩子］ 春学期授業/Spring 280
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5296】 フランス生活文化論ＬＢ［梶谷　彩子］ 秋学期授業/Fall 282

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7413】中国語コミュニケーション初級Ⅰ ［周　重雷］ 春学期授業/Spring 284
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7414】中国語コミュニケーション初級Ⅱ ［周　重雷］ 秋学期授業/Fall 285
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7437】 資格中国語初級Ⅰ ［青木　正子］ 春学期授業/Spring 286
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7438】 資格中国語初級Ⅱ ［青木　正子］ 秋学期授業/Fall 287
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7445】 中国語の世界ＬＡ［髙柳　浩平］ 春学期授業/Spring 288
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7446】 中国語の世界ＬＢ［髙柳　浩平］ 秋学期授業/Fall 289
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7447】 中国の文化と社会ＬＡ［山本　律］ 春学期授業/Spring 290
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7448】 中国の文化と社会ＬＢ［山本　律］ 秋学期授業/Fall 291
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7449】 中国の文化と社会ＬＣ［陳　瀟瀟］ 春学期授業/Spring 292
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7450】 中国の文化と社会ＬＤ［陳　瀟瀟］ 秋学期授業/Fall 294

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅰ

金子　匡良

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律1年A-G・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】
①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
②日本国憲法の基本原理、特に国民主権の規範内容について理解する。
③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材にして、対面の講義形式で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史①：明治憲法の成立と運用	明治憲法の成立経緯とその特徴、および明治憲法の運用上の問題点について学ぶ。
第7回	日本憲法史②：日本国憲法の成立とその法的問題点	日本国憲法の成立経緯とそこにおける法的問題点について学ぶ。
第8回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第9回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第10回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の解釈について学ぶ。
第11回	人権の特質と類型	人権の類型と個々の人権の特質ついて学ぶ。
第12回	新しい人権	幸福追求権とそこから導き出される新しい人権について学ぶ。
第13回	人権の享有主体①：天皇・皇族の人権、法人の人権	人権の享有主体のうち、天皇・皇族と法人の人権享有主体性について学ぶ。
第14回	人権の享有主体②：外国人の人権	人権の享有主体のうち、外国人の人権享有主体性について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】
入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2025年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】
理解度向上のために、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】
In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 II

金子　匡良

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律1年A-G・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】
①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
②個々の人権の保障内容について理解する。
③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の限界	人権の限界としての公共の福祉の解釈、および比較衡量等の審査手法について学ぶ。
第3回	人権適用の制約	私人間における人権制約や特別権力関係における人権制約などについて学ぶ。
第4回	法の下の平等	法の下の平等の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第8回	表現の自由①：表現の自由の意義	表現の自由の意義と表現の自由に関する違憲審査基準について学ぶ。
第9回	表現の自由②：表現の自由の限界	プライバシー侵害表現や名誉毀損的表現など、表現の自由と他の法益との調整について学ぶ。
第10回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第11回	参政権	参政権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	身体的自由権	身体的自由権、特に適正手続の保障の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】
入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2025年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】
理解度を高めるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four
hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅰ

髙橋　正明

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律1年H-N・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法総論及び人権総論について学び、これらの分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】
①基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
②憲法が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法を学ぶ上での前提知識	授業の全体像、授業の進め方、参考書について説明する。 憲法と法律の違い、法解釈の方法について学ぶ。
第2回	憲法の意味 判例の意味 統治機構・権力分立	学習上、最初に理解しておくべき憲法の基本概念・用語（憲法の意味、判例の意味、統治機構の概要）について学ぶ。
第3回	日本憲法史 国民主権	明治憲法と日本国憲法それぞれの制定・運用過程について検討し、その違い・特徴を学ぶ。 国民主権の意味について学ぶ。
第4回	象徴天皇制 平和主義（1）	象徴天皇制に関する諸論点について学ぶ。 憲法9条の解釈、自衛隊を巡る問題などについて学ぶ。
第5回	平和主義（2）	憲法9条に関連する判例や、集団的自衛権の問題について学ぶ。
第6回	違憲審査制 人権の分類・歴史	憲法判例を分析する上で前提となる違憲審査制の概要について学ぶ。 人権の分類とそれぞれの特徴、人権の歴史的展開について学ぶ。
第7回	人権の限界 人権の主体（1）	公共の福祉、違憲審査の基準について学ぶ。 法人の人権について学ぶ。
第8回	人権の主体（2）	こども、天皇・皇族、外国人の人権（総論・在留制度）について学ぶ
第9回	人権の主体（3）	外国人の参政権、外国人に認められるその他の人権について学ぶ。
第10回	人権の私人間適用	私人間効力の基本的考え方、判例や具体的な適用方法について学ぶ。
第11回	幸福追求権（1）	幸福追求権の基本的な考え方、自己決定権（医療行為関係）について学ぶ。
第12回	幸福追求権（2）	自己決定権（生殖、ライフスタイル、家族形成）について学ぶ。
第13回	幸福追求権（3）	プライバシー権（個人情報保護）について学ぶ。
第14回	平等－総論	平等問題についての基本的な考え方や判例の判断枠組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。
授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】
【基本書】
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法2　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
【判例集】
＜入門的なもの＞
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
＜標準的なもの＞
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第8版（有斐閣、2025年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
話すスピードも含め、演習問題の解説をより丁寧に行うようにしたい。

【その他の重要事項】
①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this course, students will learn the general theories of constitutional law and human rights, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.
< Learning Objectives >
The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific constitutional issues logically, to know the role of constitution in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.
< Learning activities outside of classroom >
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policies >
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 II

髙橋　正明

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律1年H-N・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法に規定された個別の人権規定について学び、人権各論分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】
①人権各論分野に関する基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
②憲法、とりわけ個別の人権規定が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 前期授業の振り返り 平等（2）－家族形成	秋学期授業の進め方について説明する。 憲法訴訟の基本枠組みと、人権論の基本的考え方について確認をする。 平等の各論的問題として家族形成に関する判例について学ぶ。
第2回	思想・良心の自由	思想・良心の自由に関する基本的な考え方と、判例の展開（君が代伴奏・起立斉唱）について学ぶ。
第3回	信教の自由と政教分離（1）	信教の自由に関する判例について学ぶ。
第4回	信教の自由と政教分離（2）	政教分離に関する判例について学ぶ。
第5回	表現の自由（1）	表現の自由の特徴（優越的地位、二重の基準）について説明した上で、判例を素材に内容規制・内容中立規制について学ぶ。
第6回	表現の自由（2）	表現の自由とプライバシー・名誉毀損との調整問題について判例を素材に学ぶ。
第7回	集会の自由 学問の自由	集会の自由に関する判例について学ぶ。 学問の自由の意味や現代的課題について学ぶ。
第8回	経済的自由権（1）	職業選択の自由の意義や関連する判例について学ぶ。
第9回	経済的自由権（2）	財産権に関する基本的考え方や、判例の展開について学ぶ。
第10回	生存権	生存権の法的性格や、判例理論について学ぶ。
第11回	教育を受ける権利 労働基本権	教育を受ける権利の法的性格について学ぶ。 労働基本権の法的性格、関連する判例について学ぶ。
第12回	公務員の労働基本権及び政治活動の自由	公務員の労働基本権、政治活動の自由に対してどのような制約があるかを確認し、関連する判例の展開について学ぶ。
第13回	刑罰・刑事手続に対する憲法の規律	憲法31条の適正法定手続の内容と、関連する判例について学ぶ。
第14回	参政権 国務請求権	参政権の性質及び関連する判例について学ぶ。 国務請求権の性格・種類について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。
授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】
【基本書】
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
【判例集】
＜入門的なもの＞
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
＜標準的なもの＞
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第8版（有斐閣、2025年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
話すスピードも含め、演習問題の解説をより丁寧に行うようにしたい。

【その他の重要事項】
①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】
< Course outline>
In this course, students will learn about constitutional rights guaranteed by individual constitutional provisions, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.
< Learning Objectives>
The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific human rights issues logically, to know the role of constitutional rights in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.
< Learning activities outside of classroom>
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policies>

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法III

國分　典子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】
　日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的変化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
　学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを行います。
　質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的変化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（１）	国会の権限と活動
6	国会（２）	国会議員の地位
7	内閣（１）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（２）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（１）	司法の機能
11	裁判所（２）	司法権の限界
12	裁判所（３）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。
　新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権』『憲法２　統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第２版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第８版（有斐閣、2025年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】
This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.
At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法IV

國分　典子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】
日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを行います。
質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（１）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（２）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（３）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（４）	判例の展開
5	違憲審査制（５）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（１）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（２）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（３）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（４）	判例の分析
11	財政（１）	財政民主主義
12	財政（２）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。
　新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権』『憲法２　統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第８版（有斐閣、2025年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective
(Learning Activities outside of Classroom)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法 II

國分　典子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を発展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】
日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。
受講者数によりますが、時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の発展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。
第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。
第14回	東アジアにおける日本・日本法	戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中国や韓国の憲法条文を参照するために：
初宿正典・辻村みよ子編『新解説　世界憲法集』第５版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのでも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】
尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）、等。

【成績評価の方法と基準】
時々出してもらうリアクションペーパーをもって平常点とし、平常点30％と学期末の筆記試験70％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】
〈Course Outline〉
This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.
〈Learning Objectives〉
By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are expected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.
〈Learning activities outside of classroom〉
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
〈Grading Criteria〉
Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 I

松田　浩道

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。
それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は大別して、以下の3つの要素からなります。
1）教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
2）教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
3）学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する
毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。
プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する。
2	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
3	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
4	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
5	子どもの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第1章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
6	高齢者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第2章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
7	障害者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第3章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
8	ジェンダーに基づく暴力とハラスメント	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第4章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
9	「慰安婦」問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第5章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
10	性的マイノリティ / LGBTQの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第6章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
11	部落差別問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第7章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
12	先住民族の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第8章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
13	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5
小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】
教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー 20%
グループ・プレゼンテーション 40%
期末試験（教科書持ち込み可）40%
リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。
グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に応答しているか、という点を評価対象とする。
期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目

【Outline (in English)】
This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.
Participants are expected, at the end of this module, to be able to;
- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.
Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 II

松田　浩道

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際人権法Iに引き続き、国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。
　それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は大別して、以下の3つの要素からなります。
1）教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
2）教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
3）学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する
毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。
プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する
第2回	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
第3回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
第4回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
第5回	外国人の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第9章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第6回	難民と庇護希望者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第10章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第7回	ヘイトスピーチ・ヘイトクライム問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第11章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第8回	刑事手続の人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第12章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第9回	ビジネスと人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第13章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第10回	感染症と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第14章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第11回	環境と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第15章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第12回	平和と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第16章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第13回	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。
　本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5
小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】
教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー 20%
グループ・プレゼンテーション 40%
期末試験（教科書持ち込み可）40%
リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。
グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に応答しているか、という点を評価対象とする。
期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目

【Outline (in English)】
This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.
Participants are expected, at the end of this module, to be able to;
- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.
Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木　貴史

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。
　この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、都合により一部オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源
第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所　2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間レポート、期末テストを、それぞれ実施します。
［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
［中間レポート］2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
［期末テスト］5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料については比較的評価が高かったので継続して利用します。中間レポートに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline
In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In this lecture, students learn about the framework of individual labor &employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-midterm exam(20%)
-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木　貴史

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。
　この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当
第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
　到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。
・［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・［期末テスト］7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田　雅之

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。
◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１〜３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月7日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、労働法とは？	講義内容や評価方法について 労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤー(1)	労働者について
第4回	労働関係のプレイヤー(2)	使用者について
第5回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第6回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第7回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第8回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第9回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第10回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第11回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第12回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第13回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第14回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇―労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」（労働法律旬報2095+2096号、」2026年）
「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」（労働法律旬報2078号、2025年）
「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報（2071+2072号、2025年）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号、2023年）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号、2023年）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号、2023年」）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号、2023年」）
「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号、2022年）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. A basic principles of labor law;
－2. A Labor Contract Act;
－3. A case law concerning the Labor Contract Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田　雅之

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。
　法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。
　「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。
◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１〜３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月22日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について
第2回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第3回	労働者のプライバシー	個人情報保護法の労働関係への適用と労働者のプライバシーの尊重について
第4回	賃金（1）	賃金の定義、最低賃金規制について
第5回	賃金（2）	賃金支払規制について
第6回	賃金（3）	休業手当、賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第7回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第8回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第9回	労働時間規制（3）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制の残りの論点について
第10回	フレキシブルな労働時間制度	労働時間制・フレックスタイム制について
第11回	みなし労働時間制について	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第12回	労働時間規制の適用場外について	労働基準法41条及び同法41条の2の例外について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】
シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）

（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】
「派遣労働者の均等・均衡処遇―労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」（労働法律旬報2095+2096号、」2026年）
「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」（労働法律旬報2078号、2025年）
「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報（2071+2072号、2025年）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号、2023年）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号、2023年）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号、2023年」）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号、2023年」）
「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号、2022年）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. About a Labor Standards Act;
－2. A case law concerning the Labor Standards Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

労働組合法

藤木　貴史

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働組合法では、労働法のうち、集団的労働法に関する基礎的部分を扱います。労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。
　この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる

【到達目標】
①集団的労働法の基礎的な知識を習得する。
②集団的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働組合法総論	・労働組合法の意義/目的 ・憲法28条の規範的意義と法的効果 ・労働組合法上の労働者・使用者
第2回	公務労働と団結権保障	・憲法28条の効果 ・公務員法制
第3回	不当労働行為（1）	・行政救済の特徴 ・救済の名宛人
第4回	不当労働行為（2）	・不利益取扱い ・支配介入
第5回	団結権（1）	・労働組合の組織的類型 ・法内組合
第6回	団結権（2）	・ユニオン・ショップ協定 ・統制処分
第7回	団体行動権（1）	・団体行動の類型 ・団体行動の正当性（主体、目的）
第8回	団体行動権（2）	・団体行動の正当性（態様）
第9回	団体行動権（3）	・団体行動と賃金 ・使用者側の対抗手段 ・損害賠償責任
第10回	映像で学ぶ労働法	・期末テストに向けて ・映像で学ぶ労働法
第11回	団体交渉権（1）	・交渉類型 ・団体交渉の相手方、当事者 ・団交応諾義務
第12回	団体交渉権（2）	・誠実交渉義務 ・中立保持義務
第13回	労働協約（1）	・労働協約の規範的効力・債務的効力
第14回	労働協約（2）	・労働協約の不利益変更

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の講義音声を聞きなおしましょう（オンライン授業時）。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
三井正信『基本労働法III』（成文堂、２０１４年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
①藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）
②西谷敏『労働組合法〔第3版〕』有斐閣（2012年）
③日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

【成績評価の方法と基準】
到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。
・［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・［期末テスト］7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
教材については好評でしたので継続します

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。また、労働法特論、社会政策論との並行履修を強くすすめます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識が必要です（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）。
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・六法／法令集は授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
・授業中の感染症予防のため、マスク着用を推奨します（義務ではありません）。

【Outline (in English)】
Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers are less powerful than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a field of law that prevents these difficulties and imposes various regulations so that people can live like human beings.

Labor Union Law deals with the basic part of labor law that relates to collective labor law. It is desirable for students to have taken General Labor Law, Labor Contract Law, and Labor Standards Law.

Learning Objectives

(1) Acquire basic knowledge of collective labor laws.

(2) To be able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with collective labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

[Quiz] 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

[Final exam] 70% (to determine whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions and case study questions).

LAW300AB（法学 / law 300）

労働法特論

細川　良

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。
　法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
２．授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください※
・本講義は、対面授業とします。
※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、ZoomまたはWebexを使用します。
・授業の進め方の説明に関しては、第1回の講義の中でガイダンスを実施します。シラバス執筆時点（2026年2月）では、第1回授業も対面でガイダンス＆通常講義を実施することを考えていますが、状況により初回はオンデマンドでガイダンスの動画を配信する形に変更する可能性があります。学習支援システム「HOPPII」等を通じたお知らせで確認するようにしてください。
・授業計画に記されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める予定です。
・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後にて対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第3回	性差別の禁止（１）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（２）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（１）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（２）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（１）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（２）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等ついて学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人労働	外国人労働者の就労と関連する法制度、法政策について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に教科書等で予習のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
＊その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】
試験（100点）
・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせて出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることになります。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。ただし、授業実施期間中でも指摘があれば（できる限りとはなりますが）対応していきたいとは考えていますので、遠慮なく要望等をお寄せください。

【学生が準備すべき機器他】
・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomないしWebexを利用可能な端末。
・レジュメ等はPDFデータで提供することを想定しているため、データを保存・表示可能な端末があることが望ましいです（履修者が常識的な範囲であれば、紙媒体でのレジュメ配布も想定しています）。

【その他の重要事項】
・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。
・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。
【実務経験のある教員による授業】
講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人　労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚労省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.
The outline is as follows:
－1. A law on non-regular workers;
－2. The Law of the Labor Market;
－3. A law on Employment of the Elderly;
－4. A law on Employment of Persons with Disabilities.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－Term-end examination: 100%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会保障法 I

沼田　雅之

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。しがたって、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。
　社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】
１．社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
２．生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
３．１～２で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第3回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第4回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第5回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第6回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。
第7回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の原則ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。
第8回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第9回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第10回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第11回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第12回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第13回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。
第14回	総合研究	社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】
・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第20版）』（信山社、2026年4月刊行予定）
・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）
このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】
「派遣労働者の均等・均衡処遇―労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」（労働法律旬報2095+2096号、」2026年）
「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」（労働法律旬報2078号、2025年）
「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報（2071+2072号、2025年）

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号、2023年）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号、2023年）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号、2023年」）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号、2023年」）
「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号、2022年）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law.
The outline is as follows:
－ 1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
－ 2. Japanese Public Assistance Act;
－ 3. Welfare law for people with disabilities;
－ 4. Elderly Welfare law;
5. Child Welfare Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ A. Be able to explain the definition of social security law, general matters such as legal system, and outline of public assistance law and welfare law.
－ B. You will be able to persuasively discuss your views on the legal issues of the Public Assistance Act and the Welfare Act.
－ C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems in the field of public assistance and social welfare that are expected in the real world with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－ a. Term-end examination: 80%
－ b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会保障法 II

沼田　雅之

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。
　社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】
１．社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
２．社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
３．１～２で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	医療保障（１）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第3回	医療保障（２）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第4回	医療保障（３）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第5回	医療保障（４）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第6回	年金保険（１）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。
第7回	年金保険（２）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第8回	年金保険（３）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第9回	年金保険（４）	年金分割制度等について説明する。
第10回	労災保険（１）	労災保険法の概要、同法で使用される諸概念について説明する。
第11回	労災保険（２）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第12回	労災保険（３）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第13回	雇用保険（１）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第14回	雇用保険（２）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】
・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」（http://www.hatataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html）
・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第20版）』（信山社、2026年4月刊行予定）
・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】
事前に社会保障法Ｉを履修していることがのぞましい。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】
「派遣労働者の均等・均衡処遇―労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」（労働法律旬報2095+2096号、」2026年）
「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」（労働法律旬報2078号、2025年）
「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報（2071+2072号、2025年）

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号、2023年）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号、2023年）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号、2023年」）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号、2023年」）
「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号、2022年）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.
The outline is as follows:
－ 1. Japanese Health Insurance Act;
－ 2. Japanese Pension Insurance Law;
－ 3. Lapanese Unemployment Insurance Law.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ A. You will be able to explain the outline of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
－ B. You will be able to persuasively discuss your own views on the legal issues of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
－ C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems of social insurance law that are assumed in the real world with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－ a. Term-end examination: 80%
－ b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅰ

村元　宏行

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
　伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
　そのような状況を踏まえて、教育法Ⅰでは教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】
　教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
　この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第3回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第4回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第5回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第6回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第7回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第8回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第9回	教育権―学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第10回	教育権―学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第11回	教育権―教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第12回	教育権―教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第13回	教育権―学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第14回	教育権―学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法　2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができているか評価します。
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）
・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】
　履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法 II

村元　宏行

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法IIでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】
子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。
近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原理について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法　2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができているか評価します。
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）
・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】
その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

比較政治論Ⅰ

新川　敏光

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義では、欧米における近代国民国家の様々な発展パターンを民主主義と資本主義経済に焦点をあて、比較検討する。

【到達目標】
　現代政治の諸問題を、歴史的空間比較の視座（比較歴史制度発展論）から、体系的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義方式によって行う。
二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、講義全般に関するまとめと質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治範型である自由民主主義についてモデル化する。
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。
第一二回	福祉国家と資本主義の多様性	福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。
第一三回	福祉国家の影	福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で教科書のどこを取り扱うかについては毎回事前に学習支援システムで通知するので、あらかじめ当該箇所を読んで、わからない言葉などは調べておくこと。講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。教科書以外の資料を用いる場合は、教材としてアップロードする。

【テキスト（教科書）】
新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅱにおいても使用する。

【参考書】
新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業内アンケートと筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業内アンケートを数回程度行うほか、個別の面談も必要に応じて行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】
本講義は、内容的に秋学期の比較政治論Ⅱに連続している。

【Outline (in English)】
　This course aims to compare various patterns of nation-state development, focusing on democracy and capitalism.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

比較政治論 II

新川　敏光

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治経済の変化について、欧米を中心に検討する。
　なお本講義は、比較政治論Iと相互補完的内容となっているので、本講義の前にIを受講することが望ましい。

【到達目標】
　本講義では、20世型国民国家パラダイムともいうべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォーディズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する
第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一回	リベラル・ナショナリズムと多文化主義	右翼ポピュリズムへの対抗基軸としての利部ある・ナショナリズムとその具体的展開として多文化主義を紹介する。
第一二回	パトリオティズム	ナショナリズムとは異なるパトリオティズムの可能性として、共和主義パトリオティズムと憲法パトリオティズムを紹介する。
第一三回	民主主義の可能性と市民社会の再生	民主主義の危機とその克服について、市民社会の再生をめざす運動から考える。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で教科書のどこを取り扱うかについては毎回事前に学習支援システムで通知するので、あらかじめ当該箇所を読んで、わからない言葉などは調べておくこと。講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。教科書以外の資料を用いる場合は、教材としてアップロードする。

【テキスト（教科書）】
新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Iにおいても用いる。教科書以外の資料は、教材として学習支援システムにアップロードする。

【参考書】
新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）
新川敏光他『政治学』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業内アンケートと筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義内で数回程度アンケートを実施するほか、必要に応じて個人面談を行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】
比較政治論IIはIを前提としているので、Iを先に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course aims to clarify the transformation of the 20th century paradigm of political economy by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization. Taking Comparative Politics I before II is highly recommended due to their　complementarity.

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法IV

國分　典子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】
日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを行います。
質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（１）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（２）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（３）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（４）	判例の展開
5	違憲審査制（５）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（１）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（２）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（３）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（４）	判例の分析
11	財政（１）	財政民主主義
12	財政（２）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。
　新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権』『憲法２　統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第８版（有斐閣、2025年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective
(Learning Activities outside of Classroom)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法III

國分　典子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】
　日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的変化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
　学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを行います。
　質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的変化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（１）	国会の権限と活動
6	国会（２）	国会議員の地位
7	内閣（１）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（２）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（１）	司法の機能
11	裁判所（２）	司法権の限界
12	裁判所（３）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。
　新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権』『憲法２　統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第２版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第８版（有斐閣、2025年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】
This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.
At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

POL100AD（政治学 / Politics 100）

戦後国際関係史

高橋　和宏

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、第二次世界大戦後から現在に至るまでの国際関係史を学ぶ授業です。冷戦前半（冷戦の勃発から激化）、冷戦後半（緊張緩和から「新冷戦」へ）、冷戦終結後という3つの時期について、異なる地域を専門とする4人の教員が順番に講義を行い、国際関係の歴史を多面的に説明します。この授業を通じて、受講生は、国際問題を様々な角度から理解する力を身につけることを目指します。

【到達目標】
（1）現代の国際問題の起源にどのような歴史的背景があるのかを説明できる
（2）国際関係の重要な事件について、異なる立場から多角的に論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行います。冷戦前半、冷戦後半、冷戦終結後という3つの時期について、アメリカ（青野利彦）、ソ連・ロシア（熊倉潤）、欧州（宮下雄一郎）、アジア（高橋和宏）、という4人の教員が、それぞれの専門の視点から順に講義をします。関連教材は、学習支援システムを通じて事前に配布される予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、参考文献、評価方法などについての説明
2	冷戦の勃発と激化（1）	アメリカの視点からの講義
3	冷戦の勃発と激化（2）	ソ連の視点からの講義
4	冷戦の勃発と激化（3）	欧州の視点からの講義
5	冷戦の勃発と激化（4）	アジアの視点からの講義
6	緊張緩和から「新冷戦」へ（1）	アメリカの視点からの講義
7	緊張緩和から「新冷戦」へ（2）	ソ連の視点からの講義
8	緊張緩和から「新冷戦」へ（3）	欧州の視点からの講義
9	緊張緩和から「新冷戦」へ（4）	アジアの視点からの講義
10	冷戦終結後の世界の変容（1）	アメリカの視点からの講義
11	冷戦終結後の世界の変容（2）	ロシアの視点からの講義
12	冷戦終結後の世界の変容（3）	欧州の視点からの講義
13	冷戦終結後の世界の変容（4）	アジアの視点からの講義
14	今学期のまとめ	担当教員による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
モーリス・ヴァイス（細谷雄一、宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史: 二極化世界から混迷の時代へ』慶應義塾大学出版会、2018年
小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史 – 主権国家体系のあゆみ［新版］』有斐閣、2024年
有賀貞『現代国際関係史　1945年から21世紀初頭まで』東京大学出版会、2019年
森聡・福田円編『入門講義　戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年
青野利彦『冷戦史（上・下）』中公新書、2023年
沈志華編（熊倉潤訳）『中ソ関係史　上・下』東京大学出版会、2024年

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
担当する各講義の間に一定の期間があるため、連続性に留意して授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません

【Outline (in English)】
(Course outline and objectives)
This course covers the history of international relations after WWII. Four teachers give lectures from different regional perspectives so that students will acquire comprehensive knowledge of international history.
(Learning activities outside of the classroom)
Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination(100%).

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究 II

権　鎬淵

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。
　これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】
平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。
　毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小リポートに対する講評や解説も行う。
　授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題１	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核３原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画Ⅱ	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略
第14回	韓国の軍事政策	北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.
The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace , and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

朝鮮半島の政治と社会 I

権　鎬淵

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】
朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。
　授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	４・１９学生革命と５・１６軍事クーデター	４・１９学生革命と５・１６軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵, 文在寅、尹錫悦 李在明政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に開示する

【参考書】
孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】
This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).
The aim of this course is to help students understand the political system and it situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

朝鮮半島の政治と社会 II

権　鎬淵

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】
南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。
　授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小リポートに対する講評や解説も行う。
　授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度１	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度２	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題１	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題２	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年

【参考書】
授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（20％）、課題（０～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】
This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).
The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究Ⅰ

権　鎬淵

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。
　この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】
平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。
　被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。
　授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。
第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に開示する

【参考書】
授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.
It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation　issues.
The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

現代政策学特講Ⅰ（千代田区）

杉崎　和久

授業形式：講義　｜　開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session
単位数：2単位
備考（履修条件等）：抽選科目※申請方法については法学部HPを参照（6月案内予定）

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする2単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察すること。
なお、沖縄県の２大学（沖縄大学・名桜大学）、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生も受講可能となっている。

【到達目標】
千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性（課題、魅力等）を理解し、課題解決のための方法を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、オータムセッション期間を含む４日間（９月１４日～１７日：予定）に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義も行う。
なお、事前学習や講義や実習では小レポート提出をする。また授業の最後にグループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、必要に応じて、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
8月下旬	オリエンテーション	授業の進め方および目的について説明する（オンデマンド）。
8月下旬	事前学習「千代田区概論」	対象となる千代田区に概観を解説する（オンデマンド）。
9月10日午前	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9月10日午後	講義：千代田区の政策について	対象となる千代田区行政による取り組みについて、ゲストからの話題提供を行う。
9月11日午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月11日午後	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日午後	グループワーク	調査報告のための作業を行う。
9月13日午前	成果発表	グループごとに、調査報告や地域の課題解決や発展に関する提案の発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間での作業が必要になる場合がある。
また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループ別発表の評価（40％）、最終個人レポートの評価（10％）、小レポートの評価（50％）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【学生が準備すべき機器他】
授業は、対面で行うが、グループ発表とその準備のためにパソコンを使用することを想定している。また、資料配布はデータ配布、事前学習はオンデマンド教材利用することから、オンライン環境が必要になる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.
To acquire the ability to grasp the characteristics of the region and propose methods for solving problems.
You work outside of classroom to prepare for on-site training and presentations.
Grading will be decided based on group presentation（40％）,term-end report（10％）,and short report（50％）.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ヨーロッパ政治史Ⅰ

網谷　龍介

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものです．これは歴史上のさまざまな社会事象・問題を政治学的見地から的確に分析し，創造的かつ総合的に判断するための知識と技能の涵養に資するものです．原則として対面の講義形式で行われます．

【到達目標】
学生はこの授業を通じて以下を身につけることが期待されています．
(1)ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略の理解
(2)各社会の対応のヴァリエーションの類型化と理解
(3)ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
学生には概ね2週につき1通の授業前課題を提出することが求められます．授業前課題はテキストの指定部分を読み，設問に答えるとともに疑問やコメントを付すものです．これを基礎として，授業時間中には理解が不足している部分の補足や，発展的内容を中心に講じます．授業後課題として，毎回授業内容に対する疑問やコメントを提出することが要求されます．これにより学生の理解度を確認しながら，授業は進めていきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：ヨーロッパの政治発展の概観	内容の導入を行うとともに，「国民国家」[自由主義化]「民主化」といった前提的な項目について説明する．
2	オランダ・ベルギー(1)	テキスト第7章の内容を踏まえてオランダやベルギーの政治発展を，「柱」という観点から検討する．
3	オランダ・ベルギー(2)	テキスト第7章の内容を踏まえてオランダやベルギーの政治発展を，「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する．
4	北欧諸国(1)	テキスト第8章の内容を踏まえて北欧諸国の政治発展を，「社会的亀裂」という観点をから検討する．
5	北欧諸国(2)	テキスト第8章の内容を踏まえて北欧諸国の政治発展を，「福祉国家」という観点をから検討する
6	ドイツ(1)	テキスト第3章の内容を踏まえてドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する．
7	ドイツ(2)	テキスト第3章の内容を踏まえてドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する．
8	イギリス(1)	テキスト第5章の内容を踏まえてイギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する．
9	イギリス(2)	テキスト第5章の内容を踏まえてイギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する．
10	フランス(1)	テキスト第4章の内容を踏まえてフランスの政治発展を，「議会主権体制」という観点から検討する．
11	フランス(2)	テキスト第4章の内容を踏まえてフランスの政治発展を，「半大統領制」という観点から検討する．
12	イタリア(1)	テキスト第6章の内容を踏まえてイタリアの政治発展を，「自由主義と政治的クライエンテリズム」という観点をから検討する．
13	イタリア(2)	テキスト第6章の内容を踏まえてイタリアの政治発展を，「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する．
14	20世紀ヨーロッパのデモクラシーとは何だったか	テキスト第1章の内容を踏まえて，全体像を確認する内容で講義します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版，2014年．

【参考書】
中山洋平，水島治郎『ヨーロッパ政治史〔改訂版〕』放送大学教育振興会，2024年．
マーク・マゾワー 『暗黒の大陸：ヨーロッパの20世紀』未来社，2015年．

【成績評価の方法と基準】
学期末試験52.5%:テキストの内容を基礎としつつ授業を通じて深めた理解を問う問題を出題する教場試験
授業前課題28%:テキストの指定個所を読み，設問に答えるとともにコメントや疑問を記載する
授業後課題19.5%:授業の内容についてコメントや疑問を記載する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course provides an overview of modern and contemporary European history from the perspective of political development.It contributes to cultivating the knowledge and skills necessary to accurately analyze various historical social phenomena and issues from a political science perspective and make creative and comprehensive judgments. The course will be conducted primarily in a face-to-face lecture format.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ヨーロッパ政治史 II

網谷　龍介

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものです．これは歴史上のさまざまな社会事象・問題を政治学的見地から的確に分析し，創造的かつ総合的に判断するための知識と技能の涵養に資するものです．原則として対面の講義形式で行われます．

【到達目標】
学生はこの授業を通じて以下を身につけることが期待されています．
(1)ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略の理解
(2)各社会の対応のヴァリエーションの類型化と理解
(3)ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
学生には概ね2週につき1通の授業前課題を提出することが求められます．授業前課題はテキストの指定部分を読み，設問に答えるとともに疑問やコメントを付すものです．これを基礎として，授業時間中には理解が不足している部分の補足や，発展的内容を中心に講じます．授業後課題として，毎回授業内容に対する疑問やコメントを提出することが要求されます．これにより学生の理解度を確認しながら，授業は進めていきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う．
2	ヨーロッパの社会変容と政治変動	テキスト第1章の内容を踏まえて第二次大戦後のヨーロッパ社会の変化とそこにおける政治変動のトレンドを概観する．
3	イギリス(1)	テキスト第4章の内容を踏まえてイギリス政治の変化について検討する．
4	イギリス(2)	テキスト第4章の内容を踏まえてイギリス政治の変化について検討する．
5	ドイツ(1)	テキスト第2章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する．
6	ドイツ(2)	テキスト第2章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する．
7	オランダ・ベルギー	テキスト第8章の内容を踏まえてオランダ・ベルギーの政治の変化について検討する．
8	北欧諸国	テキスト第7章の内容を踏まえて北欧諸国の政治の変化について検討する．
9	フランス(1)	テキスト第1章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する．
10	フランス(2)	テキスト第1章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する．
11	イタリア	テキスト第5章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する．
12	東中欧諸国	テキスト第10章の内容を踏まえて東中欧諸国の政治変動とその後の変化について検討する．
13	南東欧諸国	テキスト第12章の内容を踏まえて南東欧諸国の政治変動とその後の変化について検討する．
14	ヨーロッパ・デモクラシーの将来	授業全体を総括するとともに，歴史的視座からヨーロッパ・デモクラシーの将来を展望する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前・授業後を合計して，1週あたり平均4時間の準備学修を想定しています．

【テキスト（教科書）】
網谷龍介，伊藤武，成廣孝編『21世紀ヨーロッパのデモクラシー』ナカニシヤ出版，2026年前半刊行予定

【参考書】
網谷龍介，伊藤武，成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー　改訂第2版』ナカニシヤ出版，2014年．
中山洋平，水島治郎『ヨーロッパ政治史〔改訂版〕』放送大学教育振興会，2024年．

【成績評価の方法と基準】
学期末試験48.5%:テキストの内容を基礎としつつ授業を通じて深めた理解を問う問題を出題する教場試験
授業前課題32%:テキストの指定個所を読み，設問に答えるとともにコメントや疑問を記載する
授業後課題19.5%:授業の内容についてコメントや疑問を記載する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course provides an overview of modern and contemporary European history from the perspective of political development.It contributes to cultivating the knowledge and skills necessary to accurately analyze various historical social phenomena and issues from a political science perspective and make creative and comprehensive judgments. The course will be conducted primarily in a face-to-face lecture format.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅰ

中野　勝郎

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】
アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。
アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。
また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S.has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業をおこないます。
毎回、授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
次の週の授業では、そのうちのいくつかを取り上げて、復習をします。
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「時間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「時間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「時間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4
第13回	「時間・空間・人間」再考	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」的理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回４時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
齋藤眞『アメリカとはなにか』（平凡社ライブラリー、1995)（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(50％)、リアクション・ペーパー（50%)
Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】
This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史 II

中野　勝郎

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
本学期は、アメリカ合衆国の社会および人びとの思考様式について考察します。

【到達目標】
アメリカ社会の思考様式の特質を理解することをめざします。
The goal of this course is to understand the American ways of thinking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教室での講義形式で授業をおこないます。
毎回、授業終了時に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。
In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラリズム１	1776年と1619年ーliberalかilliberalか
第2回	リベラリズム２	リベラリズム以外の思想が存在しない社会
第3回	デモクラシーと共和主義１	「デモクラシーの行き過ぎ」と人民主権
第4回	デモクラシーと共和主義２	リベラリズムvs.コミュニタリアニズム論争
第5回	保守主義１	欧米の保守主義の異同
第6回	保守主義２	「リベラリズム」という保守主義
第7回	保守主義３	レーガン保守主義
第8回	保守主義４	「保守主義が存在しない」社会から国民の半分以上が保守主義者を辞任する社会への変容
第9回	反知性主義１	反知性主義とデモクラシー
第10回	反知性主義２	ポピュリズム
第11回	宗教と政治１	信仰復興運動
第12回	宗教と政治２	キリスト教原理主義・福音主義
第13回	トランプ時代の保守主義	トランプ政権を支える保守主義
第14回	アメリカ政治思想の総括	アメリカ的思考様式を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回４時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(50％)、リアクション・ペーパーの提出(50%)
Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】
この授業は、アメリカ政治史Ｉの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
A History of the American Ways of Thinking

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

現代思想２（フランスの思想）１

大池　惣太郎

授業コード：A2245　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスの精神分析科ジャック・ラカンの講義録『精神分析の四基本概念』を講読します。同講義は、ラカンの理論が象徴界から現実界へ重点を移していく重要な時期のセミネールです。精神分析の四基礎概念として「無意識」と「反復」、「転移」と「欲動」が取り上げられるほか、シニフィアンの機能、対象aの理論など、ラカン理論の重要な論点が多数扱われています。ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】
・ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて、一定程度の水準で理解すること。
・フランス現代思想における精神分析理論の重要性を理解した上で、コメントペーパー等を通じて、適切な問いや議論を提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 精神分析家と精神科医の違い	授業の目的と進め方の説明 精神分析理論の概説
第2回	ラカン理論におけるセミネールXIの位置付け	教科書第一節の検討
第3回	無意識と反復	教科書第二節の検討
第4回	確信の主体	教科書第三節の検討
第5回	無意識とシニフィアン	教科書第四節の検討
第6回	テュケーとオートマトン	教科書第五節の検討
第7回	対象aの理論	教科書第六節の検討
第8回	アナモルフォーズ	教科書第七節の検討
第9回	眼差しの問題	教科書第八節の検討
第10回	騙し絵のメタファー	教科書第九節の検討
第11回	分析家と転移	教科書第十節の検討
第12回	分析における真理とは何か	教科書第十一節の検討
第13回	性の問題	教科書第十二節の検討
第14回	欲動について	教科書第十三節の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
・授業前に質問票を、授業後にリアクションペーパーを回収する。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』（上・下）（岩波文庫、2020年）。

【参考書】
ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』（誠信書房、2008年）
ブルース・フィンク『後期ラカン入門』（人文書院、2013年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の質問票40%、リアクション・ペーパー40%、授業内参加度20%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回参加者のリアクションを紹介することでフィードバックを確実に行う。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to understand some fundamental ideas of the Lacanian psychoanalysis. We read mainly Jacques Lacan's most important seminar: The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis (1964), to obtain basic knowledge and point of view of the Lacanian psychoanalysis theory concerning the "unconscious", "repetition", "transference", "drive", etc.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hour for
each class meeting.
Grading will be based on continuous assessment, including students' responses to weekly questionnaires (40%), reaction papers (40%), and in-class assignments (20%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

現代思想２（フランスの思想）２

大池　惣太郎

授業コード：A2246　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に引き続き、ジャック・ラカンの第11セミネール『精神分析の四基本概念』を講読し、続いて第20セミネール『アンコール』を読みます。二つの講義録を読むことで、対象a、享楽、ディスクールの分類、性的関係の不可能をはじめとする後期ラカンの理論を概観します。ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】
・ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて、一定程度の水準で理解すること。
・フランス現代思想における精神分析理論の重要性を理解した上で、コメントペーパー等を通じて、適切な問いや議論を提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期のふりかえり	前期のふりかえり 後期ラカン理論についての概説
第2回	部分欲動について	教科書第十四節の検討
第3回	愛と快	教科書第十五節の検討
第4回	疎外について	教科書第十六節の検討
第5回	主体化と消失	教科書第十七節の検討
第6回	知の主体の想定	教科書第十八節の検討
第7回	分析における解釈の意味	教科書第十九節の検討
第8回	精神分析の倫理	教科書第二十節の検討
第9回	享楽について	『アンコール』第一、二節の検討
第10回	愛とシニフィアン	『アンコール』第三、四節の検討
第11回	性関係の不在	『アンコール』第五、六節の検討
第12回	愛、知、真理とディスクール	『アンコール』第七、八節の検討
第13回	女の享楽について	『アンコール』第九、十節の検討
第14回	総括	『アンコール』第十一節の検討 授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
・授業前に質問票を、授業後にリアクションペーパーを回収する。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』（上・下）（岩波文庫、2020年）
ジャック・ラカン『アンコール』（講談社、2019年）

【参考書】
ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』（誠信書房、2008年）
ブルース・フィンク『後期ラカン入門』（人文書院、2013年）
佐々木孝次他『ラカン「アンコール」解説』（せりか書房、2013年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の質問票40%、リアクション・ペーパー40%、授業内参加度20%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回参加者のリアクションを紹介することでフィードバックを確実に行う。

【Outline (in English)】
This course continues from the first semester with a close reading of Jacques Lacan's Seminar XI, The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis, and then moves on to Seminar XX, Encore. By studying these two seminars, students will learn about Lacan's later ideas, including the concept of objet an and feminine jouissance. Through direct engagement with Lacan's texts, the course aims to help students understand the basic principles of psychoanalysis and how its key concepts developed over time.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hour for
each class meeting.
Grading will be based on continuous assessment, including students' responses to weekly questionnaires (40%), reaction papers (40%), and in-class assignments (20%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学１（伝統宗教）１

松本　力

授業コード：A2251　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】
学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。
皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各4時間を標準とします、

【テキスト（教科書）】
資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
渡辺照宏『仏教　第二版』、岩波新書。
エルンスト・ペンツ『キリスト教　その本質とあらわれ』、平凡社。
小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30％）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.
Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学１（伝統宗教）２

松本　力

授業コード：A2252　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】
学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。
皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	ヌミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	ヌミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集　偶像の黄昏　反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相　下巻』、岩波文庫。
アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』、ちくま学芸文庫。
ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラピーデ『人生の意味と神　信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30％）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70％）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでみてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.
Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

日本思想史１

山本　伸裕

授業コード：A2260　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本思想史」と銘打たれているが、近代以前の日本においては、思想の歴史的展開を明らかにすることは、ほぼ不可能である。この授業では、日本独自の思想哲学は、日本語の語彙や日本語表現の中に蓄積され、日本語を母国語として生活する人びとの血肉になってきたとする視点に立って、言葉の語源、特にやまと言葉の語源に焦点を当てる。そうした手法は、日本人の心根を明らかにするうえで、最も有効であると考えられる。

【到達目標】
◎古代から培われてきた日本人の思想の基底にある包括的な世界観を知ることができる。
◎日本人の倫理思想の基本構造を、明確に理解することができる。
◎西洋の思想哲学との共通点、相違点について明確に理解できるようになる。
◎現代思想の観点から、日本の思想を再評価する眼を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
◎対面による講義形式で行う。
◎毎回、授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想とは何か	ｉ）思想と哲学 ii）言葉と人間
第2回	やまと言葉で考える	ｉ）日本語の多重性　ii）「もの」と「こと」　iii）日本人の宗教心　iv）言葉と語り
第3回	日本倫理の基層	ｉ）意味の顛倒 ii）「あわい（間）」の思想 iii）しなければならぬ　iv）してはならぬ
第4回	日本人の職業倫理	ｉ）仕事の倫理 ii）「士」の倫理 iii）「農」の倫理 iv）「工」「商」の倫理
第5回	生成する命	ｉ）「命」の概念 ii）おのずからの命　iii）つくる命、うむ命　iv）命の本源
第6回	連鎖する命	ｉ）動的平衡 ii）子孫繁栄を願う　iii）食と健康 iv）慎ましく生きる
第7回	「老」に向き合う	ｉ）老いの苦しみ ii）若さの価値 iii）老いの成熟 iv）老人を敬う
第8回	「病」の諸相	ｉ）東洋医学の発想　ii）「闇」と「病」　iii）「養生」のすすめ　iv）病に寄り添う
第9回	人生の悲哀	ｉ）哲学の動機 ii）空虚な現実 iii）世を捨てる iv）振る舞いの優しさ
第10回	感謝と謝罪の倫理	ｉ）謝意の表明 ii）罪過を認める iii）日本語の謝罪表現　iv）罪障を滅す
第11回	「死」の受容	ｉ）生死を見つめる　ii）死者の行方 iii）魂の救済 iv）「さよう」の確認
第12回	「死」を弔う	ｉ）死体の扱い ii）死者を葬る iii）魂の叫び iv）死者の霊を祀る
第13回	まったき人生	ｉ）粋と野暮 ii）強さと脆さ iii）へこたれない強さ　iv）有終の美を飾る
第14回	授業内テスト	前もって課題を出すので、実質的には授業内レポート。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する。
　事前学習時間の目安：約2時間
◎事後：配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。
◎事後：単元ごとにリアクションペーパーを作成する。
　事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】
山本伸裕『日本人の死生観を問う―「やまと言葉」の倫理学』　NHKブックス、2026年

【参考書】
竹内整一『やまと言葉の人間学』ぺりかん社、２０２４年
竹内整一『かなしみの哲学』ＮＨＫ出版、2009 年
山本伸裕『日本人のものの見方〜〈やまと言葉〉で考える』青灯社、２０１５年
荒木博之『やまとことばの人類学』朝日選書、1985年
『日本国語大辞典（第二版）』小学館、2000年
増井金典『日本語語源広辞典（初版）』ミネルヴァ書房、2010年　など

【成績評価の方法と基準】
◎期末試験：75％
　※第13回目の講義終了後にテーマを提示するので、あらかじめ考えをまとめて、教室で事業時間内に各自レポートを作成する。持ち込み不可。
◎リアクションペーパー：25％

【学生の意見等からの気づき】
◎毎回授業の初めに前回のリアクションペーパーの中からいくつか学生のコメントをピックアップして紹介する。重要な質問などについてはその場で答える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
　This course deals with Japanese thought before modern times, focusing on Japanese language;"Yamato Kotoba（やまと言葉）".
It also enhances the development of student's skill in Western Philosophy.
【Learnig Objectives】
　At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Japanese thought or ethics and to learn how to think for myself.
【Learnig activities outside of classroom】
　Students will be expected to submit a short report after finishing each lecture.　Your study time will be more than four hours for writing a paper.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Short reports 25%, Term-end report 75%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語１

内山　真莉子

授業コード：A2268　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ラテン語は、医学をはじめとした種々の自然科学・人文科学の分野で、学術用語として現代でも用いられています。そのために学んでいる方もいるでしょうが、ラテン語は教養として学ぶことにも大きな意義があります。実際、ヨーロッパの古典作品の多くは、原典がラテン語です。本授業では、古典ラテン語文法の初歩を学び、基本的な文法知識を習得することを目指します。

【到達目標】
・各品詞の格変化・人称変化を理解し、自力で辞書を引いて意味を調べられるようになること。
・簡単な文を読めるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業1〜2回で教科書1課分を進める。
・各回毎のテーマとなる文法事項について説明したのち、練習問題を行い、解説する。
・宿題（和訳）を毎回出題するので、次回授業までに取り組む。
・次回授業冒頭にて宿題解説を行ってから、新しい文法事項の説明に入る。
・適宜、授業内にて小テスト（格変化の暗記確認など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：ラテン語とは	文字と発音、アクセント
第2回	第1課	直説法現在能動相、第1変化名詞
第3回	第2課	不規則変化動詞(1)、第2変化名詞
第4回	第3課	第1・第2変化形容詞、前置詞
第5回	第4課①	代名詞、未完了過去
第6回	第4課②	未来、第3変化名詞
第7回	第5課	完了、第3変化形容詞、第4・第5変化名詞
第8回	第6課	指示代名詞、直説法受動相未完了形3時称、受動文
第9回	第7課	疑問代名詞・形容詞、関係代名詞
第10回	第8課①	目的分詞、完了受動分詞、直説法受動相完了形3時称
第11回	第8課②	命令法、不規則変化動詞(2)
第12回	第9課	形容詞・副詞の比較
第13回	期末試験	試験形式での理解度確認
第14回	期末試験の返却・春学期のまとめ	試験内容の解説と春学期学習内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書・ノートを見直し、各回の学習内容を復習する。
授業毎に出される宿題にしっかりと取り組む。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中山恒夫（1987）『標準ラテン文法』白水社

【参考書】
水谷智洋（2003）『改訂版羅和辞典』研究社（購入の必要はありません）。
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価します。
①平常点（宿題・授業内の発問・小テスト）：50％
②期末授業内試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Latin is still used today as an academic term in various fields of the natural sciences and the humanities, including medicine. While some students study it for this reason, there is also great significance in studying it as a liberal arts education. In fact, many classical European works were originally written in Latin. In this class, we will learn the basics of classical Latin grammar and acquire foundational grammatical knowledge.
【Learning Objectives】
・To understand the case and person conjugations of parts of speech and be able to look up meanings in a dictionary on your own.
・To be able to read simple sentences.
【Learning activities outside of classroom】
・Review your textbook and notes, and review the content learned in each lesson.
・Work hard on the homework assigned in each class.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution: 50%,　Term-end examination: 50%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語２

内山　真莉子

授業コード：A2269　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ラテン語は、医学をはじめとした種々の自然科学・人文科学の分野で、学術用語として現代でも用いられています。そのために学んでいる方もいるでしょうが、ラテン語は教養として学ぶことにも大きな意義があります。本授業では、ラテン語1から引き続き古典ラテン語文法の初歩を学び、基本的な文法知識を習得することを目指します。ラテン語2はラテン語１とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1を受講してください。

【到達目標】
ラテン語の基礎的な文法事項を理解し、単純な文であれば辞書を引きながら自力で読解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業1〜2回で教科書1課分を進める。
・各回毎のテーマとなる文法事項について説明したのち、練習問題を行い、解説する。
・宿題（和訳）を毎回出題するので、次回授業までに取り組む。
・次回授業冒頭にて宿題解説を行ってから、新しい文法事項の説明に入る。
・適宜、授業内にて小テスト（格変化の暗記確認など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：ラテン語1の復習	動詞の人称・時制変化、名詞・形容詞の格変化など
第2回	第10課①	形式受動相動詞、分詞
第3回	第10課②	接合分詞、絶対的奪格
第4回	第11課	不定法、数詞
第5回	第12課①	代名詞型形容詞、不定代名詞、二重否定
第6回	第12課②	動名詞、動形容詞
第7回	第13・14課	非人称動詞、格の用法
第8回	第15課	主文の接続法
第9回	第16課①	時称対応、間接疑問文
第10回	第16課②	目的文、結果文
第11回	第17課	時の文
第12回	第18課	条件文
第13回	期末試験	試験形式での理解度確認
第14回	期末試験の返却・秋学期のまとめ	試験内容の解説と秋学期学習内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書・ノートを見直し、各回の学習内容を復習する。
授業毎に出される宿題にしっかりと取り組む。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中山恒夫（1987）『標準ラテン文法』白水社

【参考書】
水谷智洋（2003）『改訂版羅和辞典』研究社（購入の必要はありません）。
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価します。
①平常点（宿題・授業内の発問・小テスト）：50％
②期末授業内試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Latin is still used today as an academic term in various fields of the natural sciences and the humanities, including medicine. While some students study it for this reason, there is also great significance in studying it as a liberal arts education. This class builds on Latin 1 and aims to teach the basics of classical Latin grammar and to help students acquire foundational grammatical knowledge. Latin 2 is a separate subject from Latin 1, but it presupposes the knowledge learned in Latin 1. Therefore, if you are taking Latin 2, we recommend taking Latin 1 as well, if possible.
【Learning Objectives】
The goal of this class is to help students understand basic Latin grammar and read and understand simple sentences independently using a dictionary.
【Learning activities outside of classroom】
・Review your textbook and notes, and review the content learned in each lesson.
・Work hard on the homework assigned in each class.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution: 50%,　Term-end examination: 50%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語１

文　景楠

授業コード：A2270　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
すべての西洋文明の礎となっている古典ギリシア語の基礎を習得することを目指す。教科書に沿って進めるが、毎回予習復習を行い練習問題を解くことが要求される。読解の訓練のための補助教材も適宜配布する。

【到達目標】
古典ギリシア語の初歩的文法を理解し、簡単な文を訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教科書にもとづく講義形式で進める。毎回宿題を課し、最終回には全体を振り返るテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容と評価基準の紹介
2	第1課、第2課	文字と発音、アクセント
3	第3課、第4課	第1・第2変化の名詞および形容詞、定冠詞
4	第5課、第6課	o動詞（直説法能動相現在および未来、直説法能動相未完了過去およびアオリスト）、不定詞を用いた間接話法
5	第7課、第8課	o動詞（直説法能動相第2アオリスト）、結果文、時の表現、前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞eimiとphemi、所有の与格
6	第9課、第10課	第3変化名詞（子音幹）、限定の対格および与格、母音融合を行う第1・第2変化形容詞
7	第11課、第12課	第3変化名詞（母音幹）、関係代名詞、指示代名詞、強意代名詞autos
8	第13課、第14課	形容詞および副詞の比較、hedionの変化、母音融合動詞
9	第15課、第16課	流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞、-us、-eia、-u型および-es、-es型の形容詞
10	第17課、第18課	pas、megas、polusの変化、mi動詞（histemiとdidomiの直説法能動相現在・未完了過去・アオリスト）
11	第19課、第20課	mi動詞（tithemi, hiemi, eimi, deiknumi）、o動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法
12	第21課	o動詞の能動相アオリストの分詞、mi動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞、分詞の用法
13	全体の振り返り	文法と練習問題の復習
14	まとめ	テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、練習問題に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
水谷智洋（1990）『古典ギリシア語初歩』岩波書店.

【参考書】
講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 毎回の課題を含む平常点（40%）② 最終回のテスト（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は該当なし

【その他の重要事項】
「ギリシア語2」と合わせて履修することを勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the fundamentals of Ancient Greek, which forms a foundation of Western culture. Students are required to review course materials and complete grammar exercises for each class. Additional readings will be assigned and provided by the instructor.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will have acquired a basic understanding of Ancient Greek grammar and will be able to translate simple sentences.
【Learning activities outside of classroom】
Before and after each class meeting, students are expected to spend approximately four hours preparing for and reviewing the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: 1. Class participation: 40%, 2. Final examination: 60%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語２

文　景楠

授業コード：A2271　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
すべての西洋文明の礎となっている古典ギリシア語の基礎を習得することを目指す。教科書に沿って進めるが、毎回予習復習を行い練習問題を解くことが要求される。読解の訓練のための補助教材も適宜配布する。

【到達目標】
古典ギリシア語の初歩的文法を理解し、簡単な文を訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教科書にもとづく講義形式で進める。毎回宿題を課し、最終回には全体を振り返るテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ギリシア語１のまとめ	先学期に学んだ内容の復習
2	第22課	接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文
3	第23課	希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における接続法の用法、目的文
4	第24課	希求法を用いた条件文、hoti、hosによって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化、間接疑問
5	第25課	直説法中・受動相現在、直説法中動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表わす文
6	第26課	直説法中・受動相未完了過去、直説法中動相第２アオリスト、再帰代名詞、所有形容詞、配慮・努力を表わす文
7	第27課、第28課	直説法中動相アオリスト、事実に反する仮定の条件文、過去の可能性を表わす文、接続法中・受動相現在、接続法中動相アオリスト、heos、prinの用法
8	第29課、第30課	希求法中・受動相現在、希求法中動相アオリスト・未来、受動相アオリストおよび未来、行為者を表わすhupo+属格、手段・方法の与格
9	第31課	能動相完了・過去完了・未来完了
10	第32課	中・受動相完了・過去完了・未来完了、行為者の与格
11	第33課	命令法（o動詞）
12	第34課、第35課、第36課	命令法（mi動詞）、mi動詞型の変化をする第２アオリスト、動形容詞、動詞の主要部分、数詞
13	全体の振り返り	文法と練習問題の復習
14	まとめ	テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、練習問題に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
水谷智洋（1990）『古典ギリシア語初歩』岩波書店.

【参考書】
講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 毎回の課題を含む平常点（40%）② 最終回のテスト（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は該当なし

【その他の重要事項】
「ギリシア語1」と合わせて履修することを勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the fundamentals of Ancient Greek, which forms a foundation of Western culture. Students are required to review course materials and complete grammar exercises for each class. Additional readings will be assigned and provided by the instructor.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will have acquired a basic understanding of Ancient Greek grammar and will be able to translate simple sentences.
【Learning activities outside of classroom】
Before and after each class meeting, students are expected to spend approximately four hours preparing for and reviewing the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: 1. Class participation: 40%, 2. Final examination: 60%

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸批評史A

伊東　祐吏

授業コード：A2553　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】
近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独歩、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』［明治・大正篇］および［昭和篇］（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】
必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】
Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.
Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.
Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.
Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸批評史B

伊東　祐吏

授業コード：A2555　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】
近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪曼派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』［明治・大正篇］および［昭和篇］（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】
必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】
Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.
Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.
Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.
Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史A

遠藤　星希

授業コード：A2561　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

【到達目標】
　中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、各時代の代表的な作品を読解することを通して、古典小説の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な工具書を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国の古典小説と「小説」の原義についての概説
第2回	白話小説概説	明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説
第3回	小説前史（1）	神話（上）：中国の天地開闢神話とその特徴について
第4回	小説前史（2）	神話（下）：神話の時代の大洪水と大旱魃
第5回	小説前史（3）	諸子百家と漢代の賦：諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について
第6回	小説前史（4）	漢代の作とされる「小説」：中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の文献を読む
第7回	小説前史（5）	史伝の小説的要素：歴史文学として司馬遷の『史記』を読む
第8回	志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第9回	志怪小説（2）	志怪小説に見られる仙界訪問譚について
第10回	志怪小説（3）	志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響
第11回	民間の物語詩	漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む
第12回	志人小説	六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説
第13回	男装の麗人の物語男装の麗人の物語	木蘭従軍故事について
第14回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・魯迅著 ; 丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷　魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
・魯迅著 ; 中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・大塚秀高著『中国古典小説史』（ちくま学芸文庫、2024）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Tang dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn “novels” from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understand the outline of the history of classical novels from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
B. have knowledge of the various genres of Chinese classical novels through reading representative works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史B

遠藤　星希

授業コード：A2563　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

【到達目標】
　唐代小説史のアウトラインを把握する。また、唐代伝奇を鑑賞する力を身につける。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	唐代伝奇についての概説
第2回	唐代伝奇（1）	唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む
第3回	唐代伝奇（2）	魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む
第4回	唐代伝奇（3）	象の恩返しの話「安南猟者」を読む
第5回	唐代伝奇（4）	成語「黄粱一炊の夢」の出典として知られる「枕中記」を読む
第6回	唐代伝奇（5）	狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む
第7回	唐代伝奇（6）	『雨月物語』の「夢応の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「薛偉」を読む
第8回	唐代伝奇（7）	妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む
第9回	唐代伝奇（8）	民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む
第10回	唐代伝奇（9）	男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む
第11回	唐代伝奇（10）	中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む
第12回	唐代伝奇（11）	科挙の受験生と堅気の女性との恋愛譚「鶯鶯伝」を読む
第13回	唐代伝奇（12）	芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む
第14回	唐代伝奇（13）	トイレの神様に取り憑かれた男の話「李赤伝」を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　次の週に読む作品を前の週に配布するので、授業前に必ず読んでおく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭　唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）
・溝部良恵著『中国古典小説選6　広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）
・黒田真美子著『中国古典小説選5　枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他』（明治書院、2006）
・成瀬哲生著『中国古典小説選4　古鏡記　補江総白猿伝　遊仙窟』（明治書院、2005）
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・魯迅著 ; 中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・魯迅著 ; 丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷　魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called *chuan-qi* written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, *chuan-qi* were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. *Chuan-qi* during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in *chuan-qi* during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understand the outline of the history of classical novels in the Tang dynasty;
B. acquire the ability to appreciate *chuan-qi*.; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（３）中世A

阿部　真弓

授業コード：A2665　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。
春学期授業では万葉歌人の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。
各和歌の解釈は一義的なものではありません。『百人一首』編纂当時の解釈、室町時代の解釈、江戸時代の解釈がそれぞれ異なっていたり、また流派の違いによって異なる解釈がなされていたりします。そうした点に留意しながら、各歌がどのように享受されてきたかについて考えていきます。
また、江戸時代には、『百人一首』は和歌だけではなく、歌仙絵（作者の絵姿）や歌意絵（和歌の解釈を絵画化したもの）を掲載した本が刊行されました。代表的な絵入本（絵本）を紹介し、近世の人々がどのように『百人一首』を鑑賞していたかについても概観します。
上記の観点から、『百人一首』が和歌史、文化史にどのように位置づけられるかについて考察を試みます。

【到達目標】
①和歌の表現に関する知識を身につける。
②古典和歌を解釈する力を養う。
③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の成立・古注釈	成立の問題および中世・近世の古注釈に関する説明
第3回	『百人一首』講読	三番歌（柿本人麿「あしびきの」歌）に関する解説
第4回	『百人一首』講読	三番歌の古注釈（中世）に関する解説
第5回	『百人一首』講読	三番歌の古注釈（近世）に関する解説
第6回	『百人一首』講読	三番歌の歌意絵・人麿像について
第7回	『百人一首』講読	五番歌（猿丸大夫「おくやまに」歌）に関する解説
第8回	『百人一首』講読	五番歌の古注釈（中世）に関する解説
第9回	『百人一首』講読	五番歌の古注釈（近世）に関する解説
第10回	『百人一首』講読	五番歌の歌意絵について
第11回	『百人一首』講読	六番歌（中納言家持「かささぎの」歌）に関する解説
第12回	『百人一首』解説	六番歌の古注釈（中世）に関する解説
第13回	『百人一首』解説	六番歌の古注釈（近世）に関する解説
第14回	『百人一首』解説	六番歌の歌意絵について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス　日本の古典　百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①〜③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).
Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（３）中世Ｂ

阿部　真弓

授業コード：A2666　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　当授業では春学期にひきつづき、歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。
　秋学期授業では六歌仙の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。
　各和歌の解釈は一義的なものではありません。『百人一首』編纂当時の解釈、室町時代の解釈、江戸時代の解釈がそれぞれ異なっていたり、また流派の違いによって異なる解釈がなされていたりします。そうした点に留意しながら、各歌がどのように享受されてきたか考えていきます。
　また、江戸時代に刊行された、歌仙絵（作者の絵姿）や歌意絵（和歌の解釈を絵画化したもの）を掲載した絵入本（絵本）『百人一首』を紹介し、近世の人々がどのように『百人一首』を鑑賞していたかについて概観します。
　上記の観点から、『百人一首』がどのように享受されてきたか、和歌史、文化史にどのように位置づけられるかについて考察を試みます。

【到達目標】
①和歌の表現に関する知識を身につける。
②古典和歌を解釈する力を養う。
③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
　和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の成立・古注釈	成立の問題および中世・近世の古注釈に関する説明
第3回	『百人一首』講読	九番歌（小野小町「はなのいろは」歌）に関する解説
第4回	『百人一首』講読	九番歌の古注釈（中世）に関する解説
第5回	『百人一首』講読	九番歌の古注釈（近世）に関する解説
第6回	『百人一首』解説	九番歌の歌意絵・小野小町像について
第7回	『百人一首』解説	一二番歌（僧正遍昭「あまつかぜ」歌）に関する解説
第8回	『百人一首』解説	一二番歌の古注釈（中世）に関する解説
第9回	『百人一首』解説	一二番歌の古注釈（近世）に関する解説
第10回	『百人一首』解説	一二番歌の歌意絵について
第11回	『百人一首』解説	一七番歌（在原業平「ちはやぶる」歌）に関する解説
第12回	『百人一首』解説	一七番歌の古注釈（中世）に関する解説
第13回	『百人一首』解説	一七番歌の古注釈（近世）に関する解説
第14回	まとめ	一七番歌の歌意絵について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス　日本の古典　百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①〜③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).
Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（４）近世Ａ

小林　ふみ子

授業コード：A2669　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【近世文学と古典文学】
江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちゃかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】
1. 江戸文芸に表れた近世的特徴を理解する。
2. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２〜３回で１ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。
発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 パロディ文芸のはじまり①	江戸時代の特徴を知る。 江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『仁勢物語』『吉原徒然草』を読む
第2回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第3回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一－一の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四－二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第5回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③ ＋中間試験（30分）	狂歌とことば遊びの妖怪見立絵本『画本纂怪興』を読み、創作にチャレンジする
第8回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第9回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙②	『万歳集著微来歴』後半を読む
第10回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作（大喜利）にチャレンジする
第12回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『修紫田舎源氏』の大枠を知る
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『修紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む
第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻③ まとめ・期末試験（30分）	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む 最後にこの時代の文芸の特質を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。
本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】
各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】
長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー（30％）、中間・期末課題の得点（各35％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解読と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】
デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】
Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.
Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.
Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and　Review for **Course Outline**: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.
Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.
Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class.　It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), Two short reports (40%*2).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

齊藤　千恵

授業コード：A2670　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
《「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ》
赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われました。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」です。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となりました。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られています。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がりを学びます。

【到達目標】
①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で2回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第7回	「仮名手本忠臣蔵」⑤	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。
第13回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第14回	まとめ　「忠臣蔵もの」のゆくえ	「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。
授業外に提出課題を課すことがある。
本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。
近年多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】
資料を配布します。

【参考書】
『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）
『新潮日本古典集成　浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）
『新編日本古典文学全集　浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40％
小課題（×2回）：60％

【学生の意見等からの気づき】
講義中に用いる教材や配布資料を工夫し、近世芸能や周辺文芸の魅力を伝えられるよう心がけます。
講義で扱う近世文芸の各ジャンルについても、ジャンルの特性に触れられるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配付等には、学習支援システムを活用します（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】
質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付けます。
第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もあります。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.
Learning Objectives: At the completion of this course, students will:
1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin- gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyoe*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 2 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.
Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (2): 60％.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ

スティーヴン　ネルソン

授業コード：A2703　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese*［1894］の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】
・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず１回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1〜3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	文化圏の形成 中華思想・礼楽思想との接触 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ Asiatic Society of Japanの設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イェイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第6回　参考書 pp. 10-17
第7回　参考書 pp. 18-23
第8回　参考書 pp. 64-69、70-77
第14回　参考書 pp. 104-111
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。

【参考書】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫832 (ISBN4-12-100832-4)
その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35％）、プレゼンテーションと議論への参加度（25％）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40％）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。
なお、担当教員は2026年度をもって退職しますので、本年度がこの授業の最後となります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ

スティーヴン　ネルソン

授業コード：A2704　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】
・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず１回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1〜3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『「日本文化論」の変容』）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第5章 “Debtor to the Ages and the World” と第6章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー 等の活躍
第7回	60〜70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第7章 “The Repayment Hardest to Bear” と第8章 “Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラーの仕事
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第10章 “The Dilemma of Virtue” と第12章 “The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第2回　参考書① pp. 182-187
第4回　参考書② pp. 31-55
第6回　参考書① pp. 214-219、266-271
第7回　参考書① pp. 248-253
第11回　参考書① pp. 260-265
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。

【参考書】
①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫832 (ISBN4-12-100832-4)
②青木保『「日本文化論」の変容　戦後日本の文化とアイデンティティー』（中央公論社、1990）中公文庫533、1999（ISBN4-12-203399-3）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35％）、プレゼンテーションと議論への参加度（25％）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40％）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。
なお、担当教員は2026年度をもって退職しますので、本年度がこの授業の最後となります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 and 6), *giri* (Chapters 7 and 8), and *haji* (Chapters 10 and 12). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋　健

授業コード：A3113　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】
考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色について説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。
授業方法はパワーポイントを使用する講義形式で行う。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・概要説明	授業の方法・評価基準　この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文文化の姿	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文文化の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文文化の社会	集落と墓からみる社会
第7回	弥生文化の成立	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	古墳の成立と社会	前方後円墳の成立と波及
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	オホーツク文化とは何か	北からの外来文化
第13回	擦文文化とアイヌ文化	アイヌ文化の成立過程
第14回	総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤宏之（2019）『旧石器時代　日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化　考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史１』岩波新書
その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績の50％は期末試験とする。平常点は50％とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業開始前にWebClassに講義資料のデータをアップロードし、授業を受けながら参照できるようにする。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period.
（Learning Objectives）
Based on archaeological findings, students will be able to explain the cultural characteristics, of each era,
（Learning activities outside of classroom）
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each era.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on term-end test (50%) and in class contribution (50%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

松本　剣志郎

授業コード：A3116　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】
①城下町の特質を説明できる。
②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。論文講読の回は、事前に論文を読んでいることを前提に授業する。hoppiiに教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	都市とは何か
第2回	江戸前史	地層と地形
第3回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第4回	徳川の御威光	論文講読（渡辺浩「『御威光』と象徴」）
第5回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第6回	チョウの誕生	論文講読（朝尾直弘「惣村から町へ」）
第7回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第8回	日用層	論文講読（吉田伸之「日本近世都市下層社会の存立構造」）
第9回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第10回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第11回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第12回	公共空間の維持管理	道・橋・堀
第13回	総括	まとめ
第14回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ〜Ⅲ（東京大学出版会、1989〜1990年）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992年）
松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019年）
大石学・落合功編『江戸東京移行期論』（戎光祥出版社、2024年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】
日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】
This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋　健

授業コード：A3152　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学の基礎的な方法論の概要を学ぶ。
モノである考古資料からどのように過去の人間集団の行動を研究するのか、考古学の研究に不可欠な資料の解釈方法を理解し、身につけることを目的とする。

【到達目標】
考古学における調査と研究の方法を理解する。考古学の論文や専門書を読み解き、発掘調査報告書から必要とする情報を引き出すのに必要な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するる。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	考古学とは何か
第2回	考古学の研究素材	考古資料の種類と特性
第3回	考古学の研究史	研究方法がどのように発展してきたか
第4回	考古学における調査	発掘調査と整理作業の手順
第5回	考古学的な時代区分	どうやって時代を区分するか
第6回	分類と型式学	モノをどう分けるのか
第7回	層位学	考古学的な年代決定の方法
第8回	年代測定法	自然科学的な年代測定の方法
第9回	年代をめぐる論争	日本考古学において展開された年代論争
第10回	資料の解釈①	資料の分布とその変化は何を意味するか
第11回	資料の解釈②	発掘された遺構をどう読み解くか
第12回	資料の解釈③	型式と人間集団の関係
第13回	考古学と文献史学	文字資料のある時代の考古学
第14回	まとめ	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、考古学の方法についての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『考古学概論』山本孝文・青木敬・城倉正祥・寺前直人・浜田晋介、ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】
参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末に筆記試験を行う。試験は成績評価の50％とする。平常点は成績評価の50％とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業開始前にWEBに講義資料のデータをアップロードし、授業を受けながら参照できるようにする。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will learn an overview of the basic methodology of archaeology.
（Learning Objectives）
The goal of this course is to understand how to study past human activities using archaeological materials, which is essential for conducting archaeological research.
（Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the archaeological method.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on term-end test (50%) and in class contribution (50%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講IV

中山　学

授業コード：A3157　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世日本の１８世紀ないし１９世紀前期という時期は、文字文化の局部的一層の浸透と徐々なる拡散を力として、日本という枠組みの中で身分共通の文化の体現、ひいては常識の形成が進む時代であったのではないか。殊にすでに文字の使用を前提とする支配の文化の中に生きることを所与としていた支配層にかかわってはなお一層そうであったのではないか。事実、１８世紀中期には歴史的テキストの中に再発見した伝統文化を当該のテキストに忠実に体現するよう要求する権力の出現があり、「和」の一語をもって括る復元的次元の文化のすり込み共有によって文化的統合を図らんとしたかと想わせる動きが活発化していた。
当科目では、このような理解の基底的共有を前提として、幕府医員丹羽貞機が延享五年（1748）に朝鮮国王派遣の通信使随行員に接触し、医員趙崇寿ら数人との間で行った筆談の再現的記録「両東筆語」の読解に挑戦する。そして支配層において「和」の一語へ引き寄せる形での文化的統合への動きを目立たせはじめた時期の医員個人の日本表示のあり様を確かめる。

【到達目標】
①近世の日本人と朝鮮人との間で共有されていたとみられる対話のための作法、秩序について理解を深め、かつ対話の構造、布置秩序を説明することができる。
②一定の布置秩序の中ではじめて実現しえたと考えられる差異可視化の場面に注目し、その段階にいかなる形の日本表示が示されていたか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「両東筆語」は、丹羽本人が持ち帰った筆談紙をもとに後日場面再現された編集物とみるべき史料である。このため、当書には明らかに構成がある。ゆえに後日の作為等の有無について不注意であったはいけない。ただし、当書に確認されるその構成は、編集上の後日の作為というより、むしろ近世の日本人と朝鮮人との間で共有されていた、対話を成り立たせるための対談構成の作法の投影ではないか。当科目では一応このような立場をとる。要するに、対談、問答は思いつくままに進められるというものではなく、構成適合的に布置されるべきものと考えられており、その布置秩序に基づいて進められた。ゆえに後日の再現的編集も容易であったのではないかと考える。当科目では、このような観点から当書の構成順序を重視し、それ自体を講義順序として史料の読解に臨む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	（1）１８世紀日本の集中傾向について （2）先行研究にみる筆談記録の歴史的意義、論点等
2	史料成立の背景	（1）丹羽正伯と野呂元丈 （2）延享五年の通信使
3	史料の特性	（1）文章の実態 （2）構成
4	一日目の記録	（1）対談申し入れと当座の目的伝達 （2）当座の目的に沿う暫時の筆談
5	一日目の記録（続）	（3）仕掛けによる誘導 （4）本当の対談目的の共有 ―自己表明への一階梯― （5）仮交渉、そして酬唱
6	二日目の記録	（6）熱意の本交渉 （7）間章 ―知識の交流、あふれ出る私のコトバ―
7	二日目の記録（続）	（8）学士・書記官との面会 ―自己表明の徹底―
8	三日目の記録	（9）間章 ―お互いの違いの確認― （10）議論への展開予兆 （コラム）趙崇寿「貴国では金銀を糞土のように扱うと聞く、本当か」の意義
9	三日目の記録（続）	（11）主張含みの討論の展開
10	三日目の記録（続）	（12）間章（歓談）―緊張解放― （13）肉親紹介
11	四日目の記録	（14）間章 ―知識の交換― （15）拠って立つ知識基盤をめぐる本格的討論の展開
12	四日目の記録（続）	（16）酬唱 （17）肉親をめぐる相互理解、交情確認
13	五日目・六日目の記録	（18）筆談その後の行方
14	おわりに	（1）相互理解の素地、知恵 （2）丹羽正伯による日本表示のあり様

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①予習（事前配布資料の読解）・復習：各２時間
②参考書等にもとづく自習

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。各回用のプリントを配布する。

【参考書】
初回授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（10％）
（2）小リポート２回（40％）
　第１回　「両東筆語」にみる筆談の構成について
　第２回　討議の内容について
　※いずれも設題は授業実施期間中に提示する。
（3）期末リポート（50％）
　12月中に到達目標を満たす設題を提示する。

【学生の意見等からの気づき】
つねに講義が一方通行的となりがちなので、史料読解に参加形式を検討する。演劇活動等や何等か発話にかかわるサークル活動をしている学生がいれば積極的に補助をお願いしたい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The period of early modern Japan, roughly covering the 18th century to the early 19th century, can be seen as an era in which the partial penetration and gradual spread of a literate culture served to advance the embodiment of a culture shared across social classes within the framework of Japan, and ultimately the formation of common sense. This was particularly true for the ruling class, who were already accustomed to living within a culture of governance premised on literacy. Indeed, by the mid-18th century, there emerged authorities demanding that rediscovered traditional culture in historical texts be faithfully embodied in those texts, and there was an active movement that appears to have sought cultural integration through the shared inculcation of a restorative dimension of culture encapsulated by the term “Wa” (harmony).
In this subject, based on the assumption of a foundational shared understanding, we will attempt to interpret the recreated record of written conversations called ’Ryoto Shitsugo,’ in which the shogunate physician 丹羽貞機(正伯), in Enkyō 5 (1748), interacted with the envoys sent by the Korean king and a few physicians including 趙崇寿(活庵). We will also examine how individual physicians represented themselves in Japan during a period when the ruling class began to prominently show movements toward cultural integration, drawing everything under the single concept of ’harmony.’
（Learning Objectives）
1.　Deepen understanding of the writing-based communication practices that are believed to have been shared by Japanese and Koreans in the early modern period. Also, be able to explain the rules for topic development that were actually used to make dialogue possible.
2.　Focus on the instances in which early modern Japanese and Koreans consciously made their differences visible, and in particular, be able to explain what claims the Japanese of the 18th century made about their own country in such instances.
（Learning activities outside of classroom）
1.　Pre-study of the materials distributed in advance and review after class:　2hours
2.　Self-study on the history of interactions between early modern Japan and Korea based on reference books, etc.
（Grading Criteria /Policy）
・Two midterm paper (40%)
　1.　Creating a report explaining the content and structure of historical documents distributed as teaching materials.
　2.　Create a report explaining the content of discussions that took place between Japanese and Koreans in the early modern period, as found in the historical documents distributed as teaching materials.
・term paper (50%)
　The report assignment to achieve the learning objectives is scheduled to be given in December.
・Willingness to participate in class (10%)

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講III

芦沢　知絵

授業コード：A3164　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。
中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。
本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会，2013年.（第4・5章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会，2016年.
丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣，2021年.

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30％
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
②　期末レポート　70％
授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】
This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講IV

皆川　卓

授業コード：A3171　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」（national identity）を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】
「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity)とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。
第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介します。
第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介します。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめ－「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】
E. ホブズボウム／T. レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992
E. ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000
B. アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997
A.D. スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999
F. ブローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015
H. トーマス『中世の「ドイツ」－カール大帝からルターまで』創文社 2005
松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005
谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999
指昭博編『王はいかに受け入れられたか―政治文化のイギリス史』刀水書房 2008
岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流―修正主義の近世史』彩流社 2000
その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史的変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15〜20分程度、前回の内容の復習時間を取ることにします。
・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生との公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
This course will explore European national identity through history from the Middle Ages to the modern era. First, we will introduce the structure of modern nationalism, and confirm that there are infinitely diverse nationalities among modern people, but that they are nonetheless integrated into certain regions due to certain historical circumstances. We will then provide an overview of the different types of nationalism in France, Britain (England), and Germany (the former Holy Roman Empire), and learn what unites them.
（Learning activities outside of classroom）

・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of the content (1 hour each time).
・Before class, look up any new terms or names you only vaguely know using reference books or the internet, and take notes on the handout (1 hour each time).
・After class, research any points you didn't understand during the lesson or ask the teacher questions (1 hour each time).
・Take notes on the points you thought about while listening to the class to prepare for writing the final report (1 hour each time).
（Grading Criteria /Policy）
・ Evaluation will be based on a combination of regular class participation (30%), quizzes for each unit (20%), and the final report (50%).
・ The criteria are whether students can accurately grasp, as knowledge, the historical changes in national identity including nationalism [Evaluation Process 1: Corresponding to unit quizzes 20%], and whether they can analyze and explain the national identity of each era in an empirical and logical manner according to historical methodology [Evaluation Process 2: Corresponding to the final report 50%].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川　卓

授業コード：A3172　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世ヨーロッパにおきる社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響かについて、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】
近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中にあっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自分を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性が持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中近世ヨーロッパの「社会」編成（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中近世ヨーロッパの「社会」編成（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が営む宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。
第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回に続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。
第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回１時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回１時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回１時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回１時間）。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】
清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる―日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
J.ヴェルジェ（野口洋二訳）『ヨーロッパ中世末期の学識者』創文社 2005
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防―イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】
・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第１評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第２評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみとります。

【学生の意見等からの気づき】
・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15～20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。
・学生が小テストやレポートにAIを使用するようになったため、成果物がそのまま学生の理解を反映しなくなっています。AI使用を前提とし、成果物をリアクションペーパーなどと照合し、学生の思考の足跡をも平常点に反映します。また自ら問いを立てる能力を計測できるよう、小テストや期末レポートの内容を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
This course will introduce recent research findings on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, faith, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of individuals and groups of people. Participants will learn how social mobility is deeply connected to historical development and reflect on how people living in societies of various growth periods can positively interact with society.
（Learning activities outside of classroom）
・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of the content (1 hour each time).
・Before class, look up any new terms or names you only vaguely know using reference books or the internet, and take notes on the handout (1 hour each time).
・After class, research any points you didn't understand during the lesson or ask the teacher questions (1 hour each time).
・Take notes on the points you thought about while listening to the class to prepare for writing the final report (1 hour each time).
（Grading Criteria /Policy）
・The evaluation is based on a combination of normal scores (30%), quizzes for each unit (20%), and year-end reports (50%).
・You will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in early modern European history, and you will be able to understand how much you have achieved a bird's-eye view to objectively discuss history by reading the macro movements of history from there and comparing and relativizing it with the modern society in which the students are alive [2nd evaluation process: corresponding to 50% of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋近現代史

芦沢　知絵

授業コード：A3208　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「中国近現代史のなかの政治と社会・文化」をテーマとする。
現在の中国は、自他ともに認める「グローバル大国」である。しかし、そこに至る近現代の中国の歴史は、対外関係の大きな変化から始まる激しい政治変動に揺さぶられてきた。そうした政治変動とともに、中国の社会や人々の生活も大きく変容し、例えば思想、文学、教育、メディア、日常の生活様式など、様々な面で新しい文化潮流が生み出された。
本授業では、中国近現代史における政治変動と、それにともなう社会・文化の変遷を追いながら、現在の中国がどのように形成されてきたのか概観する。同時に、現代中国にみられる政治と社会・文化の関係性や、そこから見出される諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代中国における政治変動と社会・文化の歴史的変遷をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国が形成された過程、及び現代中国の政治と社会・文化の関係性や諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第2回	中国の近代	アヘン戦争と「西洋近代」との遭遇
第3回	清朝の危機	洋務から変法への思想展開
第4回	中華民国の成立	辛亥革命と進む「近代化」
第5回	軍閥割拠の時代	五四期の新文化運動とナショナリズム
第6回	南京国民政府の成立	国民党の国家建設と都市大衆文化
第7回	満州事変の勃発	「抗日」運動とプロパガンダ
第8回	日中戦争への突入	戦時期の中国民衆と知識人
第9回	中華人民共和国の成立	国共内戦下の中国共産党と農村社会
第10回	社会主義体制の確立	統制される社会・思想・人民
第11回	プロレタリア文化大革命	毛沢東の政治闘争と社会混乱
第12回	改革開放の始動	経済成長と変わりゆく生活文化
第13回	現代中国の行方	「グローバル大国」を生きる人々
第14回	中国近現代史の課題と展望	中国近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、現在の中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐『新・図説中国近現代史（改訂版）――日中新時代の見取図』法律文化社，2020年.
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史――両岸三地100年の歩み（第2版）』東京大学出版会，2019年.
吉澤誠一郎他『中国近現代史①〜⑥』岩波書店（岩波新書），2010〜17年.
坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波書店（岩波新書），2016年.

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30％
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
②　期末試験　70％
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the history of modern China focusing on political, social and cultural changes from the Opium War to the present time.
The goal of this course is to understand the historical nation-building process and various problems of modern China.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史序説

宇都宮　美生

授業コード：A3214　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさけばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】
中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。
日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交１	倭国の対外関係１
第2回	古代の外交２	倭国の対外関係２
第3回	古代の外交３	遣隋使
第4回	古代の外交４	遣唐使１
第5回	古代の外交５	遣唐使２
第6回	古代の外交６	遣唐使３
第7回	中世の外交１	日宋貿易
第8回	中世の外交２	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易１	日明貿易
第10回	近世の貿易２	日清貿易１
第11回	近世の貿易３	日清貿易２
第12回	近世の貿易４	日清貿易３
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	学習のまとめ	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】
森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円＋税
簑原俊洋,・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税
田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円＋税
＊このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がける。
身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【担当教員の専門分野等】
中国史（都城史、水利史、交通史）、日中交流史

【事務への連絡事項】
パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。
パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】
This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史序説

柴田　隆功

授業コード：A3215　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代から現代までの西欧史（ドイツ史中心）の流れを整理し、各授業回でトピックとなっている時代や地域の政治・社会・文化を学ぶことが授業の目的です。興味を持った事柄について自ら調べものをする際の手がかりを獲得することも期待されます。

【到達目標】
(1) 前近代については、当時の社会が近現代の概念などを前提にしては把握しきれないことを認識でき、また、時代・地域ごとの違いに適切な注意を向けるようになることが重要です。
(2) 近現代については、現代に通ずる市民社会や国家体制の諸特性が発展し、人びとがその中でどのような困難や問題に直面してきたかを理解することが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
〔授業の形式〕
●授業は対面の講義形式です。
●各授業では、ある時代・地域の通史的な基本事項を解説したうえで、講師が関心を寄せる特定側面を掘り下げる形をとります。
●授業の最後には10分間で400字（目安）のリアクションペーパーを作成してもらいます。学習支援システムからの提出を想定しています。リアクションペーパーでは授業で得た知識を整理し、自身の理解・関心・疑問を言語化することが求められます。
〔資料・プリント類〕
●パワーポイントの画像やレジュメを配布する予定はありません。必要に応じて各自でノートをとるようにしてください。
●自分で見返すためにパワーポイントの内容を何らかの形で記録してもよいですが、他人にデータを絶対に譲渡しないでください。
●授業中の電子機器の使用は講義内容を記録する場合や不明点を調べる場合に限ります。
〔質問・連絡の仕方〕
●質問や公欠等の欠席申告があれば、授業後に講師に話しかけるか、授業中に通知するメールアドレスに連絡してください。
〔注意事項〕
●私語は慎んでください。
●お手洗いに行く場合は、許可を求めずに退出してかまいません。
●高校以前の世界史等の履修経験は必須ではありません。
●授業担当者は本年度からの担当であるため、細部は変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／情報記録・伝達の変遷	情報処理の変遷を歴史学の観点から過去にさかのぼって見つめ直し導入とする
第2回	古代ギリシア	通史を概観したうえで現代とは大きく異なるアテナイの民主政の特徴を掘り下げる
第3回	共和政ローマ	ローマ支配下のギリシアに注目しつつローマの共和政体の歩みをみていく
第4回	ローマ帝国と属州統治	帝国の政治的・社会的な構造の観点で帝政前期から西ローマ帝国滅亡までを観察する
第5回	古代末期とポスト・ローマ社会	キリスト教の成立と蛮族の侵入を受けた古代社会の変容を論じ、メロヴィング朝フランク王国やランゴバルド王国の歴史に触れる
第6回	カロリング朝フランク王国	中世王国の原型が整えられる中で、史料証言が変化する様や社会構造・キリスト教文化の形成を解説する
第7回	初期中世の政治文化と教会	10-11世紀の貴族社会の特性や教会の役割を詳述し、その中での叙任権闘争の位置づけを考察する
第8回	ヨーロッパ中世の文化と社会	十字軍の歴史をたどる中で、宗教熱や都市・学問の発展といった中世西欧社会の変化を解説する
第9回	皇帝・教皇・都市	皇帝と教皇の相克を軸に、諸侯身分・都市の立場が確立する展開や同時期の英仏の様子を概観する
第10回	後期中世から宗教改革へ	大学・法律家・人文主義を軸に、皇帝と諸侯の二元的な支配秩序が精緻化し、宗教改革に至る道筋を観察する
第11回	近世ドイツの政治秩序	ヴェストファーレン条約研究の刷新に絡んで、帝国国制・キリスト教宗派選択・主権概念などの理解を深める
第12回	新しい帝国と近代社会の諸側面	ビスマルクに注目してドイツの近代国家形成史を整理し、鉄道やアフリカ植民地の経営から近代社会の特徴を考える
第13回	ナチスとホロコースト	ユダヤ人虐殺の思想的背景や実行過程を説明し、フランスとの軋轢や戦後の戦争記憶の変化にも触れる
第14回	まとめと期末試験	授業のふり返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。特に授業後には書き留めたノートの整理や不確かな知識・情報を見直したり調べたりするとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】
購入すべき教科書はありません。

【参考書】
以下、自習用に概説書や叢書を紹介します
●金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
●池上俊一『ヨーロッパ史入門（岩波ジュニア新書 945-946）』岩波書店、2021-2022年（2冊）
●服部良久ほか編『大学で学ぶ世界史［古代・中世］』、小山哲ほか編『大学で学ぶ世界史［近現代］』ミネルヴァ書房、2006-2011年（2冊）
●ジョン・モリス・ロバーツ『図説 世界の歴史』創元社、2002-2003年（10冊）
●中公文庫『世界の歴史』シリーズ
●『岩波講座世界歴史』シリーズ
●山川出版社『歴史の転換期』シリーズ
●山川出版社『世界歴史大系』シリーズ

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー50%＋期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの授業担当者のため以前のフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
ノートと筆記用具、または文章を記録できるスマートフォン・タブレット・ノートパソコン

【Outline (in English)】
This module offers an introduction to the history of Western Europe from antiquity to the present, aiming to provide a clear chronological framework while encouraging students to pursue further independent study.
Students are expected to recognise that pre-modern societies cannot be adequately understood through modern concepts. In the study of modern history, the module provides insights into the development of civil society and state institutions that have shaped present-day society, as well as the challenges and difficulties experienced by people living within these frameworks.
The module is taught through lectures, conducted in Japanese. At the end of each lecture, students are required to complete a short written response (approximately 400 Japanese characters). This exercise is designed to support reflection on the lecture content and to help students articulate their understanding, interests, and questions.
PowerPoint slides and handouts will not be distributed. Students may, however, make personal records of lecture materials for their own use. These materials must not be shared with others under any circumstances.
Assessment: Reflective responses (50%) and a final examination (50%).

HIS200BE （史学 / History 200）

日本史特講XI

小倉　慈司

授業コード：A3216　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本古代の史書について、特に「六国史」と呼ばれた「正史」のうちの『日本後紀』以降およびそれ以降の私撰国史を中心に、その基礎的な知識や調査・研究の方法を習得することを目的とする。古代の人々はどのようにして歴史を記録し、編纂したのか、そしてそのようにして完成した史書はどのように受け継がれて現在まで伝来してきたのか。史書に記された具体的な記事も読解しつつ、古代史研究の基礎を身につける。

【到達目標】
１古代史史料に関する基礎知識を身につける。２古代史の文献史料を読解する力を身につける。３史料批判の能力を養い、論理的思考力を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式（対面授業）で進めます。実際に史料を読んでもらったり、アンケート・小テストを実施することもあります。主体的かつ問題意識をもって授業に取り組むことを望みます。アンケートや小テストの結果については、次回以降の授業のなかで紹介したり、授業内容に反映させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	六国史と日本書紀	ガイダンス、古代日本における修史事業の開始
第2回	続日本紀の特徴	奈良時代の修史事業
第3回	日本後紀の編纂（１）	９世紀前半の修史事業(1)
第4回	日本後紀の編纂（２）	日本後紀の特徴
第5回	日本後紀とその逸文	日本後紀の逸文について
第6回	続日本後紀の編纂（１）	9世紀前半の修史事業(2)
第7回	続日本後紀の編纂（２）	続日本後紀の特徴
第8回	日本文徳天皇実録の編纂（１）	９世紀半ばの修史事業（1）
第9回	日本文徳天皇実録の編纂(2)	日本文徳天皇実録の特徴
第10回	日本三代実録の編纂(1)	9世紀後半の修史事業
第11回	日本三代実録の編纂(2)	日本三代実録の特徴
第12回	六国史以降の史書(1)	新国史の編纂
第13回	六国史以降の史書(2)	百練抄・本朝世紀
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料は事前に読んでおいてください。この講義の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業に必要な史料は配布します。必ず持参してください。

【参考書】
遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016年）
ほか、授業中に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業参加への積極性・小テスト・アンケートへの回答（30％）、テスト（70％）を総合しておこないます。

【学生の意見等からの気づき】
日本古代史を学ぶ上での基礎的知識の確認を度々おこなっていくようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This course aims to teach students basic knowledge and research methods about the Japanese classical history book, " Rikkokushi"(Six National Histories of Japan chronicling the history of Japan from the earliest times to 887). At the end of the course, students are expected to be able to read Japanese classical records and investigate them.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course contents.

The overall class grade will be determined by the following criteria: Term-end examination: 70%, Contribution during class: 30%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅶ

久野　美樹

授業コード：A3217　｜　曜日・時限：木1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド、中央アジア、中国の美術史を学びます。

【到達目標】
アジアの物質文化、思想を理解し、さらに日本文化とアジアの文化の関係を知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回配布するレジュメ（授業の要約）を基にスライドを見ながら学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	美術史学について 仏教、仏教美術の基本	美術史学とはどういう学問かを学ぶ 上座部仏教と大乗仏教、その美術
第2回	B.C.3.-A.D.2c.の北西インド	仏像出現以前、以後の北西インド
第3回	大乗の仏像の誕生	A.D.1c.に仏像が誕生し、大乗仏教が興起して造られた仏像をみる
第4回	インドの石窟寺院	インドを代表する石窟寺院アジャンタ石窟、エローラ石窟を学ぶ
第5回	中央アジアの美術	西域北道クチャの美術、西域南道ホータンの美術
第6回	敦煌莫高窟初期窟	現存A.D.5c.-6c.背半の敦煌莫高窟初期窟の造形と信仰を学ぶ
第7回	漢民族様式と北方民族様式	魏晋南北朝絵画にみる漢民族様式と北方民族様式
第8回	北魏の漢化と雲岡石窟	北魏の祭天儀礼の漢化と雲岡石窟概説
第9回	龍門石窟北魏窟	北魏龍門石窟の代表：古陽洞と皇帝勅願窟の賓陽中洞
第10回	唐代龍門石窟奉先寺洞像	日本奈良東大寺大仏像の思想的淵源である龍門奉先寺洞像の造形と思想的背景を学ぶ
第11回	敦煌莫高窟A.D. 6 c.前半西魏時代窟第285、249窟	莫高窟第285窟の造形に西方（インド・中央アジア）様式、漢民族様式を学ぶと共に、そこで修行していた僧たちの信仰を考える
第12回	唐時代敦煌莫高窟の大画面形式の壁画	日本の仏教信仰にも大きな影響を与えた観音信仰、阿弥陀信仰を敦煌の壁画に学ぶ
第13回	密教と曼荼羅	大乗仏教が進み生み出された密教と曼荼羅を学ぶ
第14回	期末試験	配布するプリントにある５枚の図について解説していただく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考図書に挙げた『世界美術大全集　東洋編』小学館を中心に読むことで、授業後4時間以上復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
『世界美術大全集　東洋編』全18巻各国・時代別有　小学館　1997－2001、『中国の美術』昭和堂　2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局　2016、『増補新訂　カラー版東洋美術史』美術出版社　2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術　2012、『中国石窟　キジル石窟』全3巻　平凡社　1983－1985、『中国石窟　敦煌莫高窟』1巻－3巻　平凡社　1980－1981、高田修『アジャンタ』平凡社　1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂　1999、『日本美術全集3　東大寺・正倉院と興福寺』小学館　2013

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、小テスト30％。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業終了後に質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)This course introduces Art History of India, Central Asia and China to students taking this course.
(Learning Objectives)By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Asian Material Culture, Asian Thought and the Relationship between Japanese and Asian Culture.
(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅷ

松本　隆志

授業コード：A3218　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】
この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代〜第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。
追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習になります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】
・概説書
小杉泰, 『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016年.
菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
・工具書
大塚和夫ほか編, 『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002年.
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）
課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の５０％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の５０％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course,we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".
【Learning Objectives】
At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.
【Learning activities outside of classroom】
Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)
The papers will be graded based on the cumulative score.
The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講IX

篠原　琢

授業コード：A3219　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2025年は第二次世界大戦終結の80周年を迎えた年だった。しかし周年記念行事や記念出版の数は少なく、行われたとしても比較的小さな規模ですかなかった。第二次大戦を直接経験し、記憶を継承できる人々がこの世をさりつつあるからばかりではない。ロシアのウクライナ侵攻やガザ戦争によって、第二次世界大戦後に成立した国際秩序の基礎が根本的に脅かされ、第二次世界大戦の終結を現代世界の出発点と考える歴史像が揺るがされているからでもある。

第二次世界大戦は計画的組織的な大量殺戮、大量破壊によって終末論的破局をもたらした。戦後秩序は（少なくともヨーロッパ半島、東アジアでは）、こうした破局を繰り返さないという前提の下に構築された。冷戦体制は「核戦争の恐怖」によって支えられていたばかりはない。二次大戦の経験が根本に置かれたのである。冷戦体制は第二次世界大戦の勝者の歴史像を規範的な語りとしていたが、1980年代以降、第二次世界大戦を過去に葬るために、さまざまなトラウマ的過去が想起され議論されるようになった。

中央ヨーロッパではナチの人種的社会改造、ソ連の社会主義的実験、複雑な内戦状況の連鎖のなかで、破壊と暴力の急進化が進み、「歴史の断絶」といえるほどの破局がもたらされた。冷戦の終結前後から、中央ヨーロッパ社会はこの破局に社会的に向き合うことを求められたのであった。授業では第二次世界大戦の記憶をめぐる1980年代以降今日にいたる激しい議論を検討し、第二次大戦を「過去に葬る」努力とは何だったのか、歴史と記憶をめぐる議論が中央ヨーロッパ社会の未来の構想にどのように結びついていたのか考える。戦争の影が濃くなる今日、第二次世界大戦の記憶を改めて見直し、歴史を現代社会の課題に結びつけて考えることが授業の目標である。

【到達目標】
中央ヨーロッパいおける第二次世界大戦を歴史的に理解するのに必要な知識を身につける。
過去と現在の対話を観察することで歴史のなかに未来像を考えることができる。
社会における「集合的記憶」の機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	1. イントロダクション	集合的記憶をめぐる和解と紛争について解説する。
講義	2. 中央ヨーロッパにおけるユダヤ人／ユダヤ教徒の略史	中央ヨーロッパで大きな存在感をもったユダヤ教徒／ユダヤ人の社会の歴史を略述する。
講義	3.「植民地戦争」としてのナチ・ドイツの東欧支配	ナチ・ドイツの東欧占領政策を植民地的略奪の観点から考える。
講義	4. 絶滅政策の展開と東欧社会	ユダヤ人絶滅政策（ホロコースト）の焦点となった東欧社会の占領政策について講義する。
講義	5. 戦後の「記憶」	戦争経験者の「個人的記憶」のあり方を考える。
講義	6. ドイツ歴史家論争（1986／87年）　何が問題だったのか。	ドイツ歴史家論争の論点とその意義を明らかにする。
講義	7. 東西ドイツの統合とナチズム・絶滅政策の過去	「歴史家論争」が統一ドイツにどのように引き継がれたのか検討する。
講義	8.「多方向的な記憶」　移民国家としてのドイツにおける絶滅政策の記憶	「移民国家」となったドイツにおいてナチズム、ホロコーストの記憶をどのように継承すべきかの議論を跡づける。
講義	9.「哀れなポーランド人がゲットーを見つめている」（1987）	冷戦末期に論じられるようになったポーランドにおけるユダヤ人と絶滅政策の記憶の問題を考える。
講義	10. イェドヴァブネ論争から『夜は続く』まで	ポーランド社会に大きな波紋を呼んだ、絶滅政策に対する「ポーランド人の関与」について考える。
講義	11. 東部境界地域（Kresy）・西部「回復領」をめぐって	第二次世界大戦後、ポーランドからソ連に割譲された東部地域、ドイツからポーランドに移管された西部「回復領」をめぐる歴史の語りを検討する。
講義	12. チェコスロヴァキア異論派におけるドイツ人追放問題論	チェコスロヴァキアからのドイツ系住民の追放問題について、異論派（社会主義体制に抗議する人々）の批判的言論を検討する。
講義	13. スロヴァキア独立国の評価	ナチ・ドイツの後見の下に独立したスロヴァキア独立国家の評価をめぐる議論を考える。
講義	14.「歴史家論争2.0」とまとめ	1980年代の「歴史家論争」を参照しながら戦わせられた現代ドイツのホロコーストの記憶をめぐる議論を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する文献で予習・復習してください。本授業の標準的な準備・復習時間は100分程度です。The standard time for the preparation and the review of each lecture is about 100 min.

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート全部で５０%、期末のレポートで５０%で評価します。
Comment sheets: 50% and Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The year 2025 marked the 80th anniversary of the end of World War II. However, commemorative events and publications were few in number, and those that did occur were relatively small in scale. This is not solely because those who directly experienced World War II and could pass on their memories are gradually passing away. It is also because Russia's invasion of Ukraine and the Gaza War have fundamentally threatened the foundations of the international order established after World War II, shaking the historical narrative that views the end of World War II as the starting point of the contemporary world.

World War II brought about an apocalyptic catastrophe through planned, systematic mass murder and mass destruction. The postwar order (at least in the European peninsula and East Asia) was built on the premise of preventing such a catastrophe from recurring. The Cold War system was not sustained solely by the “fear of nuclear war.” The experience of World War II was placed at its very foundation. While the Cold War system adopted the victors’ historical narrative as its normative discourse, from the 1980s onward, various traumatic pasts began to be recalled and debated in an effort to bury World War II into the past.

In Central Europe, amid Nazi racial social engineering, the Soviet socialist experiment, and a chain of complex civil wars, destruction and violence radicalized, bringing about a catastrophe that could be called a “rupture in history.” From around the end of the Cold War, Central European societies were compelled to confront this catastrophe socially. This course examines the intense debates surrounding the memory of World War II from the 1980s to the present. It explores what the effort to “bury the war in the past” entailed and how discussions about history and memory were linked to visions for the future of Central European societies. As the shadow of war grows darker today, the course aims to reexamine the memory of World War II and connect history to the challenges of contemporary society.

Learning activities outside of classroom: The standard time for the preparation and the review of each lecture is about 100 min.

Grading criteria: Comment sheets: 50% and Final report: 50%

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史序説

齋藤　智志

授業コード：A3226　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
備考（履修条件等）：史学科の2022年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ（A3213）」を履修する

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】
日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。
レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜小課題（史料読解など）にも取り組んでもらいます。
毎回、リアクションペーパーに記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話的古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第3回	古代の国家と社会	・時代の概観2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第4回	中世社会の成立	・時代の概観3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第5回	中世社会の諸相	・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	・時代の概観6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第8回	近代国家の形成	・時代の概観7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第9回	近代国家の展開	・時代の概観8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勧業博覧会
第10回	近代の社会と文化	・時代の概観9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第11回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第12回	戦後日本の歩み	・時代の概観11 戦後改革と高度経済成長 ・昭和ノスタルジーを考える
第13回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識
第14回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前にデータ共有するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はレジュメ等の資料を読み返して復習し、内容の理解を深める。小課題が出された場合はこれに取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。配布資料を用いて授業を行います。

【参考書】
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全４巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】
平常点60％（リアクションペーパーや小課題への取り組みなどを含みます）
期末試験40％
※期末試験の受験は必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
私語への注意が不十分との指摘がありました。この授業では会話を可とする時間もありますが、そうでない時間帯での私語については注意していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、学習支援システム（WebClass）の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器（ノートＰＣ、タブレット、スマートフォンなど。いずれか）を持参してください。なお、特にノートPCかタブレットの持参を推奨する回があるので、その都度お知らせします。

【その他の重要事項】
毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。
また、授業期間中、学習支援システムおよびメールで常時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

HIS200BE（史学 / History 200）

歴史特講

皆川　卓、柏木　一朗、内田　康太、高井　康行、宇都宮　美生

授業コード：A3227　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の３分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないか。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。今年度の主題は、「帝国」である。時代と地域を越えた帝国の在り方について、帝国の果たした役割と影響（たとえば交流による共通化、民族のナショナリズム形成）やその歴史的意義などを考える。授業では時代も地域もさまざまな帝国についてみていく。

【到達目標】
・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総体的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式（講義）で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：皆川
第2回	帝国について：概要と論点	帝国と世界の一体化について考える。 担当：皆川
第3回	ローマ帝国１	ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：内田
第4回	ローマ帝国２	ローマ帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：内田
第5回	モンゴル帝国１	モンゴル帝国の概要について学ぶ 担当：宇都宮
第6回	モンゴル帝国2	モンゴル帝国の多様性と共通化について学ぶ 担当：宇都宮
第7回	神聖ローマ帝国１	神聖ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：皆川
第8回	神聖ローマ帝国２	神聖ローマ帝国の国際性について学ぶ 担当：皆川
第9回	征服王朝１	征服王朝の概要について学ぶ 担当：高井
第10回	征服王朝２	征服王朝と東アジア世界について学ぶ 担当：高井
第11回	大日本帝国１	大日本帝国の概要について学ぶ 担当：柏木
第12回	大日本帝国２	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第13回	大日本帝国３	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第14回	授業内試験	期末試験とまとめ 担当：皆川

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。また、各講師の指示にしたがうこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でのプリント配付、あるいは学習支援システムからダウンロードする（各講師の指示にしたがうこと）。

【参考書】
山本有造編著『帝国の研究―原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年
岡本隆司編著『宗主権の世界史―東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年
鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年
その他、各講師が随時指示をする。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％
【重要】10分以上の遅刻は欠席とし、入室を認めない（遅延証明書持参のものは入室可）。授業中のPC使用を禁止する。写真撮影、録音、録画も禁止する。違反するものは退室させる。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心掛ける。

【Outline (in English)】
Japanese history is divided into three fields based on the region they focus on: Japanese history, Eastern history, and Western history. Within each field, research has been conducted based on a unique set of issues. However, there are also themes common to each field and issues that span multiple regions, and by examining these from various angles, it may be possible to learn new ways of looking at and depicting history. The purpose of this class is to provide such an opportunity.
This year's theme is "Empire." We will consider the role and influence of empires across time and region, their historical significance, and the role and impact they have played (for example, commonality through exchange and the formation of ethnic nationalism). In this class, we will look at empires from a variety of eras and regions.
（Learning activities outside of classroom）
The recommended time for preparatory study and review for this course is two hours each. Review the content of each class, read the reference materials provided in the lessons, and work independently to deepen your understanding. Also, follow the instructions of each instructor.
（Grading Criteria /Policy）
・Regular grade (class participation, effort on assignments): 50%
・Final exam: 50%
[Important] Being more than 10 minutes late will be considered absent, and entry will not be allowed (those with a late certificate may enter). Using a PC during class is prohibited. Taking photos, recording audio, or video is also prohibited. Violators will be asked to leave.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論

福與　直人

授業コード：A3417　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】
過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
現代の環境問題とその背景を説明できる。
持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
2	地球環境の基礎1	現在の地球環境がどのように成り立っているのかを概説する。
3	地球環境の基礎2	現在の地球環境がどのように維持されているのかを概説する。
4	地球環境の基礎3	現在の地球環境がどのように維持されているのか、主に炭素に着目して概説する
5	過去の環境をどう確かめるか	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
6	繰り返す寒冷期と温暖期: "長時間"スケールの地球環境変動	比較的安定的な地球環境も「長時間」スケールでは変動してきたことを学ぶ。
7	気候が急に変わるとき："短時間"スケールの地球環境変動	「短時間」スケールでも地球環境は変動してきたことを学ぶ。
8	環境の変化が社会に関わるとき	主に近代以前の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
9	社会が環境を変えるとき	主に近代以降の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
10	地球温暖化(1)	地球温暖化の実態やメカニズムについて学ぶ。
11	地球温暖化(2)	地球温暖化に対する影響と将来予測について学ぶ。
12	地球温暖化と環境問題	地球温暖化に対する緩和策と適応策、その他の環境問題について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
以下の項目に従い、評価を行います。
平常点：10％
毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%
期末試験：50％
なお、出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
リフレクションおよび期末テストに関してはアンケートを踏まえ、実施方法を改善する。
前年度よりも内容を絞り、より基本的な事項から立ち返って説明する。

【学生が準備すべき機器他】
文系理系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】
Course Outline
This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.
Learning Objectives
By the end of this course, students should be able to:
Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.
Explain the background and causes of current environmental problems.
Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.
Learning Activities Outside of Classroom
Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.
Grading Criteria/Policy
The final grade will be calculated as follows:
Class participation: 10%
Reflection papers: 40%
Final examination: 50%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（１）

村田　陽平

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】
空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第3回	文化地理学とセクシュアリティ(1)	LGBTの空間経験(1)
第4回	文化地理学とセクシュアリティ(2)	LGBTの空間経験(2)
第5回	文化地理学とセクシュアリティ(3)	「女性専用車両」の意味
第6回	文化地理学とポリティクス（1）	政治という場所
第7回	文化地理学とポリティクス（2）	男性・異性愛の空間構造
第8回	文化地理学と広告（1）	自然な風景
第9回	文化地理学と広告（2）	身体と空間
第10回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第11回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第12回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第13回	文化地理学と現象学（1）	空間の認識論
第14回	文化地理学と現象学（2）	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会，￥3800円＋税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100％）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（２）

村田　陽平

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の文化地理学の概要について学ぶ。基本的には、指示するテキストの講読という形で、1980年代以降大きな変貌を遂げた「新しい」文化地理学の内容を知り、その批判的受容につとめることを目的とする。

【到達目標】
新しい文化地理学についての知識を得るとともに、それを基軸にして地球大の人間の生活空間を認識する視点を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
下記に指示するテキストを精読する。担当者が担当部分を読み,それに適宜解説を加えながら、議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的の確認
第2回	序章	読解と発表,議論①
第3回	テキスト第1章	読解と発表,議論②
第4回	テキスト第2章①	読解と発表,議論③
第5回	テキスト第2章②	読解と発表,議論④
第6回	テキスト第3章	読解と発表,議論⑤
第7回	テキスト第4章①	読解と発表,議論⑥
第8回	テキスト第4章②	読解と発表,議論⑦
第9回	テキスト第5章①	読解と発表,議論⑧
第10回	テキスト第5章②	読解と発表,議論⑨
第11回	テキスト第6章	読解と発表,議論⑩
第12回	テキスト第7章①	読解と発表,議論⑪
第13回	テキスト第7章②	読解と発表,議論⑫
第14回	テキスト終章	読解と発表,議論⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。事前の文献読み込みが必須である。それをもとに授業で不明な個所などを読み解き理解してゆく。

【テキスト（教科書）】
村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【参考書】
特に指定はしない。

【成績評価の方法と基準】
口頭の発表時の準備状況と問題設定(50%)、授業時の議論の内容(50%)を斟酌して判断・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞文化地理学
＜研究テーマ＞健康の地理学、感情の地理学、空間の男性学
＜主要研究業績＞
村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会
村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【Outline (in English)】
This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts . In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Judgment and evaluation will be made by taking into consideration the state of preparation and problem setting at the time of oral presentation (50%), and the content of discussion during class (50%).

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅰ

室井　康成

授業コード：A3809　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875－1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農政思想	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年，吉川弘文館）
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年，森話社）
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年，中央公論新社）
室井康成『政治風土のフォークロア－文明・選挙・韓国』（2023年，七月社）
岩本通弥他偏『民俗学の思考法－〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（2021年，慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３～４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.
【Learning Objectives】
Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.
【Learning activities outside of classroom】
Reading the bibliography.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination;100%

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学 II

室井　康成

授業コード：A3810　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約２０００ヶ所近く存在する。場合によっては１０００年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】
過去に起きた戦争の死者をめぐる霊的処遇のあり方は、時に国際間の政治問題へと発展する。そうした場合、直近の戦争の事例（日本の場合はアジア・太平洋戦争）がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（１）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（２）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（１）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（２）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（１）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（２）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】
テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、終講の３〜４回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。また、春学期の「民俗学Ｉ」を履修しておくと、より理解が深まります。

【Outline (in English)】
・Course outline
in japan, there are about 2,000 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.
・Learning Objectives
Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.
・Learning activities outside of classroom
Review resumes and read references.
・Grading Criteria /Policy
Written exam (100%) on the last day of the lecture

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅰ

松本　隆志

授業コード：A3811　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を歴史的見地から主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。
この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラームにおける『クルアーン』の内容とその重要性について
第3回	イスラームの教義	六信五行などイスラームの基本的な教義について
第4回	イスラームの世界観	一神教に共通する世界観とイスラーム固有の世界観について
第5回	イスラームの誕生と共同体の成立	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大過程について
第6回	イスラーム共同体の分裂	第一次内乱から世襲王朝ウマイヤ朝成立に至る過程と歴史的意義について
第7回	第二次内乱と神のカリフ	ウマイヤ朝半ばに生じたカリフのあり方をめぐる争いについて
第8回	アッバース朝とカリフ権力	アッバース朝初期におけるカリフ権力確立の模索について
第9回	イスラーム法とスーフィズム	アッバース朝半ばにおけるイスラーム法とスーフィズムの確立・展開について
第10回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム諸王朝について
第11回	イスラーム世界とキリスト教世界	地中海を介した交易や十字軍における中東・ヨーロッパ世界の接触について
第12回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝滅亡後の歴史的展開について
第13回	イスラーム世界と第一次世界大戦	オスマン帝国と第1次世界大戦後の国際社会について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では西アジアだけではなく、ヨーロッパや、時に中央アジア・南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みることが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業資料にて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（50%）と毎回の授業終了後に提出する課題（50％）で評価する。
授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。
レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。
毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の50％に換算する。
また、学期末のレポートの点数を成績評価の50％に換算する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.
【Learning Objectives】
Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)
Students are allowed to look at the materials in the exam.
The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論 II

松本　隆志

授業コード：A3812　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論I」では、イスラーム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラーム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラーム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラームをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラームの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラーム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラーム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラーム、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせないイスラーム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。
授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラームの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンについて
第3回	イスラームの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラーム的な慣習について
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネスについて
第5回	イスラームにおける女性	イスラームにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観との関係について
第6回	日本におけるイスラーム	在日・滞日ムスリムコミュニティの歴史と現状について
第7回	イスラーム法学	イスラーム法学の歴史的背景と現代での役割について
第8回	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割について
第9回	スンナ派とシーア派	イスラームの二大派閥の概要と歴史的背景について
第10回	イスラームにおける奴隷	前近代イスラーム社会における「奴隷」のあり方について
第11回	イスラームの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラーム特有の経済倫理について
第12回	イスラーム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状について
第13回	現代の中東情勢	近現代中東史の文脈における「イスラム国」の経緯について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】
小杉泰, 江川ひかり編,『イスラーム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年.
小杉泰ほか編,『大学生・社会人のためのイスラーム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年.
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40 %）で評価します。毎回提出の課題に素点を付け、学期終了時に合計点を成績評価の４０%に換算します。
レポートについては、詳細を記した作成要領を10月中にHoppiiで配布予定です。授業で学習した内容を出発点とし、参考文献等の情報を加え、論理的に私見を述べられていることを評価します。レポートの点数を成績評価の６０%に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (=westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.
【Learning Objectives】
This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Termend examination: 60%、 Short reports : 40%

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（１）

米家　志乃布

授業コード：A3819　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：・「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世〜近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。２．日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。３．日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。１〜３について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
大学の方針で、対面授業を基本としますが、オンライン授業も導入します。学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明，成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論、 歴史地理学史を学ぶ
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に，日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ ヒロシマの原爆ドーム、姫路城などの事例を学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産，特に，平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史，平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造，江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン，城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ
第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺，豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備，徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義，大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験50％、平常点50％で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します(紙での配布はしません)。随時確認することができるように、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.
【Learning Objectives】The goals of this course are to learn, understand and
practice about historical geography of heritage and tourism.
【Learning　activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination:50%
　and　in class contribution:50％

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（２）

米家　志乃布

授業コード：A3820　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：・「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理
　本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀〜20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して，受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。２．北方領土問題について学びます。３．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。
大学の方針により、対面授業としますが、オンライン授業も導入します。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明，成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について，歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係，北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の政策と実態	日本における先住民族政策史をおさえ，日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる 北海道平取町、白老町のウポポイについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート50％、平常点50％で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.
【Learning Objectives】The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination: 50%
and in class contribution:50%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ａ（1）

坪本　裕之

授業コード：A3905　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の中心的なテーマは、働く場たる「オフィス」の視点からの、就労・居住を中心として構成される現代都市空間の理解である。高次経済機能と就労の接点が、物理的空間としての「オフィス」である。21世紀に入ると、オフィスは「ワークプレイス」とも称されているが、それは「ワーカー」の存在によって成立しているからであり、ホワイトカラーの働く場としてより強く意識されるようになってきた。それは、グローバルスケール、国土スケールでは大都市に、都市内部では都心に立地し集積する。高次の経済機能はワーカーによって具現化され現実の都市空間に結びつき、オフィスというミクロな空間の集積によって地理的空間として認識される。経済のグローバル化、高度化が進行する中で、ホワイトカラーの働く場所のあり様も変化し多様化しているが、未だオフィスを旧態前とした画一的な性格の前提で立地や都心地域が語られることが多い。さらにオフィスの立地は、郊外住宅地の発生とともに職住分離を進行させ、都市域の拡大に寄与し居住にも強く影響してきたが、近年は都心居住が進み職住近接への変化が指摘されている。この講義では、大都市都心を中心として集積するオフィスを、立地をベースとして企業組織や場の構築など多様な視点から捉え、それが集積する「働く場所」としての業務地域＝地理的空間の特徴を考察する。加えて、働く場所のフィルターを通じて、これまで就労とは関係性が意識されず語られてきた都市居住も捉え直す。さらに授業では、「都心回帰」や「ジェントリフィケーション」「働き方改革」さらにはコロナ禍を経た働く場所のあり様の変容など、近年の都市をめぐる重要なトピックも取り上げる。近年の地域問題が発生するメカニズムについて考察する契機にして欲しい。それが、問題への対処や解決への道筋を考える一助となると考える。

【到達目標】
（1）大都市の地理的拡大・再編プロセスや地理学の基礎概念を踏まえて、地域の問題を理解し説明すること、（2）経済活動に伴うグローバル、国土、都市内部といった多元的な空間スケールとその関係性を理解すること、（3）地理学的な図表を読み込み理解出来ること、を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面型授業を行う。授業資料の配布と課題の提出、課題についての個別の講評をToyoNet-Aceで行い、総評を授業内で行う。15回の講義とは別に、授業の理解を深めるため、希望者を対象として東京もしくは東京周辺地域を対象とした半日程度の日帰り巡検を予定している。詳細は授業内で告知する（希望者のみ、出席点・成績評価の対象としない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と内容、進め方、評価について解説する。
2	都市内部構造と都市の成長拡大	基本的な内部構造モデルと成長モデルをもとに、広域な都市地域の形成、特に職住分離が形成されるメカニズムについて考える。
3	「オフィス」をめぐる地理学的研究	オフィスの定義をもとに、都市システム的視点：国土スケール、都市内部スケールで立地する場所について考察する。
4	オフィス立地の広域的展開	国土スケールで階層的に拡大してきたオフィス立地について考える。
5	都市中心部の構築と再編	企業活動の広域化を前提とした、広域中心都市における都心部の形成と更新について紹介する。
6	産業の立地拡大と大都市の拡大管理	自然地理学的な視点を踏まえつつ、東京大都市圏が形成された過程と都市域のコントロールについて概説する。
7	東京都心の空間再編	都心地域の再開発が進む東京都心の産業構造や就業構造の変化について概説する。加えて、再開発に伴う企業不動産の再構築過程についても取り上げる。
8	新たなオフィス空間の創出と企業組織	知識産業の成長に伴う企業組織の変化と、新しいオフィス形態の具体的導入事例を紹介する。その下で起こる、大都市圏空間の再編や国土スケールでの立地の変化の可能性について考える。
9	企業移転：大手生命保険会社の事例	郊外移転した企業の具体的事例、移転に至るまでの経緯と地元自治体の対応、移転のメリットとデメリットを考える。
10	オフィス空間のグローバル化・サービス化と都市空間	都市再生化にあるグローバル企業のオフィス戦略、「フレキシブルオフィス」のありようを紹介し、働く場所の今後を予察する。
11	大都市周辺都市の再編：横浜の事例	周辺都市の機能変化、特に「オープンイノベーション」を前提としたまちづくりについて考える。
12	郊外住宅地の形成	東京多摩地域における住宅地域の形成過程について、職住分離に着目して考察する。
13	郊外住宅地の高齢化と持続性	12の内容を踏まえて、郊外住宅地の課題について近年の動向も併せて考察する。
14	都市中心地域の人口増加とジェントリフィケーション	仕事の変化に伴う居住の変化とそれに伴う働く場所との関係性について、人口の「都心回帰」現象を踏まえて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
複数回で課題（作業時間2時間程度）を出すので期限までに提出すること。下記の通り、事前に配布する資料を読んでおくこと（1時間程度）。加えて、最終課題レポートに向けて、授業で紹介する事例と対比できるよう、居住地や大学周辺の地域の問題についても適宜、新聞記事やwebなどの情報を集めておいて欲しい。(各回当たり1時間程度)。

【テキスト（教科書）】
事前に配布する資料をもとに授業を進める。

【参考書】
藤井　正・神谷浩夫編著（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房（定価2,860円＋税）
藤塚吉浩・高柳長直編著（2016）『図説　日本の都市問題』古今書院（定価2,750円＋税）
藤本典嗣（2017）『テキスト都市地理学』中央公論社（定価2,750円＋税）

【成績評価の方法と基準】
最終課題レポートの得点を70％、課題の提出状況を出席点として30％とし、合計して法政大学の成績評価基準に基づき評価する。ただし、課題の3分の2以上が未提出の場合、最終課題レポートを受理しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
非常勤のためオフィスアワーは特に設けていません。連絡や相談は、授業前後もしくはメール（htsubo@tmu.ac.jp）までお願いします。

【Outline (in English)】
The main goal of this course is to understand the concept of the "office" as a modern urban space where one works and lives. The office is a physical space where higher economic functions and actual work coincide. In the 21st century, the office has come to be called a "workplace" because it was established by the existence of "workers," and has become increasingly recognized as a place for white-collar workers. Globally and nationally, these are located and concentrated in the centers of big cities and towns. Workers embody higher economic functions and form connections with this urban space, while workplaces are seen to consist of geographic locations formed of accumulated micro-spaces called offices. White-collar workplaces are changing and diversifying with the globalization and acceleration of the economy, but it is still often the case that offices are mainly located in the city center, as they have tended to be for years. Office locations have promoted the separation of workplaces and residences along with the emergence of suburban residential areas. They have contributed to the expansion of urban areas and have greatly affected housing and living arrangements, causing a shift in the proximity of workplaces and residential areas. This course will focus on offices concentrated in central areas of the metropolis. The construction of corporate organizations and venues, etc. will be viewed from various perspectives with location in mind. Business areas will be considered as the geographic locations where "workplaces" have accumulated. Students will understand urban living as it relates to workplaces in ways that they had not previously realized. This course will cover important current topics related to cities, such as "re-urbanization," "gentrification," "work-style reform," and so on. Students are encouraged to take this opportunity to investigate the reasons behind the occurrences of recent regional problems. By doing this, students will learn ways to deal with and solve problems.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ａ（2）

堤　純

授業コード：A3906　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（１）（A3426)」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
日本と世界の都市を事例に，都市の発達によって生じる様々な変化と，それに伴う諸問題について理解を深める。また，都市の発達に影響を与えてきた交通機関の影響や，都市に暮らす人々のライフスタイルやマインドの変化などの視点から，現代の都市および将来の都市の姿について展望する。

【到達目標】
１．都市の形態的・機能的な特徴を説明できる。
２．都市内部の構造や，各都市の性格を形成する諸要因について具体例を挙げて説明できる。
３．都市に暮らす人々の視点から，現代の都市の特徴について一例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面による授業を予定していますが，担当教員の都合により３〜５回程度のオンデマンドの回がある見込みです。いまのところ，授業形態としては，ひとまずすべて対面と表記しますが，前述の通り，オンデマンドの回がある見込みです。詳細は，法政大学のルールに従うことにします。どの回が対面で，どの回がオンデマンドになるかは，初回の授業時（初回は必ず対面）にアナウンスします。リアクションペーパー（500 字未満）は毎回書く事を求めます。詳しくは,【成績評価の方法と基準】欄も併せて参照して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業で扱う内容や履修上の重要事項について解説する。
2	城下町と近代都市（東京，松山ほか）	日本の県庁所在都市の大半が城下町時代に起源があることことをふまえ，現代都市の発展に必要な諸要因について講義する。
3	都市の発達と発展サイクル（交通）	一般的に都市は誕生から成長，発展，衰退，そしてまた回復するライフサイクルがあることについて講義する。
4	地価と都市空間の立体化	利便性の高い土地には需要が集中し，その度合いは地価という指標で表すことができることを講義する。
5	世界と日本の都市システム（支店経済都市と世界都市）	都市は単体で存在するのではなく，他都市との関係性の中で成り立っていることを講義する。
6	都市の内部構造	都市の内部構造を示す代表的な3つの古典モデルを取り上げ，共通点と相違点について講義する。
7	インナーシティ問題とセグリゲーション	世界の大都市はインナーシティ問題を共通して抱えていることを講義する。
8	都市再開発とジェントリフィケーション	グローバリゼーションとともに急速に増加したジェントリフィケーションの功罪について講義する。
9	都市住民のライフスタイルからみた商業地域構造	日本の地方都市でとくに深刻化する空洞化や商業・サービス業の変化について，都市住民のライフスタイルの観点から講義する。
10	都市の時間と空間（時間地理学）	人々はさまざま制約の中で合理的な選択を行うことを演繹的に説明した時間地理学のモデルについて講義する。
11	都市のイメージと文化景観	都市の発達は，社会・経済・歴史・文化などの側面から多様な形態をとることを講義する。
12	都市成長と移民（New York）	世界で最も魅力的な都市の一つであるニューヨークについて講義する。
13	新しい都市の形（サステナブルシティ，コンパクトシティ，スマートシティ）	これからの都市の将来像について講義する。
14	試験・まとめと解説	試験実施（LMS にレポートを提出するスタイルを予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
授業で使うパワーポイントのスライド（空欄穴埋め式）はおおむね当該授業の前週の授業日までにはLMS 上にアップされているので，次週の授業までの間にあらかじめ目を通して，空欄に入る用語を予習した上で当日の授業に臨むとよい（2 時間)。パワーポイントの内容と，授業時の教官の口頭説明や板書内容を書き取った自筆ノートとを比較しながら復習する（2 時間)。
The PowerPoint slides (filling-blank-space type) to be used in the class are subject to being uploaded on the LMS by the week before the class, so it is recommended that students read through the slides before the next class and try to find the terms that fit blanks before attending the class (2 hours). Review the contents of the PowerPoint slide by comparing your answer with the instructor's oral explanations (2 hours).

【テキスト（教科書)】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
特定の参考書は使用しない。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーで50%，期末試験（LMS にレポートを提出するスタイルを予定）にて50%。
50% on the reaction paper assigned in each class, and 50% on the final exam (report will be submitted to the LMS).

【学生の意見等からの気づき】
この授業は2026年度が初回につき，まだアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
LMS 上にアップされる資料を閲覧できる端末（PCやタブレット等)。

【その他の重要事項】
毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料，授業動画）は，LMS上で公開します。
担当教官は非常勤講師ゆえ，オフィスアワーはありません。質問・連絡事項がある場合は，メール（jtsu@geoenv.tsukuba.ac.jp）で受け付けますが，その際，必ず「PC のメールアドレス（Gmail などのWebmail 可)」から送信して下さい。未着トラブルが多いので，携帯ドメイン（docomo, ezweb, softbank 等）からのメールには返信しません。

【Outline (in English)】
Using cities in Japan and around the world as case studies, I will explore our knowledge of the various urban changes brought about by urban development and the associated issues. Furthermore, I will explore the future of cities from the perspectives of transport systems, urban lifestyles, and urbanites' mindsets.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｂ（1）

甲斐　智大

授業コード：A3907　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（２）（A3427)」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本講義では、「所得機会ー消費機会ー共同生活機会」の関係性の変化を手がかりに、地域社会がどのように形成・変容してきたのかを解説する。その際、地域の変化と、人々の労働（生産）や子育て・食料消費（再生産）/といった実践が相互に影響しあうプロセスに注目する。さらに、統計や景観に表れる現象の背後で作用する社会的調整や排除・包摂のメカニズムを検討することで、資本主義社会における地域課題の発生メカニズムへの理解を深める。

【到達目標】
１空間や地域をつくる過程において、非市場的な原理がいかに影響を与えうるのかを理解する。
２名目的な「公正さ」を担保する過程で、いかなる「不公正」が生じているのかを理解する。
３多様な立場の人々の実践を分析することで、現代社会における社会的排除と包摂のメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として講義形式で行う。ただし、講義は学生の意見を確認しながら進める。また、講義中に学生同士での意見交換を行うことがある。一部ゲスト講師を招聘する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地理学における本講義の位置づけを解説する。
第2回	ローカルな共同体の中で成立した経済システムと保育	度経済成長期以前の地域社会における労働力調整と社会再生産の仕組みについて解説する。
第3回	郊外空間の成立と女性の働き方	日本の住宅政策と働き方の変化について整理し、郊外での子育ての特徴を整理する。
第4回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ1	都心回帰の背景と、それが保育サービス需給に与えた影響ついて解説する。
第5回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ２	世界都市の労働市場の特徴とそこでの保育サービス需給をめぐる課題について解説する。
第6回	外国人集住地区と子育て	多様な経済モデルを用いて、統計などに現れない外国人家族の子育ての困難さと、それを支える見えない社会的調整メカニズムの存在とその限界点を解説する。
第7回	日雇い労働が創り出した空間	家族形成から排除された労働者の空間の特徴とジェントリフィケーションについて解説する。
第8回	派遣労働と地域	派遣労働の地方への拡大の背景とリーマンショックが地方農村部に与えた影響について解説する。
第9回	農と食べ物と食文化	農と食べ物と食文化の関係性を解説する。
第10回	農，食，食文化を切り離したもの	農，食，食文化を切り離しが生じたメカニズムを解説する。
第11回	経済成長と食の変化	経済成長による食の変化について解説する。
第12回	農業の競争力を決めるもの	農業政策の変化を踏まえつつ、農業の競争力がいかに規定されているかを解説する。
第13回	情報を消費する食	情報化と食の関係について
第14回	まとめ	現代社会における地域課題を理解する枠組みについて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書)】
特に指定しない。

【参考書】
講義中に適宜示す。

【成績評価の方法と基準】
・各回の内容に関するコメントカード内容（毎回ではありません）　３０％
・講義の全体に関する試験　７０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
本講義では複数回の休講ー補講を予定している。
詳細については初回の講義で説明する。

【Outline (in English)】
This course explores how regional societies are formed and transformed through changes in the relationships among income opportunities, consumption opportunities, and opportunities for collective life. It focuses on the ways in which regional change and people's everyday practices — such as work (production) and childcare and food consumption (reproduction)— interact with one another. The course also examines the underlying mechanisms of social coordination, exclusion, and inclusion that shape regions beyond what is visible in statistics or landscapes, in order to better understand the emergence of regional issues in contemporary capitalist societies.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｂ（2）

甲斐　智大

授業コード：A3908　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、2014年以降の地方創生政策を中心に、現代日本の地域政策と地域労働市場の実態を社会経済地理学の視点から批判的に検討する。具体的にはグローバル・国家・地域・個人の各スケール間での複雑な権力関係と相互作用を分析することで、東京一極集中の是正を謳う地方創生政策が、実際には地域間格差・地域内格差を拡大させる逆説的側面を内包していることを理解させる。同時に、政策の隙間を縫って展開される地域独自の生存戦略—過疎ビジネス、ヤンキー文化、介護労働市場、特定地域づくり協同組合など—に着目し、中央の政策論理では捉えきれない地域社会の複雑な適応メカニズムについて解説する。

【到達目標】
１多様な経済モデルとマルチスケール分析による分析視角を身につける。
２地方創生政策のもつ「逆説的側面」や「利用される地方」という批判的分析の内容を理解できる。
３画一的な政策論理では捉えきれない地域独自の適応戦略の意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では学生の意見を確認しながら講義を進める。場合によってはペアワークなどを実施することも想定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	氷山モデルとマルチスケール概念について解説する。
第2回	地方への人口流出のメカニズム	高度経済成長期以降、地方から都市部への人口移動が本格化した要因を解説する。
第3回	国土政策と地方１	国土政策によって発展した地方都市について解説する。
第4回	国土政策と地方２	地方における公共事業に意義と問題点について解説する。
第5回	国土政策と地方３	国土政策によって発展した地方都市が抱える現代的課題を解説する。
第6回	地方消滅論と地方間格差	特定地域づくり事業協同組合制度を事例に社会連帯経済と地方間格差の発生要因について解説する。
第7回	地方創生と不良文化	地域の担い手として元不良をどの様に位置づけうるかについて解説する。
第8回	地方創生と不良文化	不良文化と独自の教育システムが支える地方の労働市場について解説する。
第9回	地方創生政策と人的資源の外部調達	地方創生に関わる政策とこれに関わる多様な主体の役割について解説する。
第10回	特産品を起点とする地域活性化	産業集積と地域活性化について解説する。
第11回	国際情勢の変化が地方にもたらすもの	トランプ関税を含む国際情勢による地域産業への影響について解説する。
第12回	産業・地域・行政DXの推進と地方の課題	DXが推進される社会的背景を踏まえつつ、地方におけるこうした取り組みの必要性を解説する。
第13回	地方創生施策の問題点	ふるさと納税やデジタル田園都市国家構想がもたらす逆説的側面について解説する。
第14回	まとめ	本講義で登壇したゲスト講師を含めたディスカッションを行い、各回の内容を理論的に位置付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「新産業都市大分の60年」　2026年8月末発売予定

【参考書】
講義中適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回の内容に関するコメントへの記入　３０％
期末試験　７０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
ゲスト講師の登壇を予定している。

【Outline (in English)】
This course examines regional policy and labor markets in contemporary Japan through the lens of socio-economic geography, focusing on local revitalization policies introduced since 2014. By analyzing interactions and power relations across global, national, regional, and individual scales, the course highlights the paradox that policies intended to reduce Tokyo-centered concentration may actually deepen regional and local inequalities. In addition, the course explores region-specific survival strategies — such as depopulation-related businesses, Yankii youth culture, care labor markets, and special regional cooperative schemes — that develop outside formal policy frameworks, shedding light on the complex ways in which regional societies adapt to changing conditions.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学C（1）

佐々木　達

授業コード：A3909　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて，地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企保的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】
到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。
到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること
到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域的特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。
　授業開始時には，前回のリアクションペーパーに基づいて，講義内容に関する質問や感想について答える。また，講義内容に関する理解度を推し量るために，小問題を課し，回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく，作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し，まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から日本経済新聞等に目を通して，社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
中澤高志『経済地理学とは何か』，旬報社，2021年
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2020年
竹中克行編著『人文地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2015年
竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本　第9版』，東洋経済新報社，2014年
松原宏編著『地域経済論』，古今書院，2014年
川端基夫『改訂版立地ウォーズ』，新評論，2013年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（50％），期末試験（50％）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic framework of economic geography.
【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.
1. Understanding the basic characteristics of economic geography.
2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.
3. Understanding the explanation of industrial location theory.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学C（2）

佐々木　達

授業コード：A3910　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（3）（A3428)」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本授業は，日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから，日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】
授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌
到達目標①：日本経済の変化とそのもとでの国土空間の利用の特徴を理解すること
到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること
到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか，その地理的特徴について説明する．第2部は，日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて，現在，日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。
また，上記の方法を確認するために，双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業，植民地，地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年，食料消費の多様化，食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』，大明堂，1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』，古今書院，1986年
生源寺真一『日本農業の真実』，ちくま新書，2011年
吉川洋『高度成長』，中公文庫，2012年
増田寛也編著『地方消滅』，中公新書，2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』，旬報社，2019年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（50％），試験（50％）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.
【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.
1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use
2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.
3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy）】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

ファイナンス入門

山嵜　輝

専門入門科目100番台専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年A～F

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。多くの学生にとって、ファイナンスを学ぶのはこの授業が初めてになると思います。しかし、金融取引や証券投資の基礎知識は、現代社会においてすべての人にとって必要不可欠です。経営学部の卒業生の多くが金融機関や企業の財務部門で活躍しており、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基盤となっています。また、個人としても、資産形成や老後資金を確保するためには、ファイナンスの知識や思考が欠かせません。
本授業では、主に次の3つのテーマについて学びます。（1）金融取引や証券市場の仕組み、（2）将来価値と現在価値の概念、（3）債券と株式の初歩的な分析手法です。これらの内容は、2年次以降に学ぶファイナンス関連科目の基礎になるだけでなく、実社会における金融リテラシーとして、様々な場面で役に立つはずです。

【到達目標】
次の4つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
（3）債券のしくみを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
（4）株式のしくみを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式の対面授業です。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価基準などの説明
第2回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第3回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第4回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第5回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第6回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第7回	債券入門（1）	債券の基本的なしくみと用語
第8回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第9回	債券分析の基礎	信用リスクと社債分析
第10回	株式入門（1）	株式の基本的なしくみと用語
第11回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第12回	株式分析の基礎	同業他社間比較による株式分析の実際
第13回	デリバティブ入門	先物取引とオプション取引のしくみ
第14回	現代ポートフォリオ理論の紹介	効率的市場仮説、ポートフォリオのリスクとリターン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書・講義資料）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）講義資料（配付方法は初回授業で説明します）

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ファナンス特有の概念や理論の解説は、特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【関連科目】
投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. [Learning objectives] It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学入門

高橋　慎

専門入門科目100番台専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
・練習問題を出題した次の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学びます。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学びます。
第5回	1変量の記述：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学びます。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学びます。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。また、推定において重要な中心極限定理を紹介します。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第13回	推定：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・練習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋慎『データ分析のための統計学の基礎』新世社

【参考書】
・藪友良 『入門　実践する統計学』東洋経済新報社
・竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編『データサイエンス入門 第2版』学術図書出版社・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳『データ分析のための統計学入門」("OpenIntro Statistics, 4th Edition")』日本統計協会（PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf）
・東京大学教養学部統計学教室編 『統計学入門』東京大学出版会
・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題：50%
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】
より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogleスプレッドシート）を使える端末(スマートフォン、タブレット、パソコン等)が必要となります。

【その他の重要事項】
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学I / II
経営のための統計学I / II

【Outline (in English)】
Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.
The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.
You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be based on 50% assignments and 50% final exam.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学入門

高橋　慎

専門入門科目100番台専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営1年L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
・練習問題を出題した次の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学びます。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学びます。
第5回	1変量の記述：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学びます。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学びます。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。また、推定において重要な中心極限定理を紹介します。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第13回	推定：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・練習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋慎『データ分析のための統計学の基礎』新世社

【参考書】
・藪友良 『入門　実践する統計学』東洋経済新報社
・竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編『データサイエンス入門 第2版』学術図書出版社・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳『データ分析のための統計学入門」("OpenIntro Statistics, 4th Edition")』日本統計協会（PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf）
・東京大学教養学部統計学教室編 『統計学入門』東京大学出版会
・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題：50%
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】
より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogleスプレッドシート）を使える端末(スマートフォン、タブレット、パソコン等)が必要となります。

【その他の重要事項】
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学I / II
経営のための統計学I / II

【Outline (in English)】
Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.
The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.
You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be based on 50% assignments and 50% final exam.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門入門科目200番台　専門基礎科目B群　2〜4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営2年H〜O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅰでは,主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表，さらに売上原価，有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析，原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し，期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	【議論・発表・表彰】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第4回	【講義】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	【議論・発表・表彰】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第6回	【講義】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	【議論・発表・表彰】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第8回	【講義】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	【議論・発表・表彰】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第10回	【講義】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第11回	【議論・発表・表彰】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第12回	【講義】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	【議論・発表・表彰】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第4版〉』中央経済社、2022年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』,『国際会計論』,『原価計算論』,『管理会計論』,『監査論』,『税務会計』,『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly. we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門 II

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門入門科目200番台　専門基礎科目B群　2〜4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営2年H〜O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門IIでは,会計学入門Ｉの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定，利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。課題について理解が不足している部分などを授業中に説明し，期末定期試験に向けてブラッシュアップしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第3回	【議論・発表・表彰】意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第4回	【講義】原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第5回	【議論・発表・表彰】原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第6回	【講義】設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第7回	【議論・発表・表彰】設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	【講義】予算管理	予算差異分析
第9回	【議論・発表・表彰】予算管理	予算差異分析
第10回	【講義】原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第11回	【議論・発表・表彰】原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第12回	【講義】アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第13回	【議論・発表・表彰】アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第４版〉』中央経済社、2022年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ｉ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』,『国際会計論』,『原価計算論』,『管理会計論』,『監査論』,『税務会計』,『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）

中西　善信

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台　2〜4（経営学科）3〜4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
　このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
　そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
　その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。
　なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論Iは，より基本的な内容を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論IIと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
　また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に，どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。
なお，レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため，授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.　Of the two, Business Management I deals with more basic topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論 II（2019年度以降入学者）

中西　善信

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台　2〜4（経営学科）3〜4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。
なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論IIは，より高度な内容，実際の具体例等を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論Iと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第3回	組織デザイン	分業と調整
第4回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第5回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第6回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第7回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第8回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第9回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第10回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第11回	知識創造	アイディア創造と「場」
第12回	事例①	スリーエム社における知識創造
第13回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。
なお，レポートは授業に参加したうえで執筆するものである。このため，授業参加せずに提出されたレポートは無効とすることがある（事前に相談した場合を除く）。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論I，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.　Of the two, Business Management II deals with more advanced topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施予定です。
・参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
　①他人の迷惑になる行為を行わないこと
　②授業に関係のないことをしないこと
　③その他については教員の指示に従うこと
・Zoomでの実施の場合、詳細は授業で伝えます。
・適宜リアクションペーパーを課します。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。
・FBを行う際は次回授業もしくはリアペに対するFBを教材にUPする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第8回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第9回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第10回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第11回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第12回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）(2003)『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験ないしレポート（80％）、平常点（20％：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】
平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】
Ⅰは理論編、Ⅱは事例偏です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。Ⅱは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2，3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはⅡのシラバスを見てください（過年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】
Outline
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (80%) and in-class attitudes and regular assignments (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントII（2019年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台　2〜4（経営学科）3〜4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】
①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
②社会人との交流が適切に行えること
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。
　なお、FBを行う際は次回授業内もしくはリアペに対するFBを教材にUPする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と３０代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（人事系コンサル）	コンサルタント・マネジャー40代男性
第6回	ゲスト（企業家）	サラリーマンから起業した40代男性
第7回	ゲスト（IT）	30代営業職OG（以下OB／OG表記は法政大学出身者）
第8回	ゲスト（不動産）	東急リバブル50代男性
第9回	ゲスト（メーカー）	㈱サトー人事室長50代男性
第10回	ゲスト（金融）	日本政策金融公庫勤務20代OG
第11回	ゲスト（証券）	SMBC日興証券20代OB
第12回	ゲスト（税理士）	杉浦税務会計事務所社長
第13回	ゲスト（菓子メーカー）	ヨックモックHD人事部長
第14回	ゲスト（サービス）	CCC㈱（蔦屋書店FC）管理者50代男性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや課題図書）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）(2003)『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％(リアクションペーパーや小レポート等含む)
・出席は取りません
・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設ける予定です。
　ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。
　（質の低さ、コピペ、読めないものなど）
・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。
・詳細は授業で指示します。
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
各回の内容は過年度のものです。ゲストは基本的に毎年変更しています。
参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。
①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。
②仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論 I

金　容度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台　市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス(企業統治)の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管 理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】
①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣
②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、期末試験（70％）、授業中の小試験（30％）である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A　on business management in Japan.　Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.
【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the calss.It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論 II

金　容度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台　市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第11回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】
①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70％、授業中の小テスト30％(1回10％×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.
【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

EDU100ZA（教育学 / Education 100）

Comparative Education

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火3/Tue.3
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
This course is designed for students interested in exploring motivational issues in second language (L2) education within a comparative education framework, with a particular focus on Japan and selected international contexts. Building on contemporary theories and research, it aims to develop students' capacity to analyse L2 motivation as a core issue from a historical perspective and across both macro and micro levels. The course also gives an insight into significant motivational variables that help explain persistent challenges in L2 education across settings. It examines how L2 education is shaped by globalisation and local contexts from an L2 motivational perspective, focusing on L2 societies that facilitate diverse learning conditions, as well as individual L2 learners with varied ethnic backgrounds, ages, and language preferences. Offering a comprehensive exploration of L2 motivation across Japanese and global contexts, the course encourages critical thinking about the practical implementation of motivational strategies to support L2 learners in Japan and overseas. Students will engage with a substantial body of research and contribute to informed discussion on effective L2 education. By the end of the course, students should be able to interpret L2 motivation research in context, compare motivational issues across educational systems, and articulate context-sensitive approaches for supporting L2 learners in diverse learning environments.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
(1) Develop and explain a foundational understanding of conceptual frameworks related to L2 motivation.
(2) Analyse various historical and macro-micro influences on L2 motivation across different contexts.
(3) Compare L2 motivational challenges across Japanese and global perspectives, drawing on the studies of L2 motivation and their effects on L2 education.
(4) Discuss designs and justification of context-sensitive motivational strategies for diverse L2 learners and assess implications for L2 education.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【Method(s)】
For the completion of this course, students are required to participate in Q&A/discussion sessions on a topic related to the lectures and to consolidate their learning through a daily task each week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, give a presentation, and submit a corresponding writing assignment. Detailed requirements, submission procedures, and feedback will be provided through the learning management system (e.g., WebClass).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The Conceptualisation of Motivation	Issues in defining motivation and its fundamental challenges
3	The Development of the L2 Motivational Studies (1)	Issues in the classical studies
4	The Development of the L2 Motivational Studies (2)	Issues in the social-psychological period
5	The Development of the L2 Motivational Studies (3)	Issues in the cognitive-situated period
6	The Development of the L2 Motivational Studies (4)	Issues in the process-oriented and socio-dynamic periods
7	L2 Motivation in Practice	Issues in teaching strategies and approaches
8	L2 Motivation in Context	Issues in demotivating influences
9	L2 Motivation Research from a Global Perspective (1)	Issues from a perspective of cross-sectional studies
10	L2 Motivation Research from a Global Perspective (2)	Issues from a perspective of longitudinal studies
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of Comparative Education	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Dörnyei, Z., &Ushioda, E. (2021) (3rd ed.). *Teaching and researching motivation*. Cambridge University Press.

【References】
1. Apple, T. M., Silva, Da D., &Fellner, T. (eds.). (2013).*Language learning motivation in Japan*. Multilingual Matters.
2. Apple, T. M., Silva, Da D., &Fellner, T. (eds.). (2017). *L2 selves and motivations in Asian contexts*. Multilingual Matters.
3. Csizér, K., Smid, D., Zólyomi, A. &Albert, A. (eds.). (2024). *Motivation, autonomy and emotions in foreign language learning: A multi-perspective investigation in Hungary*. Multilingual Matters.
4. Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner*. LEA.
5. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
6. Dörnyei, Z., &Ushioda, E. (eds.). (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
7. Hagenauer, G., Lazarides, R. &Järvenoja, Hanna (eds.). (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
8. Sampson, R. J. (2017).*Complexity in classroom foreign language learning motivation: A practitioner perspective from Japan*. Multilingual Matters.
9. Schunk, D. (2013).*Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
10. Ushioda, E. (2013). *International perspectives on motivation: Language learning and professional challenges*. Palgrave Macmillan.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (20%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (20%)

【Changes following student comments】
More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:
1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】
Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】
None.

【Prerequisite】
None.

EDU100ZA（教育学 / Education 100）

TESOL I: Introduction

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。
その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
The course is for students intending to teach English; it is an introduction to second language (L2) acquisition and pedagogy. It encourages students to raise their awareness as language teachers.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
1. Explain the core issues in L2 acquisition research.
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy.
3. Conduct research on instructed L2 learning, and relate the findings to L2 learning and teaching in Japan.
4. Conduct research on L2 pedagogical approaches integrated with ICT
5. Understand what is needed to qualify as an English teacher.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method 】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】
The course focuses on the teaching and learning of English. Students will learn theories of first and second language acquisition and a range of opportunities to explore research studies and pedagogy on EFL/ESL education. The course will be highlighted by the students’ individual performance: they are to choose one of the course topics and then make a presentation on it. They are required to practice their ICT pedagogical skills through the presentation as well as learning its content. Students are also required to take a final exam and submit a written assignment on a related issue.
Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Language, Learning and Teaching (1)	Current issues in second language acquisition (1)
3	Language, Learning and Teaching (2)	Current issues in second language acquisition (2)
4	Language, Learning and Teaching (3)	Schools of thought in second language acquisition (1)
5	Language, Learning and Teaching (4)	Schools of thought in second language acquisition (2)
6	Language, Learning and Teaching (5)	Schools of thought in second language acquisition (3)
7	First Language Acquisition	Issues in first language acquisition
8	Second Language Acquisition (1)	Building a theory of second language acquisition
9	Second Language Acquisition (2)	Study of models of second language acquisition (1)
10	Second Language Acquisition (3)	Study of models of second language acquisition (2)
11	Presentation (1)	Demonstration/observation, review and discussion (1)
12	Presentation (2)	Demonstration/observation, review and discussion (2)
13	Presentation (3)	Demonstration/observation, review and discussion (3)
14	Final Exam & Wrap-up	Consolidation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Students are required to prepare for their presentation sessions by creating presentation materials.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Brown, H. D. (2014). *Principles of language learning and teaching.* (6th ed.). Pearson Education.

【References】
1. Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment.* Cambridge University Press.
2. Long, M. H., &Doughty, C. J. (2011). *The handbook of language teaching.*Wiley-Blackwell.
3. 白畑智彦・冨田祐一・村野井仁・若林茂則 (著). 2009.『英語教育用語辞典』（改訂版）大修館書店.
4. 文部科学省. 2017.『小学校学習指導要領（外国語）』東洋館出版社.
5. 文部科学省. 2017.『中学校学習指導要領（外国語）』開隆堂出版.
6. 文部科学省. 2018.『高等学校学習指導要領（外国語・英語）』開隆堂出版.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Presentation materials (10%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (30%)
More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】
1. More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.
2. More detailed information about the topics to choose for the presentation and writing assignment will be provided in advance.
3. More intensive instruction on how to reflect the presentation will be provided in advance.

【Equipment student needs to prepare】
PC

【Prerequisite】
None.

EDU200ZA（教育学 / Education 200）

English Teaching in Primary School

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：火4/Tue.4
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】
The course is designed for students interested in exploring teaching English to young learners (TEYL) in primary education, with a particular focus on Japan and selected international contexts. It offers a historical and theoretical overview of how children learn a second language (L2) in primary school, examining second language learning (SLL) from psychological, educational, and linguistic perspectives, and considering how this differs from language learning by adolescents and adults. The course aims to develop a holistic understanding of primary English education by linking theories of language development in young learners with primary education at various levels: core issues in language policy and assessment, pedagogical approaches, and various materials that can be integrated into primary English practices. Students will examine current trends and debates in Japan and overseas, as well as the aims and requirements of recent curriculum guidelines. Throughout the course, they will be encouraged to critically evaluate existing practices, materials, and instructional decisions from both teacher and learner perspectives. By the end of the course, students are expected to develop an evidence-informed understanding of effective approaches to teaching English to young learners and to articulate context-sensitive ways of supporting primary pupils' language learning. They should be able to connect related theories and research to practical decision-making and to formulate their own perspectives on how primary English education can contribute to coherent language learning pathways from primary to secondary levels in Japan and in other educational contexts.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to:
1. Develop and explain an understanding of major second language learning (SLL) theories relevant to young learners and the core issues they address.
2. Explain and compare psychological, educational, and linguistic perspectives on L2 education in primary schools.
3. Analyse relationships between L2 education for young learners and primary school pedagogy in Japan and selected international contexts.
4. Apply the related theories to evaluate and propose context-sensitive TEYL pedagogical approaches across different levels of primary education.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【Method(s)】
For the completion of this course, students are required to undertake daily independent tasks by selecting a topic related to the lectures. A presentation, final examination, and written assignment are also required at the end of the course. Students will choose one of the course topics, deliver a presentation, and submit a corresponding written assignment. Detailed requirements, submission procedures, and feedback will be provided through the learning management system (e.g., WebClass).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Rationales of English Teaching in Primary School(1)	Issues in the historical overview of primary English education in Japan and overseas
3	Rationales of English Teaching in Primary School(2)	Issues in primary English education from different perspectives (1)
4	Rationales of English Teaching in Primary School(3)	Issues in primary English education from different perspectives (2)
5	SLL of Young Learners (1)	Issues in L2 pedagogical approaches (1)
6	SLL of Young Learners (2)	Issues in L2 pedagogical approaches (2)
7	Primary L2 Education (1)	Issues in teaching four skills (1)
8	Primary L2 Education (2)	Issues in teaching four skills (2)
9	Primary L2 Education (3)	Issues in teaching four skills (3)
10	Primary L2 Education (4)	Issues in assessing primary pupils
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Textbooks】
Annamaria Pinter. (2017). *Teaching young language learners*. Oxford University Press.

【References】
1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.
2. Bland, J &Lütge, C. (eds.). (2013). *Children's literature in second language education*. Bloomsbury USA Academic.
3. Coyle, D., Hood, P., &Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
4. Curtain, H. &Dahlberg, A. C. (2009). *Languages and children: Making the match, new languages for young learners, grades K-8* (4th ed.). Allyn &Bacon.
5. Ellis, G., Brewster, J., &Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
6. Garton, S. &Copland, F. (eds.). (2018). *The Routledge handbook of teaching English to young learners.* Routledge.
7. VanPatten, B., Smith, M., &Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
8.『創造的な学びを育む初等英語教育ー時代を超えて生き続ける理論と実践ー』（2022）津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会（編）朝日出版社.
9. 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』 開隆堂.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (20%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (20%)

【Changes following student comments】
More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:
1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】
Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】
Recommended to complete at least one of the courses presented below:
1. TESOL Ⅱ
2. Comparative Education

【Prerequisites】
Required to complete at least one of the courses presented below:
1. TESOL Ⅰ
2. Second Language Acquisition

EDU200ZA（教育学 / Education 200）

TESOL II: Teaching Methodology

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：木4/Thu.4

Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
The course is mainly provided for students intending to teach English. Its purpose is to give an insight into the basic issues in teaching methodology for L2 education. It will also encourage students to develop their own teaching performance with a consideration to make consistency in language education from the primary to secondary levels.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
1. Understand different types of L2 teaching methods and approaches.
2. Learn how to apply some findings of linguistic studies to L2 English teaching.
3. Consider L2 education in relation to crucial issues of semantics and pragmatics.
4. Grasp the knowledge and skills for teaching languages as well as L2 pedagogy through ICT to qualify as an English teacher.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Main Teaching Method 】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】
The course will focus on theoretical and practical aspects of the methodology of teaching EFL/ESL. It will also provide opportunities to explore a wide rage of EFL/ESL teaching scenes in different countries with reflections on those in Japan; for example EFL/ESL classrooms for learners who vary in age, gender, nationality and occupation can be examined. The students will relive EFL/ESL teaching scenes by following principles and techniques discussed and suggested in a range of teaching methods and approaches: they follow the model English lessons and demonstrate them in the form of micro-teaching. They are also required to create the related teaching materials including ICT along with the lessons. The final exam and a written assignment are required for the completion of this course, and in the written assignment, students demonstrate their study of the model lessons. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Introduction to Language Teaching Methods	Historical overview of language teaching methods and approaches
3	Language Teaching Methods and Approaches (1)	The Grammar-Translation Method / The Direct Method (DM)
4	Language Teaching Methods and Approaches (2)	The Audio-Lingual Method / The Silent Way
5	Language Teaching Methods and Approaches (3)	Dissugestopedia / Community Language Learning (CLL)
6	Language Teaching Methods and Approaches (4)	Total Physical Response (TPR) / Communicative Language Teaching (CLT)
7	Language Teaching Methods and Approaches (5)	Content-based Instruction / Content and Language Integrated Learning (CLIL)
8	Language Teaching Methods and Approaches (6)	The Participatory Approach / Cooperative Learning
9	Micro-teaching (1)	Creating a lesson plan: checking contents, materials, procedure and performance
10	Micro-teaching (2)	1. The Grammar-Translation Method 2. The Direct Method 3. The Audio Lingual Method 4. The Silent Way
11	Micro-teaching (3)	1. Desuggestopedia 2. Community Language Learning (CLL) 3. Total Physical Response (TPR) 4. Communicative Language Teaching (CLT)
12	Micro-teaching (4)	1. Content-based Instruction 2. Content and Language Integrated Learning (CLIL)
13	Micro-teaching (5)	1. The Participatory Approach 2. Cooperative Learning
14	Final Exam & Wrap-up	Consolidation and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before attending the class, students are required to comprehend the assigned chapters of the text book and references, and to complete the pre-tasks/homework that should be submitted on the weekly basis.
2. Before conducting micro-teaching, students are required to prepare for their lesson by creating a lesson plan and teaching materials.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Larsen-Freeman, D., &Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching.* (3rd ed.). Oxford University Press, USA.

【References】
1. Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment.* Cambridge University Press.
2. Erben, T. et al. (2009). Teaching English language learners through technology. Routledge.
3. Long, M. H., &Doughty, C. J. (2011). *The handbook of language teaching*. Wiley-Blackwell.
4. 白畑智彦、冨田祐一、村野井仁、若林茂則 (著) . 2009.『英語教育用語辞典』(改訂版) 大修館書店.
5. 神保 尚武（監修）. JACET教育問題研究会（編集）. 2012.『新しい時代の英語科教育の基礎と実践 成長する英語教師を目指して』三修社.
6. 望月昭彦、磐崎 弘貞、卯城 祐司、久保田 章（著）. 2010.『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館.
7. 文部科学省. 2017.『小学校学習指導要領（外国語）』東洋館出版社.
8. 文部科学省. 2017.『中学校学習指導要領（外国語）』開隆堂出版.
9. 文部科学省. 2018.『高等学校学習指導要領（外国語・英語）』開隆堂出版.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation: 10%
2. Micro-teaching: 30%
3. Teaching materials: 20%
4. Writing assignment: 20%
5. Final exam: 20%
More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】
1. More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.
2. More intensive instruction on how to reflect micro-teaching will be provided in advance.

【Equipment student needs to prepare】
PC

【Prerequisite】
ESL Education Ⅰ or TESOL Ⅰ

CMF100LE（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100）

社会連携フィールドワーク（ベーシック）

伊藤　マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session　｜　単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他　｜　キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　もし、授業中に大きな災害が起きて、大学から帰宅できなくなったら？
　この授業では、大学で帰宅困難になった状況を想定し、一泊二日の「キャンパス型帰宅困難者の模擬体験」を行います。ライフラインが制限された環境の中で、教室での宿泊や寒冷環境での生活を体験しながら、災害時でも健康を守り、生活を続ける力（レジリエンス）を学びます。例えば、断水時のトイレ対策、非常食の栄養、寒い教室での睡眠環境などを実際に体験し、災害時に役立つ知識と行動力を身につけます。千代田コンソーシアムの大学の学生と協働しながら課題解決に取り組む体験型プログラムです。
　災害時でも冷静に行動できる力や、将来の防災・ボランティア活動にもつながる実践力を身につけたい人の参加を歓迎します。
　豪雪や極寒を含む厳しい気象条件、さらには豪雨・猛暑・感染症など、地震・津波・噴火などの自然災害はもはや特別な出来事ではなく、私たちの日常に隣接するリスクとなっています。とりわけ本授業を実施する3月は、寒冷環境下での対応力も重要になります。
　本授業は、**「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプト**にライフラインが制限された環境下での模擬的帰宅困難者受入施設滞在体験を通して、帰宅困難者に生じやすい健康面・環境衛生面の課題に目を向け、不便な状況でも「自分の身を守る力」と「他者と協力して行動する力」を組み立てる力（レジリエンス）を実践的に学びます。

【到達目標】
1．寒冷環境下の避難生活が心身に及ぼす影響を科学的に理解し、災害時に自分の健康と安全を守る行動判断ができる。
2．断水・停電・教室宿泊などの制限下で、水が流れない場合のトイレ対応を含め、排泄・食事・就寝環境を安全かつ衛生的に整える実践力を身に付け、改善案を示せる。
3．他大学学生とグループで協働し、避難生活の課題に対する実行可能な解決策をまとめられる。
4．専門的な見地に立って、解決策を検証・修正できる。
5．学びを携行品・備蓄などの日常の備えに生かし、継続的な備えの習慣化と自助防災力を高められる。
6．生じた問題を適切に判断し、安全に帰宅するための行動計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅳ,Ⅵ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は、**スプリングセッション期間内に市ヶ谷キャンパスにておいて開講**します。授業の定員は60名とし、履修希望者が定員を超過した場合は履修者選抜を行います。
　第1回～4回の事前授業（2027年3月16日）では、災害に関する基礎知識、帰宅困難者の実態理解、健康リスクや避難時の課題抽出、健康に関するデータの計測方法などを学びます。
　第5回から第14回は、一泊二日の大規模自然災害後の帰宅困難者を模擬体験する授業を行います。教室での宿泊を通じて、トイレ衛生、非常食、携行品、就寝環境などの生活課題を体験的に学び、体験から得られた問題について、個人・グループで解決策を検討し、その評価と知識補足を通じて内容を深化させることを目指します。
【履修希望者へ】
1．履修申請方法
　履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。
　●申込フォーム（Googleフォーム）
　https://forms.gle/SRnqC4CG3jLzwyzu7
　●申請期間
　2026年10月16日（月）17:00～11月13日（金）15:00
　※期間外の申請は受け付けられません。
2．申込に関する注意
1）履修者選抜について：本科目には定員があります。
　応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。
2）申請後の流れ・注意事項
①申込完了後、Googleフォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。
内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。
※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。
②**履修者の決定は11月24日（月）です。**何らかの事情で**履修を取り消す場合は、11月19日17:00まで**に、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。
※　mamo1@hosei.ac.jp
③**履修登録は2027年度春学期に所属学部事務局が一括して登録します。**学生自身による履修登録は不要です。
④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。**受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。**
3）授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。
4）申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。
　なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Googleクラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	3月16日（2限）：ガイダンス	1）防災教育授業の目的 2）授業におけるリスク管理と誓約 3）大規模自然災害時の帰宅困難者の実態
2	3月16日（3限）：健康リスク・ブレインストーミング	1）グループワーク（アイスブレーク） 2）帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題を抽出 3）解決策を議論する
3	3月16日（4限）：帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題に関するグループ発表（課題共有）	1）発表資料を作成する 2）発表会 3）クラス全体での課題（トイレ・食・装備・睡眠）の再認識
4	3月16日（5限）：宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング	1）一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2）健康に関する測定の意義を再確認する 3）健康データの計測（歩数・睡眠・心拍等）

5	3月19日（2限）：集合・疑似体験シナリオの確認	1）教室に集合し、点呼、健康測定 2）スマホ・PC以外の外部連絡制限など、疑似帰宅困難者としてのルールを徹底 3）一泊二日のスケジュールと役割分担を確認 4）ライフハック・プロダクトの観点で「携行品」全公開（何があり、何が足りないか、リスト化して現状の「自助レベル」を可視化する）
6	3月19日（3限）：災害時のトイレ（衛生対策）実習	1）断水した既設トイレの災害用セットアップ（減災養生実習）[講師：総務部こ・小林次長] 2）災害時のトイレ使用と排泄物処理体験 **※トイレ実習は翌日1限開始前まで実施する** ※手順の難しさ、処理袋の扱い、臭いへの懸念など、現場で直面する精神的負荷を記録する
7	3月19日（4限）：非常食の試食・栄養バランスを考える	1）非常食の考え方 2）非常食の開発コンセプト
8	3月19日（5限）：備蓄非常食の搬送	1）大学備蓄品の受取と運搬（備蓄品倉庫の確認） 2）夕食 3）数社の非常食の試食と評価 ※空腹感、喉の渇き、食事中の孤独感や焦燥感など、心理的変化をサンプリングする
9	3月19日（6限）：健康測定・就寝準備及び翌朝の健康測定・朝食	1．就寝前 1）教室の床・机・椅子を使い「朝まで眠れる環境」を設営 2）健康測定 3）この時点での疲労度とストレス値を記録する 2．翌朝、起床後 1）健康測定 2）不十分な睡眠が身体に与えた「痛み・重だるさ」を記録する 3）朝食（大学の備蓄品等）を摂る 4）清掃・片付け **※体育館３Ｆ柔道場（または薩埵ホール等の大教室）へ移動**
10	3月19日（7限）：普通救命講習・前半（全3時間）	1．成人の 心肺蘇生（人工呼吸・胸骨圧迫） 2．AED使用法
11	3月20日（1限）：普通救命講習・後半（全3時間）	1．異物除去（気道異物） 2．止血法 3．運搬法（ログロール、ブランケットキャリー、各種搬送法） [外部講師：麹町消防署員（*3*～4名）] ※修了後「救命技能認定証」交付
12	3月20日（2限）：グループワーク	1）問題解決のためのグループワーク 2）課題とヒント ①就寝環境に関する問題：安眠と健康維持、硬い床や椅子での就寝による身体的・精神的苦痛を言語化、改善案を考案、教室内の資源で可能な「健康を守る寝床」の解をまとめ、より高度な環境改善の問いを得る ②トイレに関する問題：衛生管理と尊厳、臭気・衛生・プライバシーを両立させる、受入施設でのトイレ運用ルールを策定、過去の災害時の公衆衛生の失敗学や、科学的消毒・処理の最新知見を引き出し、解を深める ③携行品・非常食に関する問題：自助の最適化、今回の装備と食事の過不足、生存と健康保持に「真に必要なリスト」、「快適に過ごし、安全に再会する」ための、携行品と非常食を決定、栄養学・生存科学の視点から、社会実装可能なレベルまで「自助」の質を引き上げる ※ワークの手順：個人ワーク⇒グループ議論
13	3月20日（3限）：整理・資料作成	1）4つのテーマ（トイレ・食・携行品・睡眠）について、体験・問題抽出・グループの共有解・最終回答を整理 2）帰宅困難者となった時の多くの問題を解決するための多様なシミュレーションをグループで統合
14	3月20日（4限）：レポートの作成と総括	1）健康測定結果の解析：1泊2日の心身への影響を、実体験と客観データから多角的に分析する 2）サバイバル戦略の構築：健康を維持して帰宅するための、論理的な災害対応策を構造化する 3）行動計画の策定：帰宅困難者体験の成果を、日頃の備えや「自助」をアップデートする具体的な指針としてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

また、3月16日の事前授業解散後、スマートフォンのアプリケーションを利用した自らの健康情報（睡眠時間、心拍数、歩数、消費エネルギー等）の収集・記録を行う等の準備学習を実施します。日常生活における健康情報は、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的としています。

※重要：本授業では、準備学習の一環として、東京消防庁および公益財団法人東京防災救急協会が実施する**短縮救命講習（普通救命講習の短縮版）**を受講します。

この講習は、通常3時間で実施される普通救命講習のうち、学科部分を事前にオンラインで学習する方式で行われます。そのため、受講にあたっては以下の事前学習を必ず修了しておく必要があります。

1．公益財団法人東京防災救急協会が提供する電子学習室（eラーニング）による事前学習の受講

2．オンライン確認テスト（筆記試験）の修了

オンライン確認テストに合格した履修者のみ、授業内で実施する短縮救命講習（胸骨圧迫・AED操作等の実技訓練）に参加することができます。

本授業では、上記の事前学習を授業開始前までに修了することを必須とします。受講に必要なURLおよび具体的な手順については、別途案内します。

なお、期日までに事前学習を修了していない場合は、当該講習に参加できない可能性があります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
1．『自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究 (千代田区キャンパスコンソーシアム)』、令和3年度～5年度の共同研究報告書
2．『最期の声 ドキュメント災害関連死』(山川徹 著 / KADOKAWA)
3．『いのちを守るために知る 災害メカニズム図鑑』(京都大学防災研究所 監修 / 二見書房)
4．『人が死なない防災』 (片田敏孝 著 / 集英社新書)
5．『帰宅困難者対策ハンドブック』 (内閣府 / 東京都)
6．『避難所でのトイレ対策マニュアル』 (特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 編)
7．『防災キャンプ活動中のヘモグロビン濃度とストレスの変動』、伊藤マモル、宮崎賢哉、2022年3月31日、法政大学スポーツ研究センター紀要第40号、p.17-23
8．『実験医学 2022年7月 Vol.40 No.11 睡眠医学～眠りの分子・神経基盤を解明し、睡眠異常へ介入する』、上田泰己 (その他)、羊土社
9．『女たちの避難所』、垣谷美雨、新潮文庫
10.『警視庁災害対策課ツイッター防災ヒント110』、日本経済新聞出版社
11.『平成28年熊本地震大学避難所45日 障がい者を受け入れた熊本学園大学震災避難所運営の記録』、熊本学園大学(著)、熊本日日新聞社
12.『避難所に行かない防災の教科書』、西野弘章、扶桑社
この他も必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60％
2）レポート・作成した資料等：40％
授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。
ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020～2023年度に実施した「市ヶ谷キャンパスにおける首都災害時帰宅困難者問題への対応（一時滞在避難施設における二次災害・ウイルス感染等のゼロを目指して）」の履修学生を対象に行ったアンケートでは、履修満足度は非常に高く、実体験を通じて得られる学びの価値の大きさに気づいたという声が大多数を占めました。一方で、情報共有や議論の時間をさらに充実させてほしいという要望も多く寄せられました。
こうした高い評価と、類似する課題解決型フィールドワーク科目の拡充を求める声を背景に、2024年度にはロールプレイを取り入れたアクティブラーニング型の防災教育フィールドワークを新設しました。そのアンケート結果からは、体験型防災教育が学生の災害認識を具体化するうえで一定の効果を示し、履修学生が災害時の行動や備えをより自分事として考えるようになったことが確認されています。
これらの実践から、体験型の防災教育は、非日常的状況を想定した学習を通して、将来の災害時における判断や行動選択の基盤となる心理的準備や認識の枠組みを形成するうえで、有効な役割を果たすことがわかってきました。
本授業で実施する、キャンパス内での宿泊を伴う帰宅困難者想定の滞在体験は、多くの学生にとってこれまでにない貴重な学習機会になると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
本授業は、想定外の事態に対応する「実証実験」の要素をもった授業です。
重要なことは、本授業が「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視していることです。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品については各自の判断で持参することを推奨します。
また、本授業は大学の教室内での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。
以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて示します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えを、状況や体調に応じて各自で調整してください。

【その他の重要事項】
1．本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。
2．その他
1）この授業でLINEグループを作成した場合において、誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。
2）2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更したことがありました。そのため、履修する場合はスプリングセッション期間（授業予定日：3/16～3/20）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。
3）3/19の宿泊について
体育館や教室では、発災後の停電を想定した状況をより現実的に体験するために暖房の使用を制限する予定です。しかし、健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に暖房を使用します。
4）本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出ること。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。
5）授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。
6）本授業で得られた実習風景の写真や、健康測定結果、議論の内容は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。
なお、本科目は以下のSDGsのゴールに該当します。
3：すべての人に健康と福祉を
4：質の高い教育をみんなに
6：安全な水とトイレを世界中に
10：人や国の不平等をなくそう
11：住み続けられるまちづくりを

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course addresses the increasing reality that natural hazards — such as earthquakes, heavy snowfall, extreme cold, torrential rains, heatwaves, and infectious diseases — have become everyday risks. Conducted in March, the course emphasizes adaptive capacity under cold conditions.
Through a two-day, one-night experiential “Campus Shelter Simulation,” students participate in a collaborative, problem-solving program that assumes a campus-based stranded commuter scenario. By experiencing life in a simulated shelter environment with restricted lifelines, students learn practical resilience, including maintaining health and managing daily living during emergencies, while engaging in cooperative learning with students from partner universities.

【Learning Objectives】
1.To scientifically understand the physical and mental impacts of living in cold evacuation environments and make appropriate health and safety decisions during disasters.
2.To develop practical skills for safely and hygienically managing toileting, meals, and sleeping arrangements under restricted conditions such as water outage, power outage, and classroom sheltering, and to propose feasible improvements.
3.To collaboratively formulate actionable solutions to shelter-related challenges with students from other universities.
4.To evaluate and refine proposed solutions from a professional and evidence- based perspective.
5.To apply the learning outcomes to personal preparedness, improving individual disaster self- help capacity and establishing sustainable preparedness habits.
6.To create a practical action plan for returning home safely after a disaster.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.
Students are expected to read assigned materials, research emergency supplies, organize health- related data from field activities, and prepare for written reports.
From the preliminary session onward, students must also collect personal health information — such as sleep duration, heart rate, steps, and energy expenditure—using a smartphone application. These data will be compared with measurements taken during the simulated “stranded commuter” experience to evaluate changes and potential health risks.
Furthermore, this course requires completion of the Shortened Emergency Life- Saving Course administered by the Tokyo Fire Department and the Tokyo Disaster Prevention & Emergency Medical Service Association. The following mandatory pre- learning components must be completed before attending the practical session:
Completion of the online e- learning module.
Passing the online written confirmation test.
Students who do not pass the online test cannot participate in the in- person practical training.
The on- site session focuses exclusively on practical skills such as chest compressions and AED operation.
【Grading Criteria / Policy】
Student performance will be assessed comprehensively based on the six learning objectives, with emphasis on the process of collaborative problem- solving, engagement during class activities, and demonstrated skill development.
Evaluation breakdown:
Participation and conduct during class activities (teamwork, communication, leadership, facilitation, etc.): 60%
Final presentation and submitted materials: 40%
A rubric- based evaluation—including peer assessment within each group — will be used to ensure fairness and avoid one-directional grading.
Attendance at all sessions is expected due to the experiential and skill- based nature of the course. Students who face medical or physical challenges will receive individualized consideration and alternative evaluation as appropriate.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力　25%
（H）継続的学習能力　25%
（I）業務遂行能力　25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。
＊個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究①　新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	個人研究②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（3）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（4）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（5）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（6）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（7）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（8）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（9）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing.　Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units.　This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies.　This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。
＊個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究①　新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	個人研究②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。
14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。
＊個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究①　新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	個人研究②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。
14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができると思います。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
￥講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria / Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができると思います。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。

【その他の重要事項】
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will study the core principles of microeconomics and macroeconomics in order to understand how modern economies function. Students will learn how resources are allocated under different institutions and incentives, and will develop analytical tools to examine economic behavior. Topics include consumer choice, firm behavior and production decisions, market equilibrium and efficiency, game theory, and macroeconomic policy.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students will be able to explain key concepts in microeconomics and macroeconomics using standard economic reasoning;
analyze decision-making by consumers and firms and interpret market outcomes;
understand the basic framework of game theory and apply it to strategic interactions in economics and everyday situations.
This course places particular emphasis on game theory as a foundational method in modern economics. Lectures will be conducted primarily based on the materials distributed in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are expected to review the distributed materials regularly, as lectures will follow these materials closely. Careful review is also necessary to complete the assigned problem sets. The standard amount of preparation and review time is 1– 2 hours per class session.
[Grading Criteria / Policy]
Grades will be determined based on attendance, two homework assignments, and a final exam.
Attendance: 40%
Homework assignments (2): 20%
Final exam: 40%
Total: 100%

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができると思います。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	25%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria / Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	5%
（D）専門基礎学力	50%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	50%
（G）コミュニケーション能力	30%
（H）継続的学習能力	30%
（I）業務遂行能力	50%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース&マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。

（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
（8）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（9）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
（12）価値創造　事例1について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例2について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第2刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題2回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，のなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍，気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース&マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。

（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
（8）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（9）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
（12）価値創造　事例1について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例2について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第2刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題2回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：春学期授業/Spring　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超えるなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに気候変動のなかで，新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍，気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース＆マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（１）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（２）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（３）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（４）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（５）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（６）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（７）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。

（８）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（９）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山　肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題②	多様化するまちづくりの課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④　まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】
In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."
[learning goal]
This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form.
[Learning activities outside the classroom]
The standard time for preparation and review for this class is one hour each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding.Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山　肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④　まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】
In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."
[learning goal]
This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form.
[Learning activities outside the classroom]
The standard time for preparation and review for this class is one hour each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding.Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山　肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④　まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】
公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－）を参考にしてもらい。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】
In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."
[learning goal]
This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form.
[Learning activities outside the classroom]
The standard time for preparation and review for this class is one hour each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding.Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人、南後　由和

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を６回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で６回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90％）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10％）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人、南後　由和

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、山道　拓人、南後　由和

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を７回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で７回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAN200ND（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ

姜　理恵

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アントレプレナーシップ（起業家精神）の基礎理論を学んだのち、大学生に向けたアントレプレナーシップ教育プログラム案をグループで作り、教育会社に向けてプレゼンし、フィードバックをもらうことを通じて、知識の定着と理解を深める。
ここでいうアントレプレナーシップ（起業家精神）とは、企業を自分で起こすことに限定しない。イノベーションを産むすべての活動に必要な精神を指す。これを学び、実践し、身につけることは、コロナ禍を経て不確実化を増す現代社会に対応できるようになることでもある。
いつか自分で会社を設立したい方、変化の速いスタートアップの世界で働きたい方、企業の中から行動を起こしたい方など、その立場を問わず歓迎する。この科目では機会を特定し、行動を起こすための方法を扱う。この科目は座学やディスカッション、プレゼンテーションだけにとどまらず、実際に自分が行動することを通して学んだり、チームと協力して深刻な問題を特定し、革新的なソリューションを開発することに挑戦する。
これを通して、科学としてのアントレプレナーシップに対する知識を高めると同時に、マインドセットの成長を目指す。この科目を通じて行動と内省を繰り返すことで、アントレプレナーシップが自分のキャリア形成にどのように影響するか、強い確信を得ることを期待する。

【到達目標】
社会に新しい価値をもたらすというアントレプレナーシップの本質を、現在の自分自身に照らし合わせて理解することを目的とする。
「大学生向けの起業家精神教育プラン」を作ることで、自分ごととして、起業家精神を考えることができる。
それにより、今後のキャリアプランと併せて考えられるようになり、さまざまな企業の新規事業や起業家の活動を、起業家精神の視点から観察し、議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義、演習、実習、発表などを組み合わせて授業を進める。科目の特性上、通常の科目よりも更に積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション　ビジネスゲーム1	授業の進め方　商才とは何か　いかに意思決定を行うか
2	ビジネスゲーム2　姜とゲームで対決する	ビジネスでのリスクをいかに取るかをゲーム上で再現する
3	起業家の特性、天才研究、創造性	起業家は天才か？ 後から起業家になれるのか？ 創造性は先天的か後天的か？
4	発想のプロセス　発想の元となるアイデアの源泉、その育て方	良い発想はどうやって生まれるのか？　アイデアを取捨選択する方法
5	発想ワークショップ	良いアイデアを生み出すワークを実践してみる
6	起業家マインドセット　何があっても折れない心　はがねのメンタル	起業家の強いメンタルはいかにして成立するか
7	起業家的になれない人々　リスクが取れない　安定を選ぶ心理	創造性も、強いメンタルも持てない人々は、どうしたらいいのか
8	起業家の弱点	起業家の弱みを探る　それをいかに克服するか理論と事例
9	起業家精神を教える、学ぶ、教えながら自分も育つ	姜研究室が実践している子どもや女性に起業家精神やベンチャーを教えている事例を紹介　カリキュラムの構成を学ぶ
10	教育プログラムの開発1	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
11	教育プログラムの開発2	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
12	教育プログラムの発表	開発したプログラムを研修会社や大学教員などに発表　フィードバック
13	起業家精神を学んだ人々の成長　授業のまとめ	起業家精神を学んだこども、女性、学生の学びのプロセス、実体験を整理
14	期末試験	持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前・事後の配布資料リーディング、課題などを授業内で指示。
本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
Neck, H. M., Neck, C. P., &Murray, E. L. (2024). Entrepreneurship: The practice and mindset. Sage publications.
洋書なので英語が得意な人はチャレンジしてみてください

【成績評価の方法と基準】
1.平常点（出席、コミットメント）　50%
2.期末テスト（持ち込み可、理解と思考を問う）　50%

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックの機会を複数設け、授業の進め方や内容の参考にする。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC持参のこと

【Outline (in English)】
In this course, you will develop an entrepreneurial mindset through the creation of an entrepreneurial program for undergraduate students. You will learn, practice, and acquire entrepreneurial skills to create and discover solutions to an increasingly complex and uncertain post-Corona society. You will learn how to identify opportunities and take action, whether you want to start your own business one day, work in the fast-paced startup world, or work within a company. This course is not limited to classroom lectures, discussions, and presentations. It also includes learning by doing and the challenge of working with a team to identify a serious problem and develop an innovative solution. The goal is to increase the knowledge of entrepreneurship as a science and at the same time to grow in the mindset of entrepreneurship. Through repeated action and reflection, you are expected to develop a strong belief in how entrepreneurship can impact your career development. Students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字〜800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%。
・授業後課題は設問に200字〜800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）。
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5〜6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。単に学生が意見を言うだけでなく、それをもとに教員とやり取りを行うことで考えが深まると、学生から好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高
めることを目的とし、200字〜800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5〜6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・学生からは「学びが大きい」「思考が深まる」というフィードバックが多いので、毎回のグループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯやＮＨＫ記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

Religion and Society

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には，入学時以降のTOEFLやTOEICなど標準的なテストの結果と初回授業へのコメントを総合的に評価して選考します。
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、ＩＥＬＴＳ6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。
Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to provide students with a comprehensive exploration of the complex intersections between society and religion in the context of a globalizing world. As globalization continues to shape and redefine human interactions, this course seeks to critically analyze the multifaceted roles that religion plays in influencing and responding to global dynamics. Students will explore issues such as immigration, nationalism, conflict, gender, sexuality, tourism, consumerism, and citizenship, all within the broader context of contemporary global society.

【到達目標】
By the end of this course,
① Students will have gained a nuanced understanding of the intricate connections between society and religion in the age of globalization, enabling them to critically engage with the complex issues that arise in our increasingly interconnected world.
② Through a multidisciplinary approach, students will be equipped with the knowledge and analytical tools to address the challenges and opportunities presented by the dynamic interplay of society, religion, and globalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The first part of class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Tourism	Modern Pilgrimage in Japan
3	Religion and Sport	Affinities in Religion and Sport
4	Religion and Gender	Anti-Hijab Protests in Iran
5	Religion and Diplomacy	Russian Orthodox Church and Soft Power
6	Religion and Sexuality	LGBTQ and Post-Colonialism in Africa
7	Religion and Nationalism	Yoga and Indian National Identity
8	Religion and Globalization	Mid-term examination
9	Religion and Global Capitalism	Consumer Jihad in Turkey
10	Religion and Immigration	Anti-Muslim Sentiments in Europe
11	Presentation ①	Oral presentation of final papers (Group 1 students)
12	Presentation ②	Oral presentation of final papers (Group 2 students)
13	Presentation ③	Oral presentation of final papers (Group 3 students)
14	Presentation ④	Oral presentation of final papers (Group 4 students)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read the assignments and be ready for class discussions. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course web site.

【参考書】
Jayeel Cornelio, François Gauthier, Tuomas Martikainen and Linda Woodhead, eds., Routledge International Handbook of Religion in Global Society (Routledge, 2022).

【成績評価の方法と基準】
① Class participation 20%
② Mid-term examination (approximately one page in length) 20%
③ Final paper presentation 20%
④ Final paper (2-3 pages in length) 40%
Based on the grading criteria set by the instructor, students who successfully achieve 60% or more of the course goals will earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

林　志津江

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでのドイツ語学習やSAプログラム・派遣留学などを通じて獲得したドイツ語運用能力を維持向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く・話す楽しみをともに味わって参りましょう。

【到達目標】
1）A2 B1レベルのドイツ語テクストを辞典類を用いて読解し、その表現を用いて自らもドイツ語で叙述・表現することができる。
2）ドイツ語で読んだテクストを関連付け、ドイツ語圏の生活、文化、社会など各種トピックについての理解を深めることができる。
3）特定のテーマについてドイツ語で意見を述べたり聞き取ったり、平易なレベルの議論を行うことができる。
4）まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、テクストの理解を深めていきます。
・各回、指定されたドイツ語テクストを前もって読んでおきます（予習）
・授業は各回、テクストの読解分析が中心です。テクストの内容と重要概念（語彙）を確認しつつ、読解で確認した構文を使った作文練習をします。
・ペアワーク、グループワークと並行して、学期中に各参加者はプレゼンテーションを行います。
・プレゼンテーション課題の詳細と担当割り振りは授業第１回目に説明・確認します。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	Moderne Geschichte: Vom Reich zur Republik	ドイツ近代の歴史：ドイツ帝国の成立 ー 激動の19世紀、そして第１次世界大戦
3	Der Anfang vom Ende - Die Weimarer Republik	ヴァイマール共和国 ー 黄金の20年代・終わりの始まり
4	Terror und Vernichtung - Der Dritte Reich	第３帝国下のドイツ ー 恐怖政治と絶滅政策
5	Politik und Parteien ／プレゼンテーション（１）	選挙には行きますか？
6	Krisen und Konflikte（I）	ドイツにはどんな社会問題が？？！
7	Krisen und Konflikte（II）プレゼンテーション（２）	ドイツにはどんな社会問題が？？！
8	Beginn der Moderne: Vom Mittelalter zur Romantik	近代の始まり ー 中世からロマン派の時代
9	Bildung als Lebenssinn／プレゼンテーション（３）	人生の意義としての教養・ウィーンと音楽
10	Das Paradigma der Moderne - Bis heute	学問と表現の自由 ー 科学の発展と表現主義、バウハウス
11	Kunst und Wissenschaft（I）プレゼンテーション（４）	「芸術」の様式とは？！
12	Kunst und Wissenschaft（II）	「芸術」の様式とは？！
13	Im Nordwesten von Deutschland(I) プレゼンテーション（５）	ドイツ北西部とはどんなところ？
14	Im Nordwesten von Deutschland(II)	リューネブルクってどんなところ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各１時間以上を標準とします。
・授業ごと所定の予習・復習課題を行い提出します。授業時間外の課題（プレゼンテーションの分担）については別途指示します。
・インターネットやSNS等も使ってドイツ語圏のメディアに積極的にアクセスしてみましょう。新聞（日刊紙）などのニュース記事にチャレンジできればなお良しです。

【テキスト（教科書）】
„ Dreimal Deutsch“（Klett）（2025年度「ドイツ語７」使用教科書）
ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と貢献：50%、プレゼンテーションおよび提出課題：50％を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典および１〜２年次で使用したドイツ語文法の教科書は必携です。

【その他の重要事項】
・指定教科書をお持ちでない方については、科目担当者が販売します。履修登録・初回授業参加時にお知らせください。
・本科目はドイツ語圏SAプログラム参加学生や派遣留学を目指す方、学部専門科目に役立つドイツ語読解能力を身に付けたい方にフィットしています。目安としては４セメスター以上のドイツ語学習経験があることですが、学習進度には個人差もあります。迷う場合はぜひ担当者にご相談ください。
・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。

・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受検を推奨します。以上の受験結果は2026年7月25日頃（予定）までに担当者に通知された場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後にも受け付けます。

【Outline (in English)】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
・To be able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
・To be able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
・There are prescribed preparation and review tasks.
・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of some ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of the others (presentations, submitted assignments).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

小川　敦

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。

【到達目標】
語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
内容を吟味しながらテクストを読んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容をある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その４	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その５	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その６	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いてzu不定詞句の使い方に注意して読みます。
8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その７	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その８	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その９	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その１０	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その１１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。予習・復習ともに重要です。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は用いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】
・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加30%、中間試験30%、期末試験40%とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】
内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできると思います。授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 30%
Midterm examination 30%
Final examination 40%

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

Ｓｃｈｍｉｄｔ　Ｕｔｅ

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Alltagskultur im deutschen Sprachraum
ドイツ語圏の日常文化 ― 日本と比べてのぞいてみよう
この授業では、日常のちょっとした話題から最新の時事問題まで、ドイツ語圏の多彩なテーマを取り上げます。受講者はそれらを理解するだけでなく、自分自身の経験や日本の社会と比較しながら考え、意見を交換していきます。
簡単なディスカッションにも挑戦し、「違い」を楽しみつつ、物事を批判的に捉える力や、自分の生活文化をあらためて見つめ直す視点を養います。
また、本授業は Goethe-Institut などのドイツ語検定試験の準備としても役立つ内容です

【到達目標】
1）中級以上のテキストを理解できる。
2）様々な領域の語彙を習得する。
3）基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
4）幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
　長所、短所を挙げることができる。
5）簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
6）簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第3回	Männer und Frauen	Über Klischees sprechen Statistiken und Grafiken beschreiben
第4回	Hast du Netz？	Mediensprache
第5回	Tiere	Die Tierliebe der Deutschen Adjektive Wiederholung
第6回	Reparieren und Selbermachen	Etwas reklamieren Passiv Wiederholung
第7回	Musik	Festivalsommer Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第8回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第9回	Regional - global	Eine Region vorstellen
第10回	Lebensträume	Glück als Schulfach
第11回	Klima und Umwelt	Nachrichten verstehen Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第12回	Ein Blick in die Zukunft	Prognosen
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
予習はテキストを事前に読むと、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】
教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での発言（30％)、宿題提出（30％)、プレゼンテーション　(40%)）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will explore a wide range of topics related to the German-speaking world, from familiar aspects of everyday life to current social issues. Students will not only work to understand these topics, but also compare them with their own experiences and with contemporary Japanese society, and exchange opinions on each theme.
We will also try out simple discussions, fostering a critical approach to social issues as well as encouraging students to reflect on their own everyday culture.
This course will also be useful as preparation for German language proficiency examinations, such as those offered by the Goethe-Institut.
Grading will be decided based on class participation（30 %)、homework (30 %）and presentation (40%)

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル　ルー　清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので，そのつもりで参加して下さい。
課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが, Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La famille	Famille recomposée, vie de famille
3	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Question de génération	Participe passé Générations et éducation
6	Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Différentes définitions de l'amitié
7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
9	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
12	La famille: bilan	Révisions: passé composé, plus-que-parfait, participe passé, pronoms personnels...
13	Projet	Présentons nos proches
14	Caricatures ③ Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %
・リーディングマラソン(フランス語多読)：約 25 %
・作文：約 25 %
・平常点（授業への参加状況）：約25%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない，という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.25 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Class participation: app.25%。

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル　ルー　清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような 課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。
課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Quoi de neuf? (vacances) Présentation des participants, organisation et calendrier des activités
2	Les clés du bonheur	Se changer les idées, se divertir: loisirs créatifs
3	DELF B1 (ou B2) ①	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Art de vivre	Conditionnel présent et expression du souhait
6	Action!	Sports extrêmes Il faut / il ne faut pas + subjonctif
7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Activité physique	Donner des conseils, demander des informations
9	DELF B1 (ou B2) ②	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
12	Les clés du bonheur: bilan	Verbes prépositionnels, souhait, conditionnel...
13	Projet	Organisons une activité de plein air
14	CBC/Radio Canada	Compréhensions orale et écrite

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は 2 単位科目なので，法政大学学則（「1 回の授業につき 4 時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %
・リーディングマラソン(フランス語多読)：約 25 %
・作文：約 25 %
・平常点（授業への参加状況）:約 25%。 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.25 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Class participation: app.25%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】
授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。
次の三つのポイントに重点を置きます。
1．フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2．フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3．フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。
授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ne … plus) pronom “en”	自己紹介 プログラムの説明 1課　素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en”代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6課 銀行で 名詞補語　”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10課 問い合わせする 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/adverbes de lieu	11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l’agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15課 窃盗の被害届 される　　受動態
⑬	Révisions Test final	復習 期末テスト
⑭	Correction du test Culture française	テストの返却 フランスの文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l’élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】
1. 中間テスト・期末試験:60 %
2. 課題:30%
3. 積極性:5 %
4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】
より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434343935.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

DES200GA（デザイン学 / Design science 200）

視覚デザインと文化情報

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：情報コミュニケーションIII
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「視覚デザインと文化情報」は、情報デザインに関する入門的かつ実験的な実習科目です。ロゴタイプ、シンボルマーク、ピクトグラム、イラストレーションなどを題材に、デザインやアートに関わる基礎的なトレーニングを行います。

【到達目標】
作品制作と並行して行う毎回の対話を通じて、デザインの概念や視覚言語に関する理解を深め、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。あわせて、創作活動全般にも通じる、クリエイティブな造形表現に必要な知識・感覚・技術を養います。
また、絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルによる写真加工やデザイン制作が初めての人も、難しく考えずに積極的に手や体を動かすことで、「つくること」の楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、視覚言語の基礎となる以下の3つのテーマを中心に、課題制作を行います。
1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィー）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックス）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）
各課題に取り組むにあたっては、課題の意義や制作の進め方について講義を行うとともに、制作のポイント、使用する材料・道具、ソフトウェアの操作方法について説明します。各課題の最終段階では、作品発表（プレゼンテーション）および講評・フィードバックを実施します。
実習では、実習室に設置されている Adobe Illustrator を使用します。また、授業を円滑に進めるため、以下のオンラインツールを活用します。
・Google Sites（授業関連コンテンツの配信）
・Google Classroom、Google Forms（課題提出およびフィードバック管理）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要
第2回	ロゴタイプとシンボル（1）	講義 ロゴタイプとシンボルマーク ワークショップ 基本的な図形の書き方とシンボルマーク
第3回	ロゴタイプとシンボル（2）	講義 フォントと書体 ワークショップ ロゴタイプの制作（1）
第4回	ロゴタイプとシンボル（3）	ワークショップ ロゴマークの制作（2）
第5回	ピクトグラム（1）	講義 ピクトグラムとは ワークショップ ピクトグラムの模写
第6回	ピクトグラム（2）	講義 オリンピックのピクトグラム ワークショップ スポーツ・文化をテーマとしたピクトグラムの作成
第7回	ピクトグラム（3）	ワークショップ 大学構内の案内用サインの作成
第8回	インフォグラフィック（1）	講義 インフォグラフィックについて ワークショップ 気になったポスターをコピーする
第9回	インフォグラフィック（2）	講義 ZINEについて ワークショップ ZINEの制作1
第10回	インフォグラフィック（3）	ワークショップ ZINEの制作2
第11回	レイアウト（1）	講義 インフォグラフィックを元としたイラストの作成 ワークショップ パンフレット表紙レイアウト（1）
第12回	レイアウト（2）	ワークショップ パンフレット表紙レイアウト（2）
第13回	レイアウト（3）	ワークショップ パンフレット表紙レイアウト3 作品の制作（3）
第14回	作品の講評	課題作品のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
街の中のサインやポスター、本や雑誌、さまざまなプロダクツなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫を意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのもよいと思います。
また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思うものをスマートフォンやデジタルカメラ等で撮影し、ストックしておいてください。制作の材料として使用します。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
永井 弘人「デザイナーになる！　伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室［特別講義］確かな力を身につけられる　〜学び、考え、作る授業〜」SBクリエイティブ

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
使用するソフトは以下の通りです。
　Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】
初心者の皆さんには、各ソフトを用いた作品制作のコツをまず掴み、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も、ぜひチャレンジしてみてください。
課題制作については、各受講者の能力やそれぞれが取り組みやすい進め方などを考慮し、毎回の内容や目標を固定的に定めていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。
初回のオンラインによるガイダンスには必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜を行います。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティストです。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で行っており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Outline and objectives
This practical lesson is an introductory and experimental valuable lesson on information design. Basic training related to design and art such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustrations.
Learning Objectives
Through each lecture held in parallel with the production of the work, we will deepen the understanding of the design concept and visual language and provide basic training on visual expression that facilitates communication between people. In addition, we will cultivate the knowledge, sense, and skills necessary for creative modelling expression that is familiar to all creative activities.
People who are not good at drawing or are new to digital photo processing and design production will experience the joy of making by actively moving their hands and body without thinking difficult.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と生物

島野　智之、川上　裕司、黒沼　真由美、松崎　素道、鈴木　忠、富川　光

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり
配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：バイオインフォマティクス
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化という視点からみた生命の実像を学ぶ.
内容は大きく2つに分けて，(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と，(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う．分野は衛生学，美術，生物学，農業にわたり，生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ.

【到達目標】
ヒトの生活と生物にまつわる歴史，文化そして，現代的な問題を解決する方法について，考え理解する．生物の多様性や進化について，考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている.ここでは，生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について，現代生物学の手法を体験し，現状を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う.
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．11回までは，講義が中心ですが，特に，5-8回は，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します.最後の実習（12回以降）は，実際にパソコンのソフトを用いて，外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います.
メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）,②食中毒とは何か,③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か,②医食同源は健康的な食生活の基本,③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態,②ダニ・昆虫アレルギーについて,③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ)、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物〜歴史を作る影の立役者〜 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物の進化と塩基配列情報 (1) 塩基配列情報によって進化を推定する. 担当教員：島野	生物の進化を推定する．生物の遺伝子DNAの塩基配列情報から作成された系統樹から何がわかるのか.
8	(III) 動物とは？ (1) 死と復活 担当教員：鈴木	自然発生論争と蘇生論争
9	(III) 動物とは？ (2) 未発見の生物を発見するために，冒険に出よう. 担当教員：鈴木	生物と名前。なぜ生物に名前があるのか。どのように名前を付けるか。
10	(II) 生物と生態系 (1) 生物と環境の共進化 担当教員：松崎	生命の起源、共生による生物進化、地球環境の改変と適応
11	(II) 生物と生態系 (2) 生態系と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置と役割（生態系改変や宿主操作）
12	(II) 生物と生態系 (3) 食文化と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物と食文化との関わり
13	(IV) 生物の分類と命名 (1) 人間生活と生物の分類 担当教員：富川	生物を分類し，名前を付けることの意味について，人間生活と関連付けて考える.
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1)無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし，様々な形態や筋肉のつき方,動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し,柔軟な思考ができるように努めてもらいたい.本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない.個人的に作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある.教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが,この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え,総合的に評価する.
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
今年度，カリキュラムを大幅に改訂し，国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である.
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい.

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用します.パソコンにインストールされているソフトを元に，実習します.遺伝子データベース　http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html を使います.

【その他の重要事項】
情報実習室で行うことに注意してください.

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.
The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と環境情報

島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂、吉川　翠、長谷川　真紀子

サブタイトル：人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2〜4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】
人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている．ここでは，生態系，地球環境と，人間生活，食文化，病気などについて，現代生物学，栄養学，医学，保全生態学の観点から現状を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う．講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらう．講義が中心だが，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいる．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介する．メールの添付などの方法をもちいて課題等に対するフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生物多様性と持続可能性 (1) 生物多様性はなぜ必要なのか. 担当教員：島野	講義内容のあらすじ ①生物多様性条約　②食文化（乳製品）と生物多様性　③分類学と生物多様性
2	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (1) SDG s de 地方創生ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近な“プロジェクト”に引き寄せながら “自分事として体感”する．地域で暮らす市民，事業者，ＮＰＯ，自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生 ×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する． ①「SDGs de 地方創生」 ②まちづくり ③地方創生 ④人口減少
3	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (2)Change for the blue（海洋プラスチック課題）ワークショップ 担当教員：中西	「Change for the blue」を通して、海洋プラスチック削減のために、企業・組織の一員としてできること、一市民としてできることについて考え、市民意識、技術、経済状況等も踏まえて、ごみ削減を体感する。 ①Change for the blue ②海洋プラスチック ③ごみ削減
4	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (3) レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のMethodと教材を活用したワークショップ（ありたい未来の世界を考える） 担当教員：中西	レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のメソッドと教材を活用し、ありたい未来の世界の姿についてコンストラクショニズムに基づき、作品を作成し、内省し、対話を行う。①レゴブロック ②コンストラクショニズム ③対話
5	(III) 感染症と日本社会 (1) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
6	(III) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
7	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (1) 土壌汚染 担当教員：長谷川	人間活動の影響によりおこる、化学物質や薬品、畜産などによる土壌汚染問題について学ぶ。また、汚染土壌中に棲む土壌動物の特徴について理解する。 ①人間活動の問題点 ②土壌汚染の具体例 ③汚染物質の土壌動物への影響
8	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (2) 近代以前の日本と現代の日本 担当教員：長谷川	江戸時代の暮らしや環境について学び、現代日本の社会生活の特徴について理解する。 ①江戸時代の暮らし ②循環型社会 ③江戸時代の農業
9	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (4) 1日の生活様式と食生活を振り返る（生活活動調査＆食事バランスガイド） 担当教員：中西	生活活動調査と食事バランスガイドの調査用紙に回答し、一日の身体活動量を算定、エネルギー必要量や必要な食事バランスを知るとともに、各自の一日の食事を振り返り、どのような栄養バランスの食事をしているのか知り、改善点を考える。①身体活動量 ②推奨エネルギー摂取量 ③食事バランスガイド
10	(III) 感染症と日本社会 (3) エイズと社会 担当教員：塚田 ※この回は，オンラインに変更する可能性があります．事前にお知らせしますので注意してください	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
11	(I) 生物多様性と持続可能性 (2) 霊長類の生物多様性 担当教員：吉川	霊長類の社会：ヒトは霊長類の１種であるという視点から、ヒトを含めた霊長類の社会や行動の違い、共通点を学ぶ。また、環境への適応について、ヒトの進化の隣人といわれるアフリカのチンパンジー等の行動生態の研究事例を学び、理解を深める。 ①ヒトと、ヒト以外の霊長類について ②霊長類の行動と生態
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ. さらに，新潟市佐潟の「潟普請」，習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して，湿地の保全や再生にかかわる文化について考える.
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ. さらに，大崎市の「ふゆみずたんぼ米」，檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光，豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して，ワイズユースにかかわる文化を考える.
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進めるCEPA（コミュニケーション、力量形成，学習・教育，普及活動）について学ぶ. さらに，高島市の「ふるさと絵屏風」，ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」，日本湿地学会の活動などの事例に即して，CEPAにかかわる文化を考える.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し,柔軟な思考ができるように努めてもらいたい.本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない.作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある.

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが,この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え,総合的に評価する.この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善に努めている．
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい．

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii学習支援システムを利用するので，情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい．

【その他の重要事項】
※講義10回目，塚田先生ご担当回　オンラインに変更する可能性があります．事前にお知らせしますので注意してください．

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.
The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

SES300GA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

ソーシャル・プラクティス

稲垣　立男

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：情報デザイン
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティス、あるいはソーシャリー・エンゲージド・アートと呼ばれる、環境や政治、コミュニティ、ジェンダーなど、さまざまな社会的問題に直接働きかけるアートの分野について学びます。社会と直接関わる現代アートのアプローチに関する理論と実践を扱い、ワークショップ形式の実習授業を行います。

【到達目標】
この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。
1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題
自分たちを取り巻くさまざまな社会的課題を捉え直し、調査を基に各自が課題を設定し、それを作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施し、グループワークによる調査やディスカッションを経て、さまざまな発表形式による作品制作を行います。
ワークショップの冒頭では、課題と関連した社会的課題に関する解説を行うとともに、美術史や美術理論に関する基本的な知識を確認します。
次に、資料調査や大学内外でのフィールドワークを通じて問題を探ります。
最後に、各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。
○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使用します。
Google Sites（授業の基礎となるコンテンツの配信）
Google Classroom、Google Form（課題提出、そのフィードバック、質問など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
第2回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 講義と対話	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など環境問題に関する対話
第3回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 グループワーク	言語による表現を通じて環境に関するテーマについて考える
第4回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション1	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（1）
第5回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション2	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（2）
第6回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 講義と対話	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など共生と社会に関する対話
第7回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 グループワーク	視覚表現を通じて共生社会について考える
第8回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作1	映像による作品制作と対話（1）
第9回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作2	映像による作品制作と対話（2）
第10回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義と対話	ジェンダー、貧困問題、表現の自由などに関するテーマについて考える
第11回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス グループワーク	インスタレーション・パフォーマンスによるプレゼンテーションと対話
第12回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション1	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（1）
第13回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション2	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（2）
第14回	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義について、参考例を見ながら振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会を多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
パブロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって 』 フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through group work surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.
Learning Objectives
In this course, we will practice the following three themes.
1. Environmental problems and society
2. A symbiotic society
3. Political issues
We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

フィールドワークと表現

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：メディア表現ワークショップ１
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、表現活動へとつながるフィールドワークを中心とした実習科目です。各回の実習はワークショップ形式で行います。
教室および大学構内外をフィールドとし、「カメラを持って旅に出よう」「スケッチブックに記録しよう」「動きや音を拾うことから」という3つのテーマに基づいたフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションとして発表します。

【到達目標】
みなさんは各課題を通じて、さまざまな表現活動に通じる取材・調査の方法や、複数のメディアを用いた表現方法を学びます。
課題に取り組むにあたっては、自由な発想と臨機応変な対応が求められます。柔軟な姿勢をもって、積極的に（楽しみながら）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
下記の３つの内容に基づいて、制作実習をします。
第1課題　カメラを持って旅に出よう。
記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
第2課題　スケッチブックに記録しよう。
スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録していきます。
第3課題　動きや音を拾うことから。
拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
第2回	カメラを持って旅に出よう。(1)	課題説明と講義 記録としての写真
第3回	カメラを持って旅に出よう。(2)	ワークショップ 私の決定的瞬間
第4回	カメラを持って旅に出よう。(3)	ワークショップ 写真による「組曲」
第5回	カメラを持って旅に出よう。(4)	ワークショップ 私の原風景
第6回	スケッチブックに記録しよう。(1)	講義 スケッチの技法
第7回	スケッチブックに記録しよう。(2)	ワークショップ シュルレアリスムの実験
第8回	スケッチブックに記録しよう。(3)	ワークショップ 架空の研究
第9回	スケッチブックに記録しよう。(4)	ワークショップ 就職するためのスケッチ
第10回	動きや音を拾うことから。(1)	課題説明と講義 音や映像による記録
第11回	動きや音を拾うことから。　(2)	ワークショップ 日常の音に注目してみよう
第12回	動きや音を拾うことから。(3)	ワークショップ 反復する音
第13回	動きや音を拾うことから。(4)	ワークショップ 社会人になるための音
第14回	講評会	課題作品の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史―欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
藤田 結子『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践 (ワードマップ) 』新曜社、2013年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。
楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
スケッチブック及びスマートフォンが必要となります。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
This course is a practical training course centred on fieldwork that leads to expressive activities. Each session is conducted in a workshop format.
Using classrooms and locations both on and off campus as fields of practice, students carry out fieldwork based on three themes:
Going on a journey with a camera
Recording in a sketchbook
Starting from capturing movement and sound
The outcomes of this fieldwork are presented in the form of presentations.
Through the course, students engage in research and investigative activities that form the basis of creative expression, including approaches they may not have previously experienced. Students who are proactive in research and enjoy discovering new and interesting perspectives are encouraged to enrol.
The standard amount of preparation and review time for this course is two hours per session.
Grades are determined by a combination of class participation and assignments/reports, with particular emphasis placed on experimental approaches and active engagement. The grading breakdown is as follows:
1.Class participation (50%)
2.Assignments and reports (50%)
Students who achieve 60% or more of the course learning objectives, based on this evaluation method, will receive a passing grade.

ARSa300GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

ドイツ語圏の文化 I

林　志津江

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【近現代ドイツの歴史と文化】
ドイツ語圏のうち、主に近現代のドイツとオーストリアを扱います。18〜20世紀のドイツ語圏の人々のライフスタイルや価値観から、21世紀の日本に住む私たちがどのような示唆に与ることができるのでしょうか。この授業ではドイツ帝国の成立から二度の大戦、東西冷戦と東西ドイツ国家・ドイツ再統一に至る歴史を、文化現象と芸術作品を通じて概観します。

【到達目標】
1）近現代ドイツ語圏の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、抽象的概念や文化に対する知的なアプローチの方法を学ぶ。
2）ナショナル・アイデンティティの実体や困難に対する思考・反省能力の涵養：「ドイツっぽい」と同様、「日本ならでは…」の正体もそこまで安心・確実なものではないかもしれません。
3）言語テクスト、文化現象や芸術の形式・分析の分析を通じて、抽象的な議論に慣れる：文化や芸術と呼ばれる現象を知的に理解し楽しめる能力は、人生を楽しく豊かに彩るため（だけ）にあるのではなく、むしろ21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・18世紀後半〜20世紀のドイツ語圏における文化現象を、時系列に沿って扱います。
・各回、担当者による解説やテクスト講読を中心とする講義が中心ですが、適宜ペアワーク、グループワークの時間も設け、参加者が相互に授業内容の理解を深める機会を持ちます。
・LMSとしてGoogle Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	「皇帝」から「フォルク（Volk）へ」 — 「ドイツ人」って誰ですか	ハイドン『弦楽四重奏曲第77番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797年）／H. v. ファーラースレーベン「ドイツの歌」（1841年）
第3回	都市化するベルリン — 歴史を伝える絵画	メンツェル『ベルリン〜ポツダム鉄道』（1947年）／『サンスーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）／『鉄圧延機工場』（1872-1875年）
第4回	革命あるいは父と息子の確執 — ヴィーンのワルツ・ビジネス	「リング」の建設／J. シュトラウス『ラデッキー行進曲』（1848年）／J. シュトラウス2世『美しき蒼きドナウ』（1867年）
第5回	自然への脱出（1）— 「芸術家」になるために	「青騎士」と「ブリュッケ」／O・ミュラー『水浴する風景』（1906年）、E.L. キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）、『ポツダム広場』（1914年）など
第6回	自然への脱出（2）— 徒歩旅行と合唱の「運動」	「現実から逃避したい」／感情と行動の共同体／「ヴァンダーフォーゲル」から「自由ドイツ青年」へ
第7回	審美眼から機能主義へ — 「バウハウス」の誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919年）／G. ムヒェ「ハウス・アム・ホルン」（1923）／O. シュレンマー『トリアディック・バレエ』（1922年）など
第8回	女性と創造性（1）— 機械の時代の芸術	O. ディックス『大都会』（1927/28年）／C. シャート『ソーニャ』（1929年）／A. ザンダー『20世紀の人々』（1929年）など
第9回	女性と創造性（2）— 「デザイン」と「広告」	デッサウのバウハウス校舎（1925年）／バウハウスの織物工房・金属工房・タイポグラフィーと写真について
第10回	ナチの権力掌握とプロパガンダ（1）— 「ドイツ的な芸術」？！	「表現主義」をどう理解するか／「頽廃芸術展」と「大ドイツ芸術展」（1937年）
第11回	ナチの権力掌握とプロパガンダ（2）— 「ユダヤ系」の意味	ジャズとダンスホールの行方／「私は音楽がやりたいだけなので」？！
第12回	ドイツにモダニズムを取り戻す — 経済の奇跡と「過去の克服」	カッセルの「庭園見本市」から「ドクメンタ」へ／J. ボイス『7000本の樫の木』（1982-1987年）など
第13回	闘争の音・ベルリンの壁 — 「聴いてはいけない音楽」からのクラブカルチャー	Th. ブルスィヒ『太陽通り』（1999年）／「ラブ・パレード」（1989-2010）
第14回	まとめ	今学期のまとめ・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備えて準備すること。
・首都圏近郊の美術館（「キャンパス・メンバーズ」を活用）等で実際に様々な作品に触れること。

【テキスト（教科書）】
各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
その他、適宜授業内に提示します。

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加と貢献・提出課題の作成（50%）
・筆記試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具およびWiFiの受信可能なデジタルガジェット

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
This course introduces the art scene in German-speaking areas and countries from the end of the 19th century (modernism) to the present era. It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche（German)" or "deutsch (German-like)" as concepts that we may feel we understand, but that are actually difficult to grasp without careful reflection. The work in this class will also lead us to reconsider general ideas and categorical ways of thinking, such as “Japanese,”“Japan,” or “Japanese-like.”
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・To be able to reflect on issues such as national identity or representational culture, express their own opinions and write texts of a certain length on the themes mentioned above.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of Quebec. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading the relevant documents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

フランス語圏の文化III（歴史）

ル　ルー　清野　ブレンダン

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではフランス語圏の歴史を，フランスの植民地帝国という導きの糸に沿って，様々なテーマについて考えながら勉強していきます。現在の「フランス語圏」（pays / régions francophones）のほとんどがフランスの植民地帝国にその由来をたどることができますので，フランスの植民地帝国を勉強することにより世界各地に広がるフランス語圏の諸地域との関係性が明らかになるはずです。

【到達目標】
この授業では，学生達はフランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する様々な側面を探求したり，論じたりします。 授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
①フランスの植民地帝国について基本的知識を獲得し，説明できる。
②植民地の概念を概ね理解できる。
③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
(④フランス語圏への留学に備える。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な資料(歴史的文章，論文，図や絵画など)を分析し，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し，質問に答えることで，フランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する共通の知識を築いていくことを目指します。
この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。歴史や資料，特にフランスの植民地帝国及びフランス語圏の歴史に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えましょう。
また，「フランス語圏の文化」という授業題名ですので使用する資料の多くはフランス語になりますが，必ずしもそれらを完璧に読解する必要はありません（並行して訳文を使う場合もあります）ので，フランス語の能力というよりはフランス語（圏）への興味が重要です。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのグループワーク等のアクティビティに積極的に参加することです。
課題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業紹介 植民地とは何か①	シラバスの確認 授業運営の紹介 植民地の定義，概要
②	植民地とは何か②	植民地の類型①
③	植民地とは何か③	植民地の類型②
④	植民地とは何か④	植民地（化）は過去の現象なのか？
⑤	フランス植民地帝国の名残①	オランジーナ
⑥	フランス植民地帝国の名残②	バナニア，ビスケット，遊園地
⑦	フランス植民地帝国の名残③	北米の地名
⑧	まとめと中間テスト	「植民地とは何か」及び「フランス植民地帝国の名残」（前半）
⑨	フランス植民地帝国の名残④	言語状況について①北米①
⑩	フランス植民地帝国の名残⑤	言語状況について②北米②
⑪	フランス植民地帝国の名残⑥	言語状況について③アフリカ
⑫	Nouvelle-France開拓への道①	「新」大陸への探検
⑬	Nouvelle-France開拓への道②	「新」大陸の探検と開拓
⑭	まとめと期末テスト	「フランス植民地帝国の名残」（後半）及び「Nouvelle-France開拓への道」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
Pierre Singaravélou (dir.), "Colonisations. Notre histoire", éditions du Seuil, 2023
それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・中間テスト：30％
・期末テスト：30％
・発表やリフレクションシートなどの課題：20 ％
・平常点（授業への参加状況）：20 ％
※ 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特に明記されていないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
前もって合意した特別な状況以外は，授業中の電子機器（スマホ，パソコン等）の使用を認めません。ただし，資料を解読するための電子辞書の使用は認めます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about the history of the French colonial empire. One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written mainly in French.
It is not a goal of this course to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading (or watching...) various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the the history of the French colonial empire and its links to the "francophone" world.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
The grading criteria shall be as follows:
・Mid-term exam: 30%
・Final exam: 30%

・Presentations, reflection papers, and/or other activities: 20 %
・Class participation: 20%

ARSa200GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界5大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。
具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】
(1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
(2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
(3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。
2〜3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。
毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	Ⅰ．カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	Ⅰ．カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	Ⅰ．カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	Ⅱ．カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	Ⅱ．カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	Ⅱ．カナダ・ケベック州③	【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）①	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。
授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特になし。
・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】
授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。
・鳥羽美鈴著,『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年.
・平野千香子著,『フランス植民地主義の歴史』人文書院，2002年.
・中村隆之著,『カリブ－世界論』人文書院，2013年.
・小畑精和著,『ケベック文学研究』御茶の水書房，2003年.
・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
・鵜戸聡著,「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編，名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号），風媒社，2011年.
・梶茂樹・砂野幸稔編著,『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるということ』三元社，2009年.
・岩本和子著,『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社，2007年.
・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】
・評価配分は、以下の通り
①平常点（コメントシートなど）：30％
②期末レポート：70％
・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】
フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on th folloing:
in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。
授業を紹介する動画を２つ用意しました。ぜひご覧ください：
《なぜ国は買えないのか》　https://x.gd/aZ8no　※学内者限定
《西ヨーロッパと自由》　https://x.gd/6bP6e　※学外からも閲覧できます。
学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。
・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。
・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末テストは行いません　0%
●２．期末レポートは出題しません　0%
●３．小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※１）】60%
（※１）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
●４．オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月４限のZoomミーティングへの各学生による接続（※２）】20%
（※２）ただし、第１回、第２回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのみ、この項目●４．ではなく、●６．における評価対象といたします。
●５．グループ・ディスカッション＆学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※３）】20%
（※３）グループ・ディスカッションは、３〜６人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
●６．その他【１．〜５．の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第１回、第２回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Wordファイル）https://x.gd/1W2Mf

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).
1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。あらかじめ何に留意して読むかは教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
・100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。
・教員から指定される分析をグループ討議で行い、その結果を発表した上で、全体でも討論をするのには100分間は非常に短いという声が多い。その一方で、短時間で深い議論を行い、一定の結論をグループで出す訓練の場になるという意見も聞かれる。そうした力を大学時代に養いたい学生にはお勧めの授業と言えそうである。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】
■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例も議論のためのケースとして取り上げる。
■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、なるべく出席すること。
■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは2-3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

HIS300GA（史学 / History 300）

The Global South: History and Politics

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、ＩＥＬＴＳ6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。
Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course takes up current social, economic, and political issues related to "the Global South," such as climate change, immigration, tourism, pandemics, repatriation of art and cultural artifacts, and Black Lives Matter, from a transnational and cross-cultural perspective, incorporating the historical past.
By discussing various topics associated with the Global South, students will gain knowledge of important contemporary phenomena, acquire concepts and theories for analyzing these phenomena, and be able to research issues related to the Global South.

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・Understand the issues surrounding the Global South and their historical background.
・Analyze issues related to the Global South using concepts and theories from the framework of global and transnational history.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The first part of the class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings and important concepts and theories related to the topic. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of the course.
Week2	Climate Change	Explores the impact of climate change on the Global South and discusses the conflict between the Global South and developed countries over environmental issues.
Week3	Tourism	Traces the images of Africa as a tourist destination created by the West in the past and discusses how such images are currently being renovated and/or reframed.
Week4	Pandemics	Explores the pandemics that have historically plagued Latin America and discusses the problems caused by Covid-19.
Week5	Representation	Analyzes exotic advertising using Edward Said's notion of Orientalism and discusses how such images are now being appropriated by the Global South.
Week6	The midterm	The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz
Week7	Immigration and Citizenship	Takes up the case of past migrants from India to East Africa and discusses their current situation as citizens in African countries.
Week8	Repatriation of Cultural Heritage	Using the case of museums in Germany that own artifacts confiscated from colonies, discusses the repatriation of cultural heritage.
Week9	Black Lives Matter Movement	Explores the current controversy over public history and monuments in the wake of the Black Lives Matter movement.
Week10	Final Paper Presentation 1	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week11	Final Paper Presentation 2	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week12	Final Paper Presentation 3	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week13	Final Paper Presentation 4	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Class14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.
Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course site.

【参考書】
○Carina Schmitt, eds. From Colonialism to International Aid

External Actors and Social Protection in the Global South (Palgrave Macmillan, 2020).
◯Danielle Watson, et al. Policing the Global South: Colonial Legacies, Pluralities, Partnerships, and Reform (Routledge, 2023).

【成績評価の方法と基準】
① Class participation 30%
② Primary document analysis quiz 20%
③ Presentation 20%
④ Final Paper 30%
Based on the grading criteria, students who successfully achieve 60% or more of course goals will earn a passing grade.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
ICT devices such as laptops and tablets.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅰ

佐々木　大輔

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業・環境科学Ⅱを通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。
環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】
本授業では、主に地球規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（1）気候変動、（2）生物多様性、（3）化学物質汚染について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（1）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（2）	エネルギー資源
第4回	気候変動（3）	再生可能エネルギー
第5回	気候変動（4）	緩和策
第6回	気候変動（5）	適応策
第7回	気候変動（6）	国際環境政策の変遷、国連気候変動枠組条約の仕組み
第8回	気候変動（7）	日本国内における取り組み（気候変動適応法など）
第9回	気候変動（8）	気候変動と防災・減災
第10回	生物多様性（1）	生物多様性の意義、現状と課題
第11回	生物多様性（2）	国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第12回	化学物質汚染（1）	化学物質汚染の現状と課題
第13回	化学物質汚染（2）	国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a global scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 II

佐々木　大輔

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：土1/.Sat.1
備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。環境科学Ⅰ・本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。
環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】
本授業では、主に地域規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（1）大気環境汚染、（2）水環境汚染、（3）土壌・地下水汚染、（4）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	大気環境汚染（1）	大気環境汚染の歴史と現状
第3回	大気環境汚染（2）	大気環境汚染のメカニズム、硫黄酸化物（SOx）、窒素酸化物（NOx）、微小粒子状物質（PM2.5）
第4回	大気環境汚染（3）	大気環境汚染への対策
第5回	水環境汚染（1）	水環境汚染の歴史と現状
第6回	水環境汚染（2）	水環境汚染のメカニズム、富栄養化、BOD、COD
第7回	水環境汚染（3）	水環境汚染への対策
第8回	土壌・地下水汚染（1）	土壌・地下水汚染の歴史と現状
第9回	土壌・地下水汚染（2）	土壌・地下水汚染のメカニズム、土壌環境基準
第10回	土壌・地下水汚染（3）	土壌・地下水汚染への対策
第11回	廃棄物処理（1）	廃棄物処理の歴史と現状
第12回	廃棄物処理（2）	日本における廃棄物の定義・区分
第13回	廃棄物処理（3）	廃棄物対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a regional scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV200HA（環境保全学 / Environmental conservation 200）

環境モデル論 I

渡邊　誠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。また人間活動などにおいて考えられる典型例や標準例、理想化された例などのことを指す場合もある。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な環境指標についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」という現象や「持続可能」に関する社会的課題を科学的に考察するための基礎という位置づけになっている。

【到達目標】
地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることをめざしている。具体的な目標は次に示す通りである。
・地球システムの概要について説明できる。
・自然界における物質循環（例えば炭素循環）のメカニズムについて説明できる。
・エネルギーの変換と効率について説明できる。
・物質・エネルギーに関する量の保存則と質の劣化則について説明できる。
・環境負荷の大きさを表す指標について説明できる。
・物質・エネルギーの観点から、社会の持続可能性の条件について考察できる。
本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり必須の内容であるといえる。次の「授業計画」で述べている内容 は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解で きるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。また課題を出題した場合には、提出後の授業などにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の内容について。関連する他の科目（サイエンスカフェIV、統計とデータ分析、環境モデル論IIなど）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化（消費）」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第3回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと食物連鎖。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第4回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第5回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこにいくのか？ エネルギーは消費されるのか？ 消えて無くなるものなのか？
第6回	自然の法則と環境(基礎)	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門（その１）。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第7回	自然の法則と環境（発展）	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門（その２）。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第8回	ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）に見る人為の熱力学（基礎）	人間活動の特徴をＬＣＡの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はＬＣＡではどのように表現されているのか？
第9回	ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）に見る人為の熱力学（発展）	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。

第10回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（基礎）	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培と比べてどちらが負荷は小さいのか？
第11回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（発展）	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球上で行われている人間活動の負荷はどれくらいなのか？ 地球は現在の人間活動を支え扶養する力を持っているのか？
第12回	持続可能性への考察（科学技術考）	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）から見た成長の限界について。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第13回	持続可能性への考察（熱力学考）	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80％、提出されたレポートの充実度20％によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を含めた社会の持続可能性を考察する上で大切な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。
本科目は「環境モデル論II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので併せてその科目を履修することをお薦めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」があります。もちろんこれも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれを履修することもお薦めします。

【Outline (in English)】
（Course outline）Theme: Introduction to modelling of the earth system and human action. Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human action is required to be examined with relation to natural law on it. This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy conversion and flow of materials on the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-foot print are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law of thermodynamics as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones. （Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the concept of the mechanism of the earth system and human actions based on the thermodynamics. We are expected to understand the life-cycle assessment and the ecological footprint. As actual examples of the objectives, students will explain the mechanism of the energy conversion and material circulation. We need to understand the concept of entropy increment and its discharge. The conditions for sustainable society will be discussed. (Learning activities outside of classroom）We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. （Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with the term-end examination 80% and reports presented in class 20%.

PHL200HA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想と人間 I

竹本　研史

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）
　私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。
　そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。
　今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】
　さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシヴな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。
　そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティヴな授業になるように心がけます。
　単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義（1）	実存と自由の問題――ジャン=ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（i）
第3回	個人の自由と反植民地主義（2）	実存と自由の問題――ジャン=ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（ii）
第4回	個人の自由と反植民地主義（3）	ライシテとフランス現代社会（i）
第5回	個人の自由と反植民地主義（4）	ライシテとフランス現代社会（ii）
第6回	個人の自由と反植民地主義（5）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（a）
第7回	個人の自由と反植民地主義（6）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（b）
第8回	個人の自由と反植民地主義（7）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（b）
第9回	個人の自由と反植民地主義（8）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（c）
第10回	個人の自由と反植民地主義（9）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）――フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（a）
第11回	個人の自由と反植民地主義（10）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）――フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（b）
第12回	実存とフェミニズム（1）	実存・フェミニズム・老い――シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（a）
第13回	実存とフェミニズム（2）	実存・フェミニズム・老い――シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（b）
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【その他の重要事項】
2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100 %

PHL300HA（哲学 / Philosophy 300）

現代思想と人間 II

竹本　研史

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：近現代社会哲学・思想（「規律と権力」、「記憶のエチカ、歴史のエチカ」）
　私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。
　そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。
　今学期については、前半はミシェル・フーコーの思想を中心に、規律と権力の関係について考察します。後半は、私たちが、「記憶」と「歴史」をめぐって、過去の出来事を語るときにどのようなかたちで語るのか？、また、無数ある出来事と記憶とのどのような関係をもつのか？ などについて討究します。

【到達目標】
　さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシヴな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。
　そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑＋次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティヴな授業になるようにいたします。
　思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第3回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（1）
第4回	権力と規律社会（3）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（2）
第6回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバールの市民権論
第7回	記憶と語り	長崎原爆の言説の変遷
第7回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パブロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』などを中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題（2）	語りえぬものを語る――『ショアー』と表象の限界（I）
第9回	全体主義批判と人間性の問題（3）	語りえぬものを語る――『ショアー』と表象の限界（II）
第10回	全体主義批判と人間性の問題（4）	語りえぬものを語る――『ショアー』と表象の限界（III）
第11回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、『エルサレムのアイヒマン』
第12回	全体主義批判と人間性の問題（6）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』
第13回	歴史的建造物の修復	ヴィオレ=ル=デュクの仕事
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
進度と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】
2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史II）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100 %

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史B

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5062
科目名：学習の社会史B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5062
科目名：学習の社会史B
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
必要な資料は事前に学習支援システムで配布する。履修者は必要に応じて適宜ノートをとること。
授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。
課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。
第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに巻き込まれていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼし的たのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト40％、提出課題10％、試験50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.
Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

アート・マネジメント論

山口　佳子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5089
科目名：アート・マネジメント論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5089
科目名：アート・マネジメント論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。
なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	ポストコロナにおけるアートの現状と変化	ポストコロナにおける文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第3回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第4回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第8回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第9回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第10回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第11回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第12回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第13回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する
第14回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】
『アーツ・マネジメント概論三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（４５％）と最終課題（５５％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
美術、デザイン、舞台芸術、様々なアートにかかわる事象を紹介しながら学んでいきます。また、授業内のゲストは、皆さんの関心に応じて決定していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】
Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

・Learning activities outside of the classroom： Students will be expected to research art sites such as museums, theatres, live music venues, music festivals and local art projects and conduct field research on various aspects of art and its challenges in contemporary Japan. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・Grading Criteria /Policies： Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (45%), and the final assignment (55%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

上西　充子、梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5298
科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5298
科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。
講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。
学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】
働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。
授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講をしてください。
ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。
授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える〜労働組合の役割と意義〜	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 （2025年度ゲストは教育文化協会）
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。（2025年度ゲストは生保労連）
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。（2025度ゲストは伊藤ハム米久労働組合）
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 （2025度ゲストは自治労）
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 （2025年度ゲストはKDDI労働組合）
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 （2025年度ゲストは全労金）

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。サプライヤーを多く抱える中小企業労組が働く者の労働条件改善に向けてどのような取り組みを実施しているのか、実例を聞き、理解してもらう。 またＪＡＭで働く若手職員とのグループディスカッションを通じて、現場の実態について理解を深める。（2025年度ゲストはJAM。若手職員を含めたグループディスカッションあり）。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　総合組織局）
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　労働条件・中小地域対策局）
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメントの根絶に向けた労働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめとするあらゆるハラスメントは人権をも脅かす重大な問題であり、誰もがいきいきと働き続けられる社会の実現に向けてはあらゆるハラスメントの根絶が必要不可欠である。あらゆるハラスメントの根絶に向けて労働組合がどのような取り組みを実施しているのか、連合もしくは産別の取り組みを聞き、その重要性を理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　ジェンダー平等・多様性推進局）
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応～	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関の役割や、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割・取り組みについて考えてもらう。（2025年度ゲストはITUC）
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2025年度ゲストは連合事務局）
第14回	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】
授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association.
Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples.
Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace.
In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.
【Learning Objectives】
Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.
They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.
【Learning activities outside of classroom】
A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
In-class contributions (including comments): 50%
Term-end report: 50%.

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史ＬⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

貫井　裕恵

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月5/Mon.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユネスコ「世界の記憶」に採択されている国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を学びます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。
日本の歴史・文化について広く学び、社会人になっても生きる教養を身につけましょう。
＊日本史ＬⅡもあわせて受講することを強く推奨します。

【到達目標】
・「東寺百合文書」を通じて、日本中世社会への理解を深める。
・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・文化財のもつ多様な価値とさまざまな見方を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。
毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。
授業期間内に、文化財関連の研究所・美術館・博物館へ見学に行っていただき、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	歴史学の発展と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特質と採択されているユネスコ「世界の記憶」について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	史料管理（アーカイブズ）	中世寺院における史料管理のありかたを学ぶ
7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ
8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	中世荘園制社会について学び、荘園絵図も紹介しつつ、中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が現代まで守り伝えられてきた意義を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
・佐藤進一『新版　古文書学入門』法政大学出版局、2003年
・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年

【成績評価の方法と基準】
レポート60％、平常点40％で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・日本史ＬⅡもあわせて受講することを強く推奨します。
・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようになりましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan.【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparating and reviewing each class. You learn broadly about Japanese history and culture and acquire the knowledge you need to become a member of society.
【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史ＬⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

貫井　裕恵

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月5/Mon.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。日本の歴史・文化について広く学び、社会人になっても生きる教養を身につけましょう。
＊日本史ＬＩもあわせて受講することを強く推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】
・「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
・文化財のもつ多様な価値と読み解き方を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。
毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。
授業期間内に、美術館・博物館へ見学に行っていただき、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料（聖教・古文書等）とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世寺院における史料群の形成と伝来を概観し、東寺百合文書の特質を探る
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業や蒙古襲来をとりあげながら、寺院と武家の関わりを学ぶ
7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ
8	アーカイブズの形成と伝来	中世寺院における文書・聖教群の形成と管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期における修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	古典芸能に通じる、室町期に発達した寺院における芸能について学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に際して、人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究の果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・使用テキストは事前に予習しておく。（各回2時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
・プリントやノートを用いた復習を行う。（各回2時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
・佐藤進一『新版　古文書学入門』法政大学出版局、2003年
・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年
このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】
レポート60％、平常点40％で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・日本史ＬⅡもあわせて受講することを強く推奨します。
・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようになりましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan.【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparating and reviewing each class. You learn broadly about Japanese history and culture and acquire the knowledge you need to become a member of society.【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論A

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2026年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。
特に
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広い視点で学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・古代美術、中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】
西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40‐ 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。広範な内容となります。歴史を学ぶことはその広がりを考えると果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
第3回	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。 この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。形骸化しているという側面もありますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。 それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2〜7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4〜15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5〜10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11〜12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12〜15世紀）
第4回	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。

第5回	ワークショップ（1） 単元の復習 ・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。
第6回	近代美術1 新古典主義　ロマン主義　写実主義　バルビゾン派　ラファエル前派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探求するラファエル前派について学びます。
第7回	近代美術2 印象派 、新印象派、ポスト印象派 ナビ派　世紀末芸術　象徴主義（ロシア象徴主義）　素朴派　アーツアンドクラフツ運動　アール・ヌーヴォー　分離派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派 、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。 19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そのまま写しとるのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。
第8回	ワークショップ（2） 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい紙やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。
第9回	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派 、世紀末芸術 、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	ポスト印象派以降の絵画の新しい試みに関しての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉を用いました。 ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービスムやキュビスム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
第10回	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティル、バウハウス 、ロシア構成主義	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
第11回	ワークショップ（3） 単元の復習　近代美術3 、近代美術4	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。 特に以下のキーワードについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体

第12回	現代美術1 アンフォルメル　抽象表現主義ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第13回	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート　新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
第14回	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ（4） 単元の復習・現代美術1、現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。 そして、東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
参考書
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2014年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.
* Art history and art theory which is the basis for understanding art
* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.
We will learn about these in a step-by-step manner.
Learning Objectives
Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google sites contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論Ｂ

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2026年度の美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。
・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・原始・古代美術
・中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】
日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。
ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
第3回	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーションとディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
第5回	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
第6回	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が花開きました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。

第7回	ワークショップ（2） 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーションとディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。
第8回	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化政策により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
第9回	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
第10回	ワークショップ（3） 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーションとディスカッション	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内の人と人との関係性に関するワークショップを行います。
第11回	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
第12回	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
第13回	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
第14回	ワークショップ（4） 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020年代 プレゼンテーションとディスカッション	1960-1980 年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショップを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.
1.　Art history and art theory which is the basis for understanding art
2.　Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism
We will learn a wide range of them step by step.
Learning Objectives
We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works.　At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you.　There are also many museums and galleries near the university.　If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports.　We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

犬塚　元

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想Ⅰ」として履修することになります。

【到達目標】
・英文翻訳のスキルアップをめざす人、
・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
・人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
・哲学や思想史に興味のある人、
・機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
・少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。
原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】
今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
２０２３年度・２０２４年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】
ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）１００点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】
担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、２０２０年、『ヒューム　イングランド史I/II』名古屋大学出版会、２０２５年）。

【Outline (in English)】
Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

犬塚　元

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想II」として履修することになります。

【到達目標】
・英文翻訳のスキルアップをめざす人、
・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
・人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
・哲学や思想史に興味のある人、
・機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
・少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期の続き。担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。
原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】
今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
２０２３年度・２０２４年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】
ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）１００点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】
担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、２０２０年、『ヒューム　イングランド史I/II』名古屋大学出版会、２０２５年）。

【Outline (in English)】
Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ａ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じてドイツ語文法の基礎を学ぶとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】
１）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
２）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
３）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。
・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則1、あいさつの表現１
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1＆Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介１：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：、命令法と態（Modus）	２人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』(郁文堂、2018/2023年)（￥ 2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版) 必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) 2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2026年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ｂ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。専門課程でドイツ語の読解能力が必要となる方についてはその基礎固めを目指します。

【到達目標】
１）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
２）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
３）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や自分の文法理解を確認します。
・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の３基本形（I）（１）・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10：動詞の３基本形（I）（２）・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11：動詞の３基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？　受動の助動詞２種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（１）・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（２）・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（１）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（２）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥ 2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2027年1月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では
・児童文学の古典とされる作品を精読することを通じて
・考えたことを論理的に再構成して，議論することで
・この作品が書かれた当時のドイツ語圏（ドイツとスイス）のあり方を考えること
を学びます.

【到達目標】
この授業を履修することで
・単なる印象に左右されないテクストの読み方
・自らが読解した内容を，他人に伝わるかたちで表現する方法
・ドイツ語圏の19世紀の社会についての理解すること
について学ぶことを目標とします.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行います．したがって，事前のテクストの精読を前提とします．事前に指定箇所を精読し，その中で重要だと思うところを2箇所指摘し，学習支援システムを通じて提出していただきます.
授業では，皆さんから提出された論点について，全員で議論します．事前提出の論点については，授業中にフィードバックします.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	著者のヨハンナ・シュピリと作品の果たした役割についての紹介
第2回	第1部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第3回	第1部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第4回	第1部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第5回	第1部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第6回	第1部9章および10章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第7回	第1部11章および12章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第8回	第1部13章および14章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第9回	第2部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第10回	第2部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第11回	第2部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第12回	第2部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第13回	第2部9章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第14回	まとめ	まとめおよび授業内で行った課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は準備学習を基本とし，テキストとして指定された箇所を精読し，事前に議論すべき論点を2つ提案してから，出席してください．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ヨハンナ・シュピリ，松永美穂（訳），『アルプスの少女ハイジ』（角川文庫，2021年）

【参考書】
川島隆,『ハイジの生みの親ヨハンナ・シュピーリ』(青弓社, 2024年)

【成績評価の方法と基準】
毎回，該当の章を読んでから出席することを基本とし，
・事前にテクストについて授業で議論すべきことを2つ提出すること（52%）
・議論への参加度（42%）
・期末のレポート（8%）
を基準として成績評価します.
テクストを読まずに出席している場合，または，議論への貢献をしない場合は，議論への参加度を評価する平常点をつけられません.

【学生の意見等からの気づき】
本年度はテーマを変更しましたのでフィードバックできません.

【学生が準備すべき機器他】
ネットワーク接続ができ，Zoomが使えるるPCまたはタブレット，および，オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】
オンラインで開講します．カメラをオンにして参加すること，および，指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします.

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, students will read Johanna Spyri's classic works on Heidi and discuss/learn about the societal background of the time when the text was written.
【Learning Objectives】Students will acquire the skills to read texts logically, discuss them in line with their understanding, and learn about the society and culture of the German-speaking region in the 19th century. century.
【Learning activities outside the classroom】Participation requires detailed reading of the text and the submission of two discussion points in advance.
【Grading Criteria /Policy】Submission of prior discussion points (52%) + Active participation (42%) + term paper (8%)

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ａ

2017年度以降入学者

大久保　歩

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツは「詩人と思想家の国」と呼ばれるように、後世に大きな影響を与えた思想家たちを多く輩出してきました。
ごの授業では主に18世紀終わりから19世紀前半に活躍した哲学者たちの思想を学びます。
個々の哲学者たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。この時代は、ドイツという国が成立していく過程でもありました。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。
これにより現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】
・19世紀前半のドイツ哲学の概要を説明できる。
・扱われた哲学者の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。
毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。
すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜドイツは「詩人と思想家の国」になったのかについて学ぶ。授業の進め方の確認。
第2回	「ドイツ思想」のはじまり	ルターやライプニッツなど、のちのドイツの思想を方向づけた思想家たちについて学ぶ。
第3回	カント前夜	デカルトやイギリス経験論など、カント哲学の前提となる思想について学ぶ。
第4回	カント（1）	『純粋理性批判』を中心に、カントの認識論について学ぶ。
第5回	カント（2）	『実践理性批判』を中心に、カントの実践哲学について学ぶ。
第6回	カント（3）	『判断力批判』を中心に、カントの美学について学ぶ。
第7回	ドイツ観念論	フィヒテやシェリングなど、カント以後のドイツ哲学の展開を学ぶ。
第8回	ヘーゲル（1）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの認識論を学ぶ。
第9回	ヘーゲル（2）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの実践哲学を学ぶ。
第10回	ヘーゲル（3）	『精神現象学』や『美学講義』を中心に、ヘーゲルの美学を学ぶ。
第11回	ショーペンハウアー（1）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアーの認識論と実践哲学について学ぶ。
第12回	ショーペンハウアー（2）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアー実践哲学と美学について学ぶ。
第13回	近代ドイツ思想とは何か	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。
また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】
御子柴義之『自分で考える勇気―カント哲学入門―』（岩波ジュニア新書）
川瀬和也『ヘーゲル（再）入門』（集英社新書）
梅田孝太『ショーペンハウアー―欲望にまみれた世界を生き抜く―』（講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー　50%
授業最終回での試験　50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】
Germany has produced many influential thinkers who have left a profound impact on posterity, earning the nation the title "the land of poets and thinkers" (Das Land der Dichter und Denker). This course focuses on the philosophical ideas of thinkers active primarily from the late 18th to the early 19th century. In addition to examining individual philosophical systems, we will explore the historical context of the era— a pivotal period in the formation of the German nation. By examining thought within its historical context, this course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy and develop a critical perspective on the contemporary world.
Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ｂ

2017年度以降入学者

大久保　歩

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19世紀後半のドイツは激動の時代でした。そしてこの時代の思想家たちはそれ以前の思想を徹底的に批判することで、20世紀の思想を準備しました。
ごの授業では19世紀後半のドイツで活躍した思想家たちの思想を学びます。
個々の思想家たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。
これによって、現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】
・19世紀後半のドイツ思想の概要を説明できる。
・扱われた思想家の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。
毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。
すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	19世紀後半のドイツがどのような時代だったのか概観する。授業の進め方の説明。
第2回	カントからヘーゲルへ	19世紀前半のドイツ哲学を概観し、19世紀後半の思想家たちにとっての思想的前提を学ぶ。
第3回	マルクス（1）	『ドイツ・イデオロギー』を中心に、マルクスの唯物論史観について学ぶ。
第4回	マルクス（2）	『資本論』を中心に、マルクスの資本主義批判について学ぶ。
第5回	マルクス（3）	『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』を中心に、マルクスの政治理論について学ぶ。
第6回	ニーチェ（1）	『悦ばしき知識』などを中心に、ニーチェのニヒリズムの思想を学ぶ。
第7回	ニーチェ（2）	『ツァラトゥストラはこう語った』などを中心に、ニーチェのニヒリズム克服の思想を学ぶ。
第8回	ニーチェ（3）	『道徳の系譜学』を中心に、ニーチェの道徳批判について学ぶ。
第9回	フロイト（1）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの無意識についての理論を学ぶ。
第10回	フロイト（2）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの精神分析の理論を学ぶ。
第11回	フロイト（3）	「快感原則の彼岸」を中心に、フロイトの自我論を学ぶ。
第12回	ドイツからフランス・ポストモダニズムへ	マルクス、ニーチェ、フロイトから大きな影響を受けたフランスのポストモダニズム思想を概観する。
第13回	ドイツの「反哲学」	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。
また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】
佐々木隆治『カール・マルクス―「資本主義」と闘った社会思想家―』（ちくま新書）
永井均『これがニーチェだ』（講談社現代新書）
フロイト『精神分析入門講義』上下巻（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー　50%
授業最終回での試験　50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】
The late 19th century was a period of great upheaval in Germany. The thinkers of this era paved the way for 20th-century thought by radically critiquing the philosophical traditions that preceded them. This course examines the ideas of key figures active during this turbulent time. Beyond analyzing individual philosophical systems, students will explore the historical backdrop of their era. By integrating the study of thought with its historical context, the course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy, thereby cultivating a critical perspective on the contemporary world.
Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ａ

2017年度以降入学者

丸山　達也

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ａ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：移民・難民・アウトサイダー
2015年、ドイツがシリア内戦などを背景に100万人規模の難民を受け入れたことが話題となりました。また近年では、ウクライナからの難民も100万人を超えています。「移民国家」を自認し、移民の背景を持つ市長が誕生するなど、移民政策において成功しているように見える一方で、極右政党をはじめとする移民排斥の声も年々高まってきているのが現在のドイツです。
本講義では、文学や演劇、映画などにおいて、「移民」「難民」というテーマがどのように扱われてきた／いるのかを、複数の作品を通じて多角的に捉えていきます。

【到達目標】
・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏との相互関係に対する関心や理解を深める。
・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモティーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を予定しています。約2回の講義でひとつの作品を取り上げ、作品の概要を説明した後で、主要部分を実際に鑑賞／読解していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。
毎回授業の終盤に時間を設けて、こちらの提示する課題について小レポートを書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 カルチュラル・スタディーズとは？
2	導入	ドイツの移民政策
3	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
4	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
5	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
6	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
7	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
8	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
9	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
10	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
11	当事者たちの取り組み	ベルリン・マクシム・ゴーリキー劇場
12	当事者たちの取り組み	『狂った血』
13	移民排斥に対する挑発	シュリンゲンジーフと『外国人よ出ていけ』
14	旧東ドイツの移民	『マッドジャーマンズ』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回で取り上げる映画作品については、日本語字幕付きで観られるので、自分でもぜひ鑑賞してみてください。最後に取り上げるマンガ作品も邦訳があるので、実際に手に取ってみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】
・本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店，2002年.
・吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』岩波書店，2001年.
・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房，2015年.
・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研，2017年.
・墓田桂『難民問題』中央公論新社，2017年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加，質問，発言など）：40%
・毎回の小レポート：60%
なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
In 2015, Germany accepted around one million refugees, against the backdrop of the Syrian civil war and other conflicts. Moreover, in recent years, the number of refugees from Ukraine has also exceeded one million. Although immigration policies appear to be succeeding, the reality today is that opposition to immigration is also growing, as evidenced by the rise of far-right parties.This lecture will explore how the themes of 'immigration' and 'refugees' are depicted in literature, theatre and film, examining them from various angles through a selection of works.
At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 40%, short reports for each lecture: 60%

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ

2017年度以降入学者

丸山　達也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ｂ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：日本においてドイツ語圏の文化はどのように受容されてきたのか
私たちの日常には、さまざまな領域・場面においてドイツ語圏由来のものが存在しています。私たちは意識してか無意識かにかかわらず、日頃からドイツ語圏の文化に触れているわけです。しかし、日本での受容には、ドイツ語圏でのそれと差異はないのでしょうか。この授業では、ドイツ語圏の文学作品が、日本でどのように受容されているかを検討し、またそれらを原作とする翻案作品と比較します。テクストの読解および映像の視聴を通じて、ドイツ語圏の社会や文化、歴史的な文脈について学んでみましょう。

【到達目標】
・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。
・作品をただ鑑賞するのではなく、多角的な視点に基づいて批判的に考察する力を養う。
・文学作品や映像作品の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を予定しています。2～3回の講義でひとつの作品を取り上げます。原作と日本での受容のあり方を、実際にテクストを読んだり、映像を鑑賞しながら比較していきます。。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。
毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことなどをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 身近にあるドイツ語圏
2	グリム童話集について	成立と背景
3	グリム童話集『赤ずきん』	赤い「ずきん」？
4	グリム童話集『死神の名付け親』1	作品の内容について
5	グリム童話集『死神の名付け親』2	古典落語『死神』
6	シラーについて	人物と作品
7	シラー『歓喜に寄せて』1	成立と内容
8	シラー『歓喜に寄せて』2	ベートーヴェンの「第九」
9	シラー『歓喜に寄せて』3	「第九」合唱の文化
10	シラー『群盗』1	成立と内容
11	シラー『群盗』2	黒澤明『戦国群盗伝』
12	シラー『群盗』3	宝塚版『群盗』
13	日本からドイツへ	ブレヒト『イエスマン・ノーマン』と能『谷行』 オペラ『松風』と能『松風』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回で取り上げる作品で邦訳があるものについては、講義期間中に自分で手に取って読んでみることを推奨します。
取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】
・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房，2015年.
・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研，2017年.
・手塚富雄／神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波書店，1993年.
・柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房，2018年.
・畠山寛／吉中俊貴／岡本和子編著『ドイツ文学の道しるべ―ニーベルンゲンから多和田葉子まで―』ミネルヴァ書房，2021年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（毎回のリアクションペーパー，授業への積極的な参加）：60%
・学期末試験（論述）：40%
なお、授業回数の3分の2以上の出席と学期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
German-speaking regions have a presence in many areas of our daily lives.We are constantly exposed to German-speaking culture in our daily lives, whether we are aware of it or not. This course examines the reception of German-language literary works in Japan, comparing them with adaptations based on the original texts.
At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%,in class contribution: 60%

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

ドイツ語圏の芸術Ａ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
18世紀から19世紀にかけて、現在のドイツ、オーストリアとその周辺（中部ヨーロッパ）には「ドイツっぽい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」といった概念を、芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では「ドイツ語圏の芸術Ｂ」（秋学期開講）とあわせ、近代ドイツ語圏の造形芸術や音楽、建築、デザイン等を概観しながら「ドイツ語圏」あるいは「芸術」のさまざまな内実に迫ります。

【到達目標】
１）近代ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）とその周辺諸地域の文化・芸術に関し、知識と理解を深める。今日に一般的な「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という社会通念の形成には、ドイツ語圏をはじめとする近代ヨーロッパの歴史が大いに関係しています。
２）造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れること。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質でもあります。
３）芸術と社会をめぐる文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・諸芸術のうち、今学期は近代初期～19世紀の建築と造形芸術、音楽を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、時代背景、受容とその影響について確認する作業が中心です。
・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行いますが、提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第2回	近代の視覚（１）ー キリスト教思想と修道院	「大聖堂」の建設／「スコラ」と「ウニヴェルシタス」／ロマネスク様式からゴチック様式へ
第3回	近代の視覚（２）ー フランス絶対王政の影響	宮殿と庭園／「バロック」と「ロココ」と「新古典主義」／眼前の風景＋ルネサンスの英知
第4回	イタリアに憧れて ― 息子を「音楽家」にしたい	貴族とお城とオペラの関係／モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782年）・『魔笛』（1791年）など
第5回	「趣味は音楽鑑賞」 ― 音楽ビジネスの始まり	市民階級の台頭／エスターハージー家と音楽出版／ハイドン『交響曲第94番ト長調（驚愕）』（1792年）
第6回	革命とナポレオン後の世界（１）ー 真理を「聴く」	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品67（「運命」）』（1808年）・『交響曲第九番ニ短調作品125（合唱付）』（1824年）
第7回	革命とナポレオン後の世界（２）ー ロマン派の世界	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814年）／ゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808年）
第8回	プロイセンの台頭 ー「ドイツ人なら誰でも知ってる絵」？！	メンツェル『サンスーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）ほか
第9回	「音楽の国ドイツ」の成立（１）ー「合唱」と「伝統」	F.ヘンゼルの音楽サロンとベルリンの「ジング・アカデミー」／メンデルスゾーン＝バルトロディによるバッハ『マタイ受難曲』再演（1827年）
第10回	「音楽の国ドイツ」の成立（２）ー ライプツィヒとヴィーン	「フィルハーモニー」と「定期演奏会」／「有名な曲」を作る方法
第11回	「音楽の国ドイツ」の成立（３）ー フランスには負けられない？！	「音楽学校」と「スター誕生」／音楽家の営業活動／ピアノの先生と「家庭の音楽」
第12回	装飾とデザイン（１）― ヴィーン世紀末の都市計画	城壁の撤去とリング通り／O.ヴァーグナーによる都市計画／ヴィーン工房とヴィーン分離派
第13回	装飾とデザイン（２）― 産業革命とユーゲントシュティール	古のヴィーンを優雅なベンチと曲木の椅子で蘇らせる／カフェーハウスの芸術家たち
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品をインターネット上やカタログ等で見る／聴くなどできればなお良いです。
・コンサート／ライブや観劇、映画館・展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布します。

【参考書】
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会）2014年
・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）1990年
・神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社）1995年
・饗庭孝男、伊藤哲夫、加藤雅彦、小宮正安、西原稔、檜山哲彦、平田達治 『ウィーン 多民族文化のフーガ』 （大修館書店）2010年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・紙媒体で使用できる筆記用具

・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche（German)" or "deutsch（german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
・There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

ドイツ語圏の芸術Ｂ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツとその首都であるベルリンは、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポールです。この授業では、ベルリンあるいはドイツを舞台とする絵画や文学作品、映画（劇映画）、映像作品を通して、ベルリンとドイツを描く映像表象の形式・様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿からその社会の内実に迫ります。春学期開講の「ドイツ語圏の文学A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容かと思います。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、都市と国家の分断の歴史が鋭く見出されるのかもしれません。

【到達目標】
１）ドイツ（語圏）とその周辺諸地域の歴史と文化に関する知識と理解を深める
２）文学作品や劇映画の読解を通じて、美的形式を分析する抽象的な議論に慣れる
３）文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・20世紀～現代の造形芸術（絵画）、映画および文学作品の映像二次創作を時系列的に扱います。
・各回、担当者による解説を行います。文学・映像作品を扱う回では次いで該当テクストの抜粋を読み、映画の該当部分の内容を確認します。
・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行いますが、提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	大都市の誕生 ー 表現主義の絵画	E.L.キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）『ポツダム広場』（1914年）など
第3回	地下鉄の走る街・映画の時代	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その１／W.ルットマン『ベルリン ― 大都会交響楽』（1927年、ドイツ）
第4回	大都会で見つける人間の絆	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その２／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
第5回	「エル・ドラド」の世界・大都市の光と影	「両性具有」というイメージの流行／O.ディックス『大都会』（1927/28年）／C.シャート『ソーニャ』（1929年）など
第6回	文化／映画産業の現実 ― サイレントからトーキーへ	H.マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーグ『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その１
第7回	魅惑的な映画スター―「ニーチェ小説」から「脚線美」へ	H・マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーグ『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その２
第8回	「ベルリン／都会で成功したい」	E・ケストナー『ファビアン ― あるモラリストの物語』／映画『さよなら、ベルリン またはファビアンの選択について』（2021年、ドイツ）
第9回	一度きり（比類なき）の分断・一度きりの人生	L・クラウメ『僕たちは希望という名の列車に乗った』（2019年、ドイツ）
第10回	支配者にとってベルリンとは	L・デイトン『ベルリンの葬送』（1964 年）／G・ハミルトン『パーマーの危機脱出』（1966年、英国）
第11回	壁の向こう側	L・ハウスマン『ゾンネンアレー（太陽通り）』（1999年、ドイツ）／W・ベッカー『グッバイ・レーニン』（2002年、ドイツ）
第12回	映画の時間・再統一の空気	T・ティクヴァ『ラン・ローラ・ラン』（1997年、ドイツ）
第13回	ミレニアル世代のリアリティ	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その１
第14回	ロードムービーの誘惑	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品を読んだり観たりできるとなお良いです。
・映画をみる／映画館へ行く、コンサート／ライブや観劇、展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布します。

【参考書】
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・W.ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など［浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（１）（２）』（ちくま学芸文庫）1995年/1996年所収］
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・紙媒体で使用できる筆記用具

・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
(Century of image - Berlin Story) This course introduces cinema and visual culture from the era of german modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole and divided West- and East Germany as well as after reunification. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We com-bine texts of German-language literature with cultural, histor-ical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
・There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ａ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ドイツ語圏における社会哲学・公共哲学の展開を、とりわけ20世紀における「批判理論」（Kritische Theorie）に着目しながら、概観します。
　「批判理論」（あるいはその揺籃の地にちなんで「フランクフルト学派」）と呼ばれる思想潮流に属する哲学者たちは、個人と社会の関係をめぐる哲学理論を展開するとともに、実践的な歴史や政治の諸問題に対する公共の議論に参画してもいます。個人が社会によって構成されているという自己反省は、現実の人々がいかに既存の社会体制によって歪められているかという批判的洞察と不可分なのです。だからこそ批判理論は、ファシズムの台頭やホロコーストを可能にしてしまったドイツ社会と対峙しています。授業においては、社会的・政治的コンテクストを踏まえつつ、批判理論の哲学者たち（ベンヤミン、ホルクハイマー、アドルノ、ハーバーマスら）の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】
（A）（「批判理論」における）ドイツ語圏の社会哲学・公共哲学の議論を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
　毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	批判理論における社会哲学・公共哲学とは？	個人と社会の関係についての自己反省と既存体制の内在的批判
第3回	批判理論の背景	20世紀ドイツの「危機」意識とファシズムの台頭 西欧マルクス主義とフロイト思想
第4回	批判理論の生成（1）	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第5回	批判理論の生成（2）	ベンヤミン「歴史哲学テーゼ」と「進歩」への問い
第6回	批判理論の生成（3）	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第7回	批判理論の展開（1）	ファシズムと反ユダヤ主義、権威主義的パーソナリティ
第8回	批判理論の展開（2）	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」への問い 68年運動と批判理論
第9回	批判理論の展開（3）	ハーバーマスと「公共圏」の思想、コミュニケーション的行為の理論
第10回	批判理論と社会（1）	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第11回	批判理論と社会（2）	東西ドイツの再統一 ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第12回	批判理論と社会（3）	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティへの反省
第13回	批判理論の社会哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・細見和之『フランクフルト学派　ホルクハイマー、アドルノから21 世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕
・三島憲一『戦後ドイツその知的歴史』『現代ドイツ統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with social philosophy and public philosophy in the German speaking region (especially regarding Critical Theory).
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Critical Theory's social philosophy, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ドイツ語圏における公共哲学・社会哲学の展開を、とりわけ「公衆」（Publikum）や「公共圏」（Öffentlichkeit）という概念に着目しながら、概観します。
　現在、私たちは、単に個人として（「私」として）生きるのみならず、様々な人々と共に社会という場で（「私たち」として）生きています。個人と社会というこの二項の関係をめぐっては、公共哲学・社会哲学において、「公衆」や「公共圏」の概念とともに、様々な議論が展開されてきました。このことは、社会的存在としての人間を問うことであると同時に、民主主義体制や憲法のあり方といった政治の問題を考察することにも通じています。授業においては、こうした社会的・政治的な問題意識も踏まえつつ、ドイツ語圏を中心とした哲学者たち（カント、キルケゴール、ハイデッガー、シュミット、アーレント、ハーバーマスら）の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】
（A）（「公衆」・「公共圏」をめぐる）ドイツ語圏の公共哲学・社会哲学の議論を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
　毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「公衆」・「公共圏」をめぐる公共哲学・社会哲学とは？	個人と社会の関係および「公衆」・「公共圏」概念をめぐる議論の確認
第3回	カントの公共哲学（1）	「公衆」による啓蒙と理性の公的使用
第4回	カントの公共哲学（2）	公開性の原理と公共の福祉
第5回	「大衆」と公共哲学（1）	キルケゴールとハイデッガーの大衆論
第6回	「大衆」と公共哲学（2）	シュミットの議会論と政治的決断主義
第7回	アーレントの公共哲学（1）	複数性からみる公共的領域
第8回	アーレントの公共哲学（2）	政治的権力と政治的自由
第9回	ハーバーマスの公共哲学（1）	公共性の構造転換とコミュニケーション的行為
第10回	ハーバーマスの公共哲学（2）	討議デモクラシーと憲法パトリオティズム
第11回	宗教と公共哲学（1）	公共圏における宗教と世俗言語への「翻訳」
第12回	宗教と公共哲学（2）	ポスト世俗の社会と「相互学習」
第13回	「公衆」・「公共圏」をめぐる公共哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・齋藤純一／谷澤正嗣『公共哲学入門　自由と複数性のある社会のために』NHK出版
・川崎修／杉田敦（編）『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with public philosophy and social philosophy in the German speaking region (especially regarding the concept of "the public").
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of public philosophy in the German speaking region, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史Ａ

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代世界とドイツの歴史
　この授業では、「長い19世紀」における近代ドイツの発展を、世界のさまざまな国と比較しながら概観し、その特殊性と普遍性について理解することを目的とする。比較の対象としては、国民国家・植民地国家として先行したイギリス・フランスや　国民国家として同時期に成立したイタリア、ドイツ語圏のもう一方の中心であったハプスブルク君主国（オーストリア）、さらにアメリカ合衆国や明治・大正期の日本を想定する。

【到達目標】
　ドイツ史において18世紀の末から20世紀の初頭にいたるいわゆる「長い19世紀」は、激動の時代であった。この時代、ドイツはナポレオン戦争や1848/49年の革命を経て統一された国民国家への歩みを始動し、政治的に分立していた多くの領邦が1871年にドイツ帝国として統一された。同時に産業革命を経験して経済的にも大きく発展し、ヨーロッパ有数の強国として確固とした地位を占めるようになった。この時代は第一次世界大戦（1914–1918）によって終わりを告げる。
　この授業では、「長い19世紀」のなかで世界史的に見て重要性を有するトピックを4つのモジュールに分けて扱う。モジュールは以下の通りである。

1. ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり
2. 近代国家の世界基準？ ―国民国家と自由民主主義
3. 資本主義産業社会の繁栄と矛盾―19世紀後半の経済と社会
4. 国連なき時代の外交と第一次世界大戦

　これらのモジュールにより、今なお大きな影響力を持つさまざまな制度や仕組みがつくれられた近代という時代を理解するとともに、その地域的な多様性をドイツを中心として理解することが可能となる。そのことを通じて、現代の日本の状況に対しても批判的な考察をおこなう視座を獲得することができるだろう。
　なお、20世紀初頭以降の時代については、秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史Ｂ」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　それぞれのモジュールは、概説、演習、発展という3つのパートで構成される。
　まず、概説では、モジュールの対象とする時代についてドイツをはじめとするヨーロッパ各国の状況を学び、その特徴について考える。19世紀の社会がどのようなものであったかを理解することは、続く20世紀の時代を理解するためにも欠かせない。
　次に、演習では、モジュールのテーマにかかわるさまざまな史料を取り上げ、その史料を解読することで得られる情報を分析し、理解を深める。取り上げる史料は文書だけでなく画像・映像や芸術作品を含める（テキストは日本語のものを用意する）。
　最後に、発展では、それまでの2つのパートの内容をふまえ、ドイツだけでなく他国の状況と比較し、歴史の学びを多面的なものとする。
　参加者はいずれのモジュールにおいても主体的な参加が求められる。毎回リアクションペーパーを提出するとともに、各モジュールの発展パートでは自分が選択したテーマに関し簡単な発表をおこなう（少なくとも1回以上）。それらをもとに期末レポートを執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の特徴とは何か、なぜその近代の歴史を学ぶのかについて考える。
第2回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」概説	19世紀初頭の神聖ローマ帝国の解体とナポレオン戦争について扱う。
第3回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」演習	啓蒙主義の出現と友に始まった新しい公共性のあり方について、史料をもとに分析する。
第4回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」発展	ヨーロッパ各国における新古典主義やロマン主義の文化・芸術の展開と、それを生んだ社会について理解を深める。
第5回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」概説	19世紀前半のウィーン体制から1871年のドイツ帝国創建まで、ドイツ統一をめぐるさまざまなビジョンの競合と対立を扱う。
第6回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」演習	ドイツ・ナショナリズムの出現と発展について、モニュメントや建築・絵画などの史料をもとに解説する。
第7回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」発展	1848/49年にヨーロッパを揺るがした革命の経緯と、そこに参加したさまざまな勢力の置かれた状況とその政治的要求を比較分析する。
第8回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」概説	資本主義の発展と、工業化と都市化の進展による社会の変容について扱う。
第9回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」演習	市民層と労働者階級や下層民との関係、社会のジェンダー秩序構造について論じる。
第10回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」発展	19世紀後半のヨーロッパでは各国でさまざまな芸術文化が開花した。それら新たな芸術潮流について扱う。
第11回	第4モジュール「第一次世界大戦」概説	：第一次世界大戦はどのようにして勃発し、どのように進行したのか、史上最初の「総力戦」について概観する。
第12回	第4モジュール「第一次世界大戦」演習	大戦の結果それまでのヨーロッパ社会はどのように変化したのか。大戦をどのように記録し、評価し、表象したのか。さまざまな史料から読み取る。
第13回	第4モジュール「第一次世界大戦」発展	大戦に関わった各国でのその影響の違いや、大戦後の社会の発展を取り上げる。
第14回	総括と展望	「長い19世紀」とはどのような時代だったのかを総括し、1920年代以降の歴史への展望をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業への参加・リアクションペーパー(30%)、各モジュール第3パートでの報告(20%)、期末レポート(50%)により総合的におこなう。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course aims to provide an overview of modern Germany's development during the "Long Nineteenth Century," comparing it with various other nations, and to understand its particularities and universal aspects. Countries for comparison include Britain and France, which preceded Germany as nation-states and colonial powers; Italy, which emerged as a nation-state during the same period; the Habsburg Monarchy (Austria), the other major center of the German-speaking world; as well as the United States and Japan during the Meiji and Taisho periods.
This course examines topics of global historical significance within the "Long Nineteenth Century," divided into four modules. The modules are as follows:
1. The Napoleonic Wars and the Dawn of Modern Europe
2. The Global Standard of the Modern Nation-State?— Nation-States and Liberal Democracy
3. The Prosperity and Contradictions of Capitalist Industrial Society— Economy and Society in the Late Nineteenth Century
4. Diplomacy in the Era Without the UN and World War I
These modules enable students to understand the modern era, which created various systems and mechanisms still exerting significant influence today, while also grasping its regional diversity, centered on Germany. Through this, students will gain a perspective for critically examining the situation in contemporary Japan.
The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.
Grading will be based on a comprehensive evaluation of class participation and reaction papers (30%), presentations in Part 3 of each module (20%), and the final report (50%).

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史Ｂ

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
　20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。
　なお、19世紀末までの時代については、春学期開講の「ドイツ語圏の歴史A」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　毎回の授業は以下の3つのパートからなる。
①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
参加者は随時意見を述べたり、ディスカッションに参加することを要求される。また、毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題は次回授業の冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマール共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマール共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマール共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコ-スト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー―虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト(小野寺拓也訳)『第三帝国―ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(20%)、リアクションペーパー(20%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを書いてもらう時間を、毎回の授業時間の最後になるべく長く確保するようにします。フィードバックはなるべく手短にしますが、学生諸君との意見交換をいつも楽しみにしています。

【Outline (in English)】
This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities.
Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.

Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　もし授業中に大きな地震が起きて、そのまま大学に泊まることになったら？
　この授業では、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、大学で帰宅困難になった状況を想定し、一泊二日の「キャンパス型避難所演習」を行います。ライフラインが制限された環境の中で、トイレ対策、非常食、教室での就寝などを実際に体験しながら、災害時でも健康を保ち生活する力（レジリエンス）を学びます。防災を「知識」ではなくリアルな体験から学ぶ授業です。**自分の身を守る力と、周囲と協力して問題を解決する力を身につけたい人の参加を歓迎**します。
　帰宅困難という厳しい状況においても、自分の健康を損なわず、安全に滞在し、自宅に帰るための自助防災力と、協働的な問題解決力を身に付けることを目的としています。

　具体的には、断水時のトイレ処理、非常食の栄養評価、教室での就寝環境が身体に与える影響などを、健康測定データと主観的記録の両面から検討し、災害時のコンディショニングを科学的に理解します。あわせて、最小限の携行品で生活の質を高める工夫をグループワークで明確にし、自立した避難者として行動する意義と、共助につながる視点を学びます。
　さらに、体験から得た知見を医学・公衆衛生・歴史など多角的に整理し、現代の環境に適した実効性の高い対応策へと発展させます。最終的には、日常の備えや携行品を自ら見直し、どのような環境下でも心身の健康を保ちながら安全に行動できる判断力の獲得を目指します。

【到達目標】
1．災害時に自分の健康と安全を守る行動判断ができる。
2．トイレ・食事・携行品・就寝環境の課題を見つけ、改善案を示せる。
3．グループで協働し、実行可能な解決策をまとめられる。
4．専門的な見地に立って、解決策を検証・修正できる。
5．学びを日常の備えに生かし、自助防災力を高められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
　本授業は**オータムセッション期間中に市ヶ谷キャンパスにおいて開講**します。授業の定員は30名とします。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。
　授業は、講義・演習・体験学習・グループワークを組み合わせて実施します。
　第1回から第4回の事前授業では、災害に関する基礎知識、帰宅困難者の実態理解、健康リスクや避難時の課題抽出、健康に関するデータの計測方法などを学びます。
　第5回から第14回は一泊二日の大規模自然災害後の帰宅困難者を疑似体験する授業を行います。
　本授業は「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、教室での宿泊を通じて、トイレ衛生、非常食、携行品、就寝環境などの生活課題を体験的に学び、体験から得られた問題について、個人・グループで解決策を検討し、その評価と知識補足を通じて内容を深化させます。最終回では体験結果をレポートとしてまとめ、自助防災力の向上につなげます。
【履修希望者へ】
1．履修申請方法
　履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。
　●申込フォーム（Googleフォーム）
　https://forms.gle/npwtTr725NCiv9Yi8
　●申請期間
　2026年3月14日（土）17:00～3月31日（火）12:00
　※期間外の申請は受け付けられません。
2．申込に関する注意
1）履修者選抜について：本科目には定員があります。
　応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。
2）申請後の流れ・注意事項
①申込完了後、Googleフォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。
内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。
※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。
②履修者の決定は**4月9日（木）**です。何らかの事情で**履修を取り消す場合は、4月5日17:00まで**に、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。
※　mamo1@hosei.ac.jp
③**履修登録は2026年度春学期に所属学部事務局が一括して登録します**。学生自身による履修登録は不要です。
④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。**受講しなかった場合の成績はE評価**となるので注意してください。
3）授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。
4）申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。
　なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Googleクラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	9月11日（2限）：ガイダンス	1）防災教育授業の目的 2）授業におけるリスク管理と誓約 3）大規模自然災害時の帰宅困難者の実態把握 4）一泊二日の疑似的帰宅困難者体験を「実証実験」と定義するマインドセット
2	9月11日（3限）：健康リスク・ブレインストーミング	1）グループワーク（アイスブレーク） 2）帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題を抽出
3	9月11日（4限）：発表と課題共有	1）解決策を議論する 2）発表資料を作成する 3）発表会（グループごとの発表資料をもとに） 4）クラス全体での課題（トイレ・食・装備・睡眠）の再認識

4	9月11日（5限）：宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング	1）一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2）健康に関する測定の意義を再確認する 3）日常の健康データ計測（歩数・睡眠・心拍等）の開始指示
5	9月13日（2限）：集合・疑似体験シナリオの確認	1）教室集合 2）健康測定 3）スマホ・PC以外の外部連絡制限など、疑似帰宅困難者としてのルールを徹底 4）一泊二日のスケジュールと安全管理を確認 5）自分が持ってきた「携行品」を全公開 6）何があり、何が足りないか、リスト化して現状の「自助レベル」を可視化する
6	9月13日（3限）：トイレ実習	1）断水したトイレでの排泄物処理を体験 2）手順の難しさ、処理袋の扱い、臭いへの懸念など、現場で直面する精神的負荷を記録
7	9月13日（4限）：非常食摂取	1）夕食 2）大学備蓄品等の特定食のみを摂取 3）空腹感、喉の渇き、食事中の孤独感や焦燥感など、心理的変化をサンプリングする
8	9月13日（5限）：健康測定・就寝準備	1）就寝前の健康測定 2）教室の床・机・椅子を使い「朝まで眠れる環境」を設営 3）この時点での疲労度とストレス値を記録
9	9月13日（6限）：健康測定・朝食	1）起床 2）直後の健康測定 3）不十分な睡眠が身体に与えた「痛み・重だるさ」を記録 4）簡素な朝食（大学の備蓄品）を摂り、活動を再開
10	9月13日（7限）：就寝環境に関する問題_安眠と健康維持	1）個人ワーク： 硬い床や椅子での就寝による身体的・精神的苦痛を言語化し、改善案を考案 2）グループ議論： 互いの案を共有し、教室内の資源で可能な「健康を守る寝床」の解をまとめる 3）医学的エビデンス（エコノミー症候群等）に基づく修正と、より高度な環境改善の問いを得る
11	9月14日（1限）：トイレに関する問題_衛生管理と尊厳	1）個人ワーク： 実習で感じた処理の不便さや、回数制限に伴う「水分抑制」等の健康リスクを整理 2）グループ議論： 臭気・衛生・プライバシーを両立させる、受入施設でのトイレ運用ルールを策定 3）過去の災害時の公衆衛生の失敗学や、科学的消毒・処理の最新知見を引き出し、解を深める
12	9月14日（2限）：携行品・非常食に関する問題_自助の最適化	1）個人ワーク： 今回の装備と食事の過不足を振り返り、生存と健康保持に「真に必要なリスト」を再考 2）グループ議論： 「快適に過ごし、安全に再会する」ための、携行品と非常食を決定 3）栄養学・生存科学の視点から欠落を指摘してもらい、社会実装可能なレベルまで「自助」の質を引き上げる
13	9月14日（3限）：整理・資料作成	1）4つのテーマ（トイレ・食・携行品・睡眠）について、体験・問題抽出・グループの共有解・最終回答を整理 2）帰宅困難者となった時の多くの問題を解決するための多様なシミュレーションをグループで統合
14	9月14日（4限）：レポートの作成と総括	1）健康測定結果の解析： 1泊2日の心身への影響を、実体験と客観データから多角的に分析する 2）サバイバル戦略の構築： 健康を維持して帰宅するための、論理的な災害対応策を構造化する 3）行動計画の策定： 帰宅困難者体験の成果を、日頃の備えや「自助」をアップデートする具体的な指針としてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

また、授業外学習として、事前に日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で行ってもらいます。これは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

1．『自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究 (千代田区キャンパスコンソーシアム)』、令和3年度～5年度の共同研究報告書

2．『最期の声 ドキュメント災害関連死』(山川徹 著 / KADOKAWA)

3．『いのちを守るために知る 災害メカニズム図鑑』(京都大学防災研究所 監修 / 二見書房)

4．『人が死なない防災』(片田敏孝 著 / 集英社新書)

5．『帰宅困難者対策ハンドブック』(内閣府 / 東京都)

6．『避難所でのトイレ対策マニュアル』(特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 編)

この他も必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60％

2）レポート・作成した資料等：40％

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
　本授業は、想定外の事態に対応する「実証実験」の要素をもった授業です。
　重要なことは、**本授業が「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視していること**です。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品については各自の判断で持参することを推奨します。
　また、本授業は大学の教室内での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての**同意確認書（保護者確認を含む書類）**を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。
　以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】
１．本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出ること。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。
２．授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。
３．本授業で得られた健康測定結果や議論の内容、演習風景の写真は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。
４．授業終了直後の帰宅路そのものが、最後の実証実験です。教室での体験と、自身の現在の住環境・備蓄・家族との連絡手段を照らし合わせ、即座に改善行動に移すことを強く期待します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course provides an experiential, problem‐based disaster preparedness program through a one‐night, two‐day campus‐based shelter simulation. Students experience challenges such as toilet use during water outages, emergency food, personal belongings, and sleeping conditions, while monitoring their physical and psychological responses. They refine their proposed solutions with generative AI and learn how to maintain health, make sound decisions, and strengthen personal disaster‐preparedness skills.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
Make safe and appropriate decisions during disasters.
Identify and improve issues related to toilet use, food, belongings, and sleeping environments.
Collaborate to develop realistic solutions.
Use generative AI to validate and refine proposals.
Apply learning to everyday preparedness and enhance personal resilience.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.
Additional tasks include reviewing materials, checking personal emergency supplies, organizing health data and notes from the simulation, and conducting basic daily health monitoring before the autumn session.
【Grading Criteria / Policy】
Class participation and engagement: 60%
Assignments and report: 40%
Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.
Evaluation will be comprehensive.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし大きな災害が起きて、避難所ではなく、自分でキャンプ生活をしながら避難する選択をしたら？

本授業は、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、首都圏で大規模災害が発生した際に想定される「帰宅困難」状況をテーマに、1泊2日の滞在型演習を通して、健康管理・行動判断・協働行動の防災リテラシーを実践的に学ぶ社会連携フィールドワーク科目です。実際の防災環境を想定した演習やグループ活動を通して、「自分の身を守る力」と「他者と協力して行動する力」を身につけることを目的としています。

キャンプを楽しみながら、災害時に本当に役立つスキルを身につけたい人の参加を歓迎します。

日本の指定避難所における雑魚寝や集団生活は、プライバシーの欠如に加え、エコノミークラス症候群や感染症、精神的ストレスといった深刻な健康被害（災害関連死のリスク）を抱えています。また、乳幼児を擁する家族など要配慮者への対応も十分とは言えず、2021年の制度改定後も、一般避難者には「自立した避難」の知恵が求められています。

本授業では、こうした屋内避難の限界を背景に、「避難所に行かない選択肢」としての大学キャンパスでの屋外キャンプ型避難を「新しい避難スタイル」として実践的に学びます。特に、不自由な環境下で食事・睡眠・衛生を自らマネジメントする術を習得します。身体データに基づき、過酷な状況下で心身の健康を維持するためのセルフヘルスケアスキルを学びます。

【到達目標】

1．災害時における自助行動の選択肢として「キャンプ避難」の可能性と限界を説明できる
2．猛暑・衛生・睡眠・栄養・水分に関するリスクを理解し、対策を立てられる
3．テント設営、生活動線設計、役割分担ができる
4．自身の健康状態をモニタリングし、異常に気づき行動できる
5．グループで課題を議論し、実行可能な解決策を導出できる
6．実習前後の身体・心理データをもとに振り返り、科学的に考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、スプリングセッション期間内に、事前授業（2027年3月8日）は市ヶ谷キャンパスにて、宿泊を伴う実践演習（2027年3月11日～12日）は多摩キャンパスにおいて開講する。授業の定員は30名とする。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業では、テント設営、生活環境づくり、健康管理、役割分担、食料・水の確保等について、学生主体で計画・実行し、その過程と成果を振り返ります。

【授業実施形態】

1．事前授業を市ヶ谷キャンパスで行う（第1～4回授業）。
2．事前授業では、教員から提示された課題に対して、①グループ討議⇒②問題抽出⇒③対策案作成⇒④発表（意見交換）の流れで、グループごとに「自分たちの答え」を導くプロセスを踏む。
3．数日間の準備期間を経て、**多摩キャンパスにおいて一泊二日のロールプレイ型キャンプ実習**（第5～14回授業）を実施する。
4．強い寒気や悪天候時には内容を変更または中止し、暖房設備のある校舎内に宿泊する場合がある。

【授業時間に関する注意】

本授業は、市ヶ谷キャンパスで実施する回は市ヶ谷の時間割、多摩キャンパスで実施する回は多摩の時間割に基づいて行う。キャンパスによって授業時限が異なるため、履修者は各回の実施時限を事前に必ず確認すること。

【履修希望者へ】

1．履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

●申込フォーム（Googleフォーム）
https://forms.gle/7BcazVda5FVytKQaA
●申請期間
2026年10月16日（月）17:00～11月13日（金）15:00
※期間外の申請は受け付けられません。

2．申込に関する注意

1）履修者選抜について：本科目には定員があります。
応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

2）申請後の流れ・注意事項
①申込完了後、Googleフォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。
内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。
※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。
②**履修者の決定は11月24日（月）です。**何らかの事情で**履修を取り消す場合は、11月19日17:00まで**に、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。
※　mamo1@hosei.ac.jp
③**履修登録は2027年度春学期に所属学部事務局が一括して登録します。**学生自身による履修登録は不要です。
④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。**受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。**

3）授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。
4）申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、GoogleクラスルームまたはE-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（2限）：ガイダンス&アイスブレイク_なぜ「生きる力」を学ぶのか	1）授業の目的・評価方法・安全配慮説明 2）災害時の帰宅困難問題の共有 3）アイスブレイク「もし今ここで災害が起きたら？」 4）キャンプ避難という選択肢の提示 5）実習シナリオ骨子の共有（大地震・孤立・停電）

第２回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（3限）：課題発見ワークⅠ_寒冷環境と健康リスクを見抜く	※教員から課題提示：「真冬に暖房と電気が止まったら何が起きるか？ …誰にとって一番厳しい環境か？」 ＜ヒント＞ １）低体温症 ２）脱水・エコノミークラス症候群 ３）睡眠障害 ４）呼吸器感染症と乾燥 ５）火気・電力使用に伴う二次災害 ６）その他
第３回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（4限）：課題発見ワークⅡ_生存に必要な生活要素を設計する	※教員から課題提示：「48時間、生き延びるには何が必要か」 ＜ヒント＞ １）水 ２）食料 ３）睡眠 ４）衛生…トイレ・ゴミ ５）体温調整 ６）防犯 ７）情報
第４回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（5限）：安全管理・健康管理理解_自分を守れない人は誰も守れない	宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング １）一泊二日の授業に関するオリエンテーション ２）中止基準・応急対応 ３）健康に関する測定の意義と方法 ４）持参物最終確認 ５）健康測定（歩数・睡眠・心拍数等）の開始
第５回：多摩キャンパス	3月11日（2限）：キャンプ構築実習Ⅰ_災害後、安全なルートで集合せよ	１）現地集合 ２）被災した前提の詳細シナリオ提示：役割分担 ３）フィールド選定・整地 ４）テント構造理解・設営講習
第６回：多摩キャンパス	3月11日（3限）：キャンプ構築実習Ⅱ_生活空間を完成させる	１）グループごとの設営完遂 ２）耐風・浸水対策 ３）動線設計 ４）簡易昼食（各自持参）
第７回：多摩キャンパス	3月11日（4限）：火気管理とエネルギー確保_熱源を制する者は夜を制す	１）薪・焚き付け採集 ２）火起こし ３）安全管理 ４）モバイルバッテリー残量計算 ※教員から課題提示：「スマホの電池切れ後、何を見る？」
第８回：多摩キャンパス	3月11日（5限）：野外炊事マネジメント_限られた資源で食を成立させる	１）下処理 ２）加熱 ３）食中毒予防 ４）水使用量管理
第９回：多摩キャンパス	3月11日（6限）：ロープワーク＆空間拡張_結べる人は生き残る	１）各種結索 ２）タープ設営 ３）資材固定 ４）タープやブルーシートで簡易更衣室を作る
第10回：多摩キャンパス	3月11日（7限）：夜間安全管理・健康測定_夜をどう越えるか	１）夕食 ２）衛生管理 ３）健康測定 ４）夜間リスク確認 ５）就寝環境整備 ６）照明・騒音環境の把握 ７）睡眠環境と他者配慮
第11回：多摩キャンパス	3月12日（1限）：起床・健康評価・朝食_野外生活は身体に何を与えたか	１）睡眠評価 ２）心身データ確認 ３）火起こし・朝食
第12回：多摩キャンパス	3月12日（2限）：突発課題ロールプレイ_想定外に対応せよ	※教員から課題提示：「現場で高確率で発生する問題に対応せよ」 １）水不足 ２）体調不良者 ３）電源喪失 ４）食料欠乏 ５）追加推奨：盗難・騒音・プライバシー問題 ６）幼児がいる家族が合流 ７）犬を連れた避難者が来た ８）女性の更衣場所がない
第13回：多摩キャンパス	3月12日（3限）：撤収・LNT実習_痕跡を残さず立ち去る	LNT実習：Leave No Trace Training １）装備清掃 ２）乾燥 ３）分別 ４）フィールド点検 ５）迅速移動シミュレーション
第14回：多摩キャンパス	3月12日（4限）：振り返りと社会実装_自助から共助へ	１）データ共有 ２）改善点抽出 ３）「理想のキャンパス避難モデル」提案 ４）レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

＜例＞

１）災害時の避難生活や避難所環境に関する新聞、雑誌、書籍、Web記事等の事前確認

２）授業で扱った事例や課題についての追加調査・振り返り

３）実習に向けた個人装備・持参物の確認と準備

４）グループ課題に関する情報収集・意見整理

また、スプリングセッション前には日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で実施する予定です。これらは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

１．ビジュアル「生きる技術」図鑑：防災・キャンプに役立つサバイバルテクニック、かざまりんぺい／子供の科学編集部（ナツメ社）

２．キャンプ×防災のプロが教える 新時代の防災術、寒川 一（学研プラス）

３．防災のサバイバル、国崎信江／山本典生（監修）（主婦の友社）

４．ぼくらの災害サバイバルBOOK、国崎信江（監修）（主婦の友社）

５．みんなが知りたい! 自然災害のすべて：日本でおきる災害のしくみから防災へのとりくみまで、菅井貴子（技術評論社）

【成績評価の方法と基準】

１）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60％

２）レポート・作成した資料等：40％

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。

ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していないため、学生の意見を取り入れながら柔軟に実施します。

【学生が準備すべき機器他】
本授業は、「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視しています。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、テントは大学が貸与し、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品（寒冷対策：シュラフ等の寝具、食料等）については各自の判断で持参してください。なお、授業で扱う健康指標の計測（活動量計・気温湿度等）に必要な機材も貸与します。
また、本授業は屋外での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。
以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】
１，本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。
２．本科目の扱い
本科目は2026年度スプリング・セッションとして開講され、履修登録・成績付与は**2027年度春学期扱い**となります。
※以下に該当する学生は履修できません：
2026年度に卒業予定の4年生
2026年度秋学期に前期留学・SA参加予定の学生
2027年度春学期に休学予定の学生
2027年度春学期に派遣留学・SA参加予定の学生
※本科目は**2026年度秋学期および年間履修上限単位に含まれません**。
2027年度春学期に休学した場合、または派遣留学・SA参加により成績処理が行えない場合、成績は付与されません。
３．その他
１）この授業で用いるグループLINEにおいて、**誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合**は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。
２）2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更したことがありました。そのため、履修する場合は**スプリングセッション期間（授業予定日：3/8～3/12）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。**
３）**3/11のテント泊について**
寒冷環境下で行うテント泊に関する説明は事前授業で行います。避難所を想定したキャンプをより現実的に体験するために**暖房器具**は使用しません。しかし、健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に対応します。
４）本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出てください。**安全確保のための離脱**は成績評価に不利に働くものではありません。
５）授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。
６）本授業で得られた実習風景の写真や健康測定結果、議論の内容は統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは授業終了時までに申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course addresses the health and privacy problems of Japan's evacuation shelters and introduces outdoor, campus-based camping as a practical "alternative evacuation style." By combining sports medicine with essential outdoor skills, students learn to manage food, sleep, and hygiene independently and maintain physical and mental health in lifeline- free environments.
The course aims to build personal disaster self- reliance by:
Health Management – Learning methods to prevent disaster-related health issues, including DVT and basic nutrition.
Practical Skills – Acquiring minimal-gear "disaster camping" techniques usable as everyday-based evacuation training.
Resilience – Developing the mindset and cooperative ability to adapt and improve living conditions under hardship.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
Explain the potential and limitations of camp-based self-evacuation as a disaster response option.
Understand risks related to heat, sanitation, sleep, nutrition, and hydration, and propose appropriate countermeasures.
Set up tents, design living flow lines, and assign roles effectively.
Monitor their own health status and take appropriate action when noticing abnormalities.
Discuss challenges collaboratively and develop feasible, action-able solutions.
Analyze pre- and post-exercise physical and psychological data and reflect scientifically on the outcomes.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected to:
Review news articles, books, and online materials related to disaster shelters and evacuation conditions.
Conduct additional research and reflection on issues discussed in class.
Prepare personal gear, supplies, and necessary items for the practical camp exercise.
Collect information and organize ideas for group activities.
Spend approximately two hours on preparation and review for each class session.
【Grading Criteria / Policy】
Class participation and engagement: 60%
Assignments and report: 40%
Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.
Evaluation will be comprehensive

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ａ　2017年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】
　実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
10	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
12	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
　音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（60％）と小テスト（40％）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
term-end test: 60%, mini-test: 40%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ｂ　2017年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】
　実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 7	人・ものを描写する ・IR動詞 ・形容詞 ・動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞＋à＋不定詞 ・動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字21～69 ・動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞en
11	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞yとle ・様々な否定表現
13	Leçon 13	関係代名詞、強調構文
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
　音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40%）と期末テスト（60%）の結果をもとにして評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
term-end test: 60%, mini-test: 40%.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この教養ゼミⅠを紹介する動画です　https://x.gd/LgDjY　（約7分8秒；学内者のみ視聴できます）
【履修登録にかかわる特記事項】
●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。
●この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。
●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：ポピュリズム入門〜衆愚政治か、民主的な異議か〜（9月中旬）【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。
==========
【科目のかんたんな説明】
●この教養ゼミⅠは、**2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）の4日間で開催**される集中講座です（2単位）。
●**短い日数で効率よく学べる**利点があります。
●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。
●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。
●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：
1）人口1700万人強のオランダが、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのはなぜかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
2）欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）**2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）の4日間に開催**されます。
（ウ）希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）4日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため「まとめコメント」の早期提出を認めています。
（カ）とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/FK17p にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「教養ゼミⅠ『移民社会』入門〜見える国境と見えない国境〜（8月上旬）」URL https://x.gd/SBUYw にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月3日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月3日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月3日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月3日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月4日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【8月4日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月4日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月4日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月5日（水）2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月5日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月5日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月6日（木）2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月6日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える

14	考える・まとめる【8月6日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
８月のサマー・セッションの時期を待つことなく、Google Classroomをつうじ、４月から資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　=15%
２．まとめコメント =52%
３．まとめコメントの早期提出（教員への相談が必要です）
４．教室内活動への参加 =33%
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/FK17p にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。
※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春セメスター（前期）科目であるため、８月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を８月７日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料を共有したり、課題を提出したりするさいに、Google ClassroomやBOX、Office365等を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL https://x.gd/pbONn

【Outline (in English)】
What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders?　Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception ? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country ? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.
［Learning Objectives］
The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この教養ゼミⅡを紹介する動画です　https://x.gd/tB16R　（約７分５３秒；学内者のみ視聴できます）
【履修登録にかかわる特記事項】
●この科目「教養ゼミⅡ　ポピュリズム入門 ～衆愚政治か、民主的な異議か～ 」（Q6606）は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ＩＬＡＣ）が一括して履修登録を行います。
●履修を希望する方は **2026年4月10日（金）午前11時30分** までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。
●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。
==========
【科目のかんたんな説明】
●教養ゼミⅡ「ポピュリズム入門 ～衆愚政治か、民主的な異議か～」は **2026年9月11日（金）・9月12日（土）・9月14日（月）・9月15日（火）の４日間で開催される集中講座**です（２単位）。
●世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】
（1）さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
（2）ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐり異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景（例　メリトクラシー）を掘り下げながら、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）**2026年9月11日（金）・9月12日（土）・9月14日（月）・9月15日（火）の４日間に開催**されます。
（ウ）希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのためセッション授業終了後の話題提供を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは Excel ファイル「進行予定表」URL https://x.gd/ytbHb にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Word ファイル「2026 年度：教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～（９月中旬）」URL https://x.gd/q4xhC にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月11日（金）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月11日（金）3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月11日（金）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月11日（金）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月11日（金）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月12日（土）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか（政治的動員）
6	対立の構図を理解する【9月12日（土）3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月12日（土）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月12日（土）分の「まとめレポート」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月14日（月）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月14日（月）3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月14日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月14日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日（月）分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月15日（火）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私（たち）はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月15日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【9月15日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
９月のオータム・セッションの時期を待つことなく、Google Classroom やBOX、WebClass 等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔&髙山裕二訳、白水社、2018年。*Cf*. https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　=15%
２．まとめコメント =52%
３．教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 =33%
４．セッション授業終了後の話題提供
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/ytbHb にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。
※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有や課題の提出に、Google ClassroomやBOX、Office 365を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡポピュリズム入門〜衆愚政治か、民主的な異議か〜（９月中旬）」URL https://x.gd/q4xhC をご覧ください。

【Outline (in English)】
Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century ?"
［Learning Objectives］
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the followings :
1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，　学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレーカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における，日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	西洋人の来日(1)	マスケット伝来
6	西洋人の来日(2)	キリスト教伝来
7	日欧交流の発展（1）	日本における宣教師達①
8	日欧交流の発展（2）	日本における宣教師達②
9	日欧交流の発展（3）	南蛮屏風
10	日欧交流の発展（4）	日本語学習の曙
11	日欧交流の変容	来日西洋人の多様化
12	学生による発表①	史料の紹介と分析
13	学生による発表②	史料の紹介と分析
14	学生による発表③及びまとめ	史料の紹介と分析 前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，予習，課題や発表の準備等が毎回求められます。
それらは，大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので，そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト，宿題，「予習シート」等：約40%
・発表（史料の紹介と説明）：約40%
・平常点（授業への参加状況）：約20%
※ 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやHoppiiを使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.
The grading policy should be the following:
・Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
・Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
・Regular assessment (class participation): approx. 20%
※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 西洋におけるジャポノロジーの現状
2	世界一周の寄港地としての日本	Francesco Carlettiの見た日本
3	西欧人のサムライ	William Adamsの見た日本
4	オランダ東インド会社の登場	François Caronの見た日本
5	ヨーロッパにおける日本史の定番	Engelbert Kaempferの見た日本
6	ヨーロッパにおける日本キリスト教史	Pierre François-Xavier de Charlevoixの語った日本
7	ヨーロッパにおける日本の植物学①	Peter Thunbergの見た日本
8	ヨーロッパにおける日本の植物学②	Philipp Franz Balthasar von Sieboldの見た日本
9	ヨーロッパ人による日本北方地域の探検	Vasilii Mikhailovich Golovninの見た日本
10	幕末期におけるジャポノロジー①	パリ外国宣教会宣教師の見た日本①
11	幕末期におけるジャポノロジー②	パリ外国宣教会宣教師の見た日本②
12	幕末期におけるジャポノロジー③	レオン「三兄弟」：Léon de Rosny, Léon Pagès, Léon Duryと日本
13	学生による発表①	史料の紹介と分析
14	学生による発表②及びまとめ	史料の紹介と分析 秋学期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，予習，課題や発表の準備等が毎回求められます。
それらは，大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので，そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト，宿題，「予習シート」等：約40%
・発表（史料の紹介と説明）：約40%
・平常点（授業への参加状況）：約20%
※尚，平常点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなします。10 分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は，速やかに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google Classroom やHoppii を使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.
The grading policy should be the following:
・Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
・Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
・Regular assessment (class participation): approx. 20%
※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) A
2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身につけたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d’été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内
7	Les transports en Afrique de l’Ouest	交通手段②
8	D’autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L’habitat（ミニ口頭発表）	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poulain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l’heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身につくものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています)。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，Hoppiiにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，小テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は 2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6 ヶ月につき990 円になる予定です。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line): 20 %／Reading marathon (Extensive reading): 20 %／Short essays: 20 %／Class participation: 20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) B
2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身につけたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる
6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Qu’est-ce qu’on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）
13	Entretien d’embauche	成功と失敗①
14	Le commerce en Afrique	成功と失敗②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身につくものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝２単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。
「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，Hoppiiにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，小テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約20%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6ヶ月につき990円になる予定です。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読Ａ

2017年度以降入学者

大池　惣太郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Elisabeth Roudinesco による子供向けの精神分析の入門書 L'inconscient expliqué à mon petit-fils(Seuil, 2015)を読みます。平易なフランス語で既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目的とします。

【到達目標】
フランス語で書かれた平易な論説文を辞書を使って自力で読み解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回可能な限り全員が当たるようにする。
当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。
（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）
大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。
期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書の紹介
第2回	文献の講読（1）	p.10～p.19
第3回	文献の講読（2）	p.20～p.29
第4回	文献の講読（3）	p.30～p.39
第5回	文献の講読（4）	p.40～p.49
第6回	文献の講読（5）	p.50～p.59
第7回	文献の講読（6）	p.60～p.69
第8回	文献の講読（7）	p.70～p.79
第9回	文献の講読（8）	p.80～p.89
第10階	文献の講読（9）	p.90～p.99
第11回	文献の講読（10）	p.100～p.109
第12回	文献の講読（11）	p.110～p.119
第13階	文献の講読（12）	p.120～p.128
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Elisabeth Roudinesco, L'inconscient expliqué à mon petit-fils(Seuil, 2015)

【参考書】
辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の発表担当）70％、学期末の授業内試験30％で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
This course reads L'inconscient expliqué à mon petit-fils (2015) by Elisabeth Roudinesco, an introductory book on psychoanalysis for children. Using clear and simple French, students will review basic grammar and improve their reading skills.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読Ｂ

2017年度以降入学者

大池　惣太郎

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Emanuel Carrèreによる戦慄のノンフィクション小説L'Adversaire（Gallimard, 2000）. を読みます（邦題『嘘をついた男』）。既訳も参照しながら、ある程度まとまった量のフランス語のテクストを通読することで、既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目指します。

【到達目標】
フランス語で書かれたある程度の量のある小説文を自力で通読し、読解力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回可能な限り全員が当たるようにする。
当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。
（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）
大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。
期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書の紹介 映画『見えない嘘』視聴
第2回	文献の講読（1）	p.11～p.27
第3回	文献の講読（2）	p.28～p.43
第4回	文献の講読（3）	p.44～p.60
第5回	文献の講読（4）	p.61～p.77
第6回	文献の講読（5）	p.78～p.94
第7回	文献の講読（6）	p.95～p.111
第8回	文献の講読（7）	p.112～p.128
第9回	文献の講読（8）	p.129～p.145
第10階	文献の講読（9）	p.146～p.161
第11回	文献の講読（10）	p.162～p.188
第12回	文献の講読（11）	p.189～p.205
第13階	文献の講読（12）	p.206～p.220
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Emmanuel Carrère, L'Adversaire, Gallimard, Folio, 2011 [2000].
準備するのは文庫版（folio版）にしてください。

【参考書】
辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の発表担当）70％、学期末の授業内試験30％で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
This course reads L'Adversaire by Emmanuel Carrère. Students will read the French text together with the Japanese translation. By reading a longer French text, students will review basic grammar and further improve their reading skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ａ　2017年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。
※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」	「中国及び中国語に関する概説」「中国語の四声」
2	「第１課」「第２課」	「発音１」「発音２」
3	「第３課」「第４課」	「発音３」「発音４」
4	発音の復習	「発音１から４」の復習をする
5	「第５課」「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第７課」「第８課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第９課」「第１０課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	中間試験	第１課～第１０課の内容の定着度チェック
9	「第１１課」「第１２課」	「補語」「動詞述語文１」
10	「第１３課」「第１４課」	「動詞述語文２」「動詞述語文３」
11	「第１５課」「第１６課」	「動詞述語文４」「動詞述語文５」
12	「第１７課」「第１８課」	「動詞述語文６」「動詞述語文７」
13	「第１９課」「第２０課」	「完了態」「変化態」
14	期末試験	第１１課～第２０課の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。補助問題やｅ宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ｂ　2017年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。
※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」「第２２課」	「経験態」「進行態」「持続態」
2	「第２３課」「第２４課」	「形容詞述語文（一)」「形容詞述語文（二)」
3	「第２５課」「第２６課」	「形容詞述語文（三)」「名詞述語文（一)」
4	「第２７課」「第２８課」	「名詞述語文（二)」「名詞述語文(三)」
5	「第２９課」「第３０課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
6	復習課Ⅰ	第２１課～第３０課までの復習
7	中間試験	第２１課～第３０課までの内容の定着度チェック
8	「第３１課」「第３２課」	「程度補語」「数量補語」
9	「第３３課」「第３４課」	「結果補語」「方向補語」
10	「第３５課」「第３６課」	「可能補語」「助動詞」
11	「第３７課」「第３８課」	「兼語文」「受け身表現」
12	「第３９課」「第４０課」	「把構文」「存現文」
13	復習課Ⅱ	第３１課～第４０課までの復習
14	期末試験	第３１課～第４０課までの内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。補助問題やｅ宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書)】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ａ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第１課　（トレーニング１）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第２課（”的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第２課（トレーニング２）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第３課（連動文、”是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第３課（トレーニング３）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第１課～第３課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第４課（”了”の３つの用法、副詞”就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第４課（トレーニング４）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第５課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第５課（トレーニング５）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第１課～第３課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第４課、第５課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、授業への参加度60％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ｂ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。
課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第６課（結果補語（１）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第６課（トレーニング６）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第７課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第７課（トレーニング７）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第８課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第８課（トレーニング８）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第６課～第８課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第９課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第９課（トレーニング９）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング１０）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第６課～第８課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第９課、第１０課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度60％、期末試験40％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This corse is continued from Spring semester.
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ａ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・Ⅱと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第７課	文法理解と応用
3	第７課	会話と応用
4	第７課	読解文の理解と応用
5	第７課	課外練習と作文
6	第８課	文法理解と応用
7	第８課	会話と応用
8	第８課	読解文の理解と応用
9	第８課	課外練習と作文
10	第９課	文法理解と応用
11	第９課	会話と応用
12	第９課	読解文の理解と応用
13	第９課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner Ⅰ and Ⅱ on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ｂ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ａ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。
尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。
3. 教員が添削した作文をもとにリライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。
4. 春学期の学習を修了した段階で、HSK3級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。
・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。
なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	第一課	ウォームアップ（1）
3	第二課	ウォームアップ（2）
4	第三課	1. ある・いる 2. お飾りの“很”
5	第四課	1.“☒"がいる時　いらぬ時 2.「行きませんか」は「行きましょう」 3.「何か」「どこか」「だれか」の訳し方
6	第五課	1.「何の映画？」と「なんて映画だ！」 2.「疑問詞＋でも」が隠れていたら疑問詞呼応構文
7	第六課	1. 動詞はどうした？ 2.「サングラスの男」はサングラスをかけている
8	第七課	1. よく現れる“来”と“去” 2.「動目」構造の動詞はとれない目的語
9	第八課	1.「思う」あれこれ 2. 動詞の重ね型
10	第九課	1. 文脈に隠れた代名詞をさがせ 2.“☒么”“那么”がいる　こんな場合あんなとき
11	第十課	1. 中国語では現れる副詞“就” 2.“才”は「やっと」現れる
12	第十一課	1. 例外なしは“都”で 2.「だけ」にあたる“只”の位置 3.「も」にあたる“也”の位置
13	第十二課	1.「また」もう一度“再”“又”“☒” 2. ちょっと待て“再”の出番はこれからだ
14	総括・試験	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。
・本授業における準備学習および復習の時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年　ISBN 978-4-255-45138-1

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点を50％（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50％とし、合計100点満点で評価する。
本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】
・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。
・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。
・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions.
In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ｂ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。
尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。
3. 教員が添削した作文をもとにリライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。
4. 秋学期の学習を修了した段階で、HSK4級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。
・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。
なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第十三課	1.「…から」が“从”にならぬとき 2.「…まで」を“到”に訳さないとき 3. 動詞のあとにくる“到…”
2	第十四課	1.「XはYだ」はいつも“X是Y”とは限らない 2. “是……的”構文
3	第十五課	1.「で」「に」「から」「と」「まで」などは中国語では介詞です。 2. 介詞フレーズを含む文の否定 3.「…について」
4	第十六課	1.「ちょっと・少し」の表し方 2.「安くする」手立て
5	第十七課	1.でしゃばり量詞 2. 数量は動詞・形容詞の後ろ
6	第十八課	1. 形容詞　昨日のとこでも“了”はいらぬ 2.「…ている・ていた」なのに“了”をつける
7	第十九課	1. 中国語　動詞があってこその補語 2. 補語は大事だ　保護すべし
8	第二十課	1. “要”が要るとき 2.「起こりそう」なら“会”を添え 3.「…できる」にあたる“能”“会”“可以”
9	第二十一課	1. おのずから　なるも原因あり“被”構文 2.「東京で開かれる」は“在☒京☒行” 3. 受け身がだめなら　能動文
10	第二十二課	1. こんなときは“把”構文を 2. “把”構文
11	第二十三課	1. やりもらい　だれがいい目を　みるのやら 2. ときに「目的」はあとから 3.「まもなく…する、もうすぐ…する」
12	第二十四課	1. 中国語で出現する“人” 2. 道具・手段や原因を表す「で」 3. 否定と肯定　入れかえてみる 4. 逆転の発想
13	第十三課～第二十四課	総括
14	期末テスト	第十三課～第二十四課　試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。
・本授業における準備学習および復習の時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年　ISBN 978-4-255-45138-1

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点を50％（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50％とし、合計100点満点で評価する。
本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】
・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。
・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。
・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions.
In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ａ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、発音を綺麗にする。
３、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。
また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（１）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（１）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（２）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（１） 授業内発表（２）	副詞と時間詞につい勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（２）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（３）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（３）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk by accurate pronunciation.
We should talk daily conversation well.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ｂ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、作文能力を高める。
３、日常会話をできるようにする。
４、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。
また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（１）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（１）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（２）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（２）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（３）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（３）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（１）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（２）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｃ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期はHSK3級～4級レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その１）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習(その２）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その１）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その２）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第6回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第7回	重要な前置詞（介詞、その１）	“在”“从”“到”“離”
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	重要な前置詞（介詞、その２）	“往”“朝”“向”“対于”“対”“通過”“按照”“关于”など）
第10回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第11回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第12回	特殊構文（その１）	存在を表す構文、連動文
第13回	特殊構文（その２）	存現文、比較構文、
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０%＋中間テスト（３０%）＋期末テスト（３０%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｄ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期ではＨＳＫ4級～５級レベル（中国語検定試験3～２級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その１）	使役文と受け身文
第5回	特殊構文（その２）	“是・・・的”構文
第6回	特殊構文（その３）	“把”構文
第7回	特殊構文（その４）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿… 都 ”など
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	中国語の補語（その１）	結果補語と方向補語
第10回	中国語の補語（その２）	可能補語、数量補語
第11回	中国語の補語（その３）	数量補語、様態補語
第12回	中国語の複文（その１）	並列関係、累加関係、選択関係
第13回	中国語の複文（その２）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０%＋中間テスト（３０%）＋期末テスト（３０%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語中級Ａ

2017年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
（2）過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方・方法】
授業は、自宅でのｅラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。
■授業前の事前学習
・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。
■授業の進め方と方法
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）［約20分］
②リスニング問題の解説［約50分］
③各種練習問題を通じたトレーニング［約30分］
【各種フィードバック方法】
教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK3級リスニング対策④	HSK3級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK3級リスニング対策⑤	HSK3級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と練習問題
7	HSK3級リスニング対策⑥	HSK3級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK3級リスニング対策⑦	HSK3級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK3級リスニング対策⑧	HSK3級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK3級読解対策①	HSK3級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3級読解対策②	HSK3級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3級作文対策	HSK3級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3級模擬試験と解説	HSK3級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に以下の事前学習を行うこと。
・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100％評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はｅラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】
・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3.　To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.

・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語中級Ｂ

2017年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、HSK（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。
(2) 過去問題を解き、HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方・方法】
授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。
■授業前の事前学習
・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK4級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。
■授業の進め方と方法
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）［約20分］
②リスニング問題の解説［約50分］
③各種練習問題を通じたトレーニング［約30分］
【各種フィードバック方法】
教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と練習問題
7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と練習問題
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に以下の事前学習を行うこと。
・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100％評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】
・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4.　To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】
The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ａ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 50%
宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ｂ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 50%
宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川　敦

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ」や「ドイツ語圏」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？
本授業ではドイツやドイツ語圏についてトピックをとりあげ、少し深く考えてみたいと思います。
ドイツ語の学習は前提としません。

【到達目標】
ドイツ語圏に関する様々なテーマを見ることで、社会や歴史について理解し、今後探求していく糸口を見つけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っていただくこともあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ドイツとドイツ語圏について。
第2回	ドイツ語の歴史と多様性	ドイツ語が成立した歴史や地域的な違いを見ます。英語の知識が役に立つかもしれません。
第3回	ビール	ビールの歴史と現状について。
第4回	ドイツの環境政策	ドイツの環境政策について。
第5回	ドイツの交通政策	トラムや電気自動車、アウトバーンなど交通政策について。
第6回	ドイツの鉄道	ドイツの鉄道の歴史と現在について。
第7回	自動車産業から見るドイツ経済	ドイツ経済について、自動車産業から。
第8回	ドイツの教育制度	マイスター制度など、日本とは異なる教育制度について。
第9回	東ドイツ	かつて存在した東ドイツ（ドイツ民主共和国）やベルリンの壁について。
第10回	ドイツの歴史教育	過去をどう扱うのかについて。
第11回	多様化するドイツ	移民の歴史と現在、統合政策について。
第12回	オーストリアとウィーン	カフェ文化など独自の文化を形成するオーストリアの首都ウィーンについて。
第13回	日本の中のドイツ、ドイツの中の日本	ハリボー、バウムクーヘン、アニメ文化等、日本にあるドイツ語やドイツ語圏の文化、ドイツ（語圏）にある日本の文化について。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしておいてください。こちらから尋ねることもあります。
復習：ハンドアウトとノートを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探して調べてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加50％、期末レポート50％

【学生の意見等からの気づき】
受講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
授業中は話を聞き、ノートをとるようにしてください。
春学期と秋学期は独立して履修できます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces and explores topics about Germany and the German-speaking world.
Students do not need to learn German to take this course.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop an understanding of the society, culture and history of the German-speaking world.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 50%
Final report 50%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川　敦

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現在のドイツ以外で、ドイツ語が／ドイツ語も使われる／使われた地域の歴史や文化について扱います。言語の話も出ますが、ドイツ語の知識は不要です。

【到達目標】
ドイツ語圏の文化や社会、人々の多様性について理解を深めます。日本社会への気づきにもつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っていただくこともあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱うテーマについて概観します。
第2回	オーストリアの歴史	オーストリアの現代史を中心に扱います。ハプスブルク帝国に遡ることもあります。
第3回	オーストリアの現代史と現在	オーストリアの現代史と現在のオーストリアの社会や文化を扱います。
第4回	スイスの歴史	多言語国家であり永世中立国であるスイスがどのように成立したのかを見ます。
第5回	スイスの現代史と現在	スイスの現代史と現在のスイス社会を考えます。
第6回	ベルギーの歴史	ベルギーの歴史を扱います（ベルギーには小さなドイツ語共同体があります）。
第7回	ベルギーの現代史と現在	ベルギーの現代史を扱いながら、EUの中心地でありながら今日でも言語問題でゆれるベルギーの今を考えます。
第8回	ルクセンブルクの歴史	GDPが世界トップクラスである小国ルクセンブルクの歴史を扱います。
第9回	多様化するルクセンブルク	多言語社会・移民社会となった今日のルクセンブルクについて考えます。
第10回	アルザス・ロレーヌの歴史	ドイツなのかフランスなのか、帰属をめぐってゆれたフランス東部のアルザス地方・ロレーヌ地方の歴史について扱います。
第11回	アルザス・ロレーヌ（言語）	アルザス・ロレーヌについて、特に言語問題に焦点を当てます。
第12回	ドイツ騎士団と東プロイセン	かつて東に移住したドイツ系住民の歴史を扱います。
第13回	アメリカ合衆国のドイツ系住民	かつて、ドイツ語圏からは多くの人々がアメリカに移住しました。今日にも残る移民の歴史を扱います。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしたり、インターネット等で検索してください。授業中にこちらから尋ねることもあります。
復習：ノートを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しません。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加50％、期末レポート50％

【学生の意見等からの気づき】
受講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンだけでなくPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
授業中は話をよく聞き、ノートをとるようにしてください。
春学期と秋学期は独立して履修できます。春学期に履修した人も履修しなかった人も積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course focuses on the history and culture of the regions where German is also used or where it was used.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this course, students deepen their understanding of the diversity of cultures, societies and people in German-speaking areas.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 50%
Final report 50%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松　勲

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。
「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。
なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】
1）フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
2）フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
3）「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。
授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。
提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	①Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	②Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	③Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤Grand-Est	・グラン・テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥Pays de la Loire	・ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧Bourgogne-Franche Conté	・ブルゴーニュ＝フランシュ・コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ・アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏（PACA）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
2）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
3）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
4）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書は、特になし
・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】
Ⅰ．以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
1）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房，2018年．本体2600円＋税
2）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房，2018年．本体2800円＋税
3）ジャン＝ブノワ・ナドー，ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店，2008年．本体2400円＋税
4）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年．本体3400円＋税
Ⅱ．以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみて欲しい。
5）Fabienne Guillemin著『Tour de France（フランス，地方を巡る旅）』駿河台出版社，2017年．本体1900円＋税

６）小松祐子，Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社，2019年．本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：30％
②期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】
・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】
・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%, term-end report: 70%.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松　勲

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。
「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。
なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】
1）フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
2）フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
3）「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。
毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。
毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグレブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグレブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
2）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
3）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
4）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書は、特になし
・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】
Ⅰ．以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
1）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房，2018年．本体2600円＋税
2）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房，2018年．本体2800円＋税
3）ジャン＝ブノワ・ナドー，ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店，2008年．本体2400円＋税
4）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年．本体3400円＋税

Ⅱ．以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみて欲しい。
５）Fabienne Guillemin著『Tour de France（フランス，地方を巡る旅）』駿河台出版社，2017年．本体1900円＋税
６）小松祐子，Gilles Delmaire著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社，2019年．本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシート等）：30％
②期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】
・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】
・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%, term-end report: 70%.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション(初級) I

2017年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：1単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。ヨロッパ言語共通参照枠のDELF A1と仏検5級と4級の準備に役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書の各単元は、簡単な会話の聞き取り練習から始まります。その後、コミュニケーションを重視した語彙や文法の練習を行います。そして、教科書で学習した内容を活用して会話を作成します。練習問題は、個人、ペア、またはグループで行います。
教科書に加えてビデオ教材を取り入れ、フランス文化を紹介します。ビデオに関連した短文を音読し、発音などの練習も行います。
また、時々ボードゲームなどを用いて、フランス語を使いながら楽しく学習します。
授業には、積極的に参加することが求められる。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 Saluer, se présenter	アルファベット、不定冠詞、自己紹介
2	Leçon 1 Saluer, se présenter	être 動詞、第三者を紹介する
3	Leçon 2　Dire sa nationalité, dire sa profession	国籍を言う、職業を言う
4	Leçon 2　Dire sa nationalité, dire sa profession	女性形の作り方, 数字10まで
5	Leçon 3 "Je parle anglais.", "J'étudie les maths."	定冠詞 le, la, les, 名前の複数形
6	Leçon 3 "Je parle anglais.", "J'étudie les maths."	言語を言う、専攻について話す
7	Leçon 4 Dire où on habite	住んでいる国や都市を言う
8	Leçon 4 Dire où on habite	否定形 ne...pas、数字11～20
9	Leçon 5 "J'ai une moto.", "J'ai 18 ans."	持ち物を言う、年齢を言う
10	Leçon 5 "J'ai une moto.", "J'ai 18 ans."	il y a, 不定冠詞, 数字２０～６０
11	Leçon 6 "Je vais au cinéma.", Parlez des tâches ménagères	faire, aller 動詞
12	Leçon 6 "Je vais au cinéma.", Parlez des tâches ménagères	前置詞àと定冠詞の縮約
13	総復習、文化の紹介	フランスの世界遺産を簡単なフランス語の動画での紹介など
14	文化の紹介	人気フランス映画、最近の人気歌手など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プチ・マエストロ 1
北村亜矢子 /ヴァンサン・デュランベルジェ
朝日出版社
ISBN: 978-4-255-35372-2

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In-class contribution and participation: 100%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション(初級) II

2017年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：1単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。ヨロッパ言語共通参照枠のDELF A1と仏検5級と4級の準備に役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書の各単元は、簡単な会話の聞き取り練習から始まります。その後、コミュニケーションを重視した語彙や文法の練習を行います。そして、教科書で学習した内容を活用して会話を作成します。練習問題は、個人、ペア、またはグループで行います。
教科書に加えてビデオ教材を取り入れ、フランス文化を紹介します。ビデオに関連した短文を音読し、発音などの練習も行います。
また、時々ボードゲームなどを用いて、フランス語を使いながら楽しく学習します。
授業には、積極的に参加することが求められる。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 7 Décrire quelqu’un ou quelque chose	人や物を描写する、位置を言う
2	Leçon 7 Décrire quelqu’un ou quelque chose	色、体型、性格を表す形容詞、数字60 99
3	Leçon 8 Acheter des vêtements	衣服の名称、指示形容詞 ce, cette, ces
4	Leçon 8 Acheter des vêtements	時刻、動詞vouloir, prendre
5	Leçon 9 Au marché : acheter des fruits et légumesParler de sa chambre	食べ物について話す、数量を表す表現
6	Leçon 9 Au marché : acheter des fruits et légumesParler de sa chambre	部分監視 du, de la 中性代名詞 en
7	Leçon 10 Où est ... ? La localisation, parler du temps qu’il fait	位置関係を表す表現
8	Leçon 10 Où est ... ? La localisation, parler du temps qu’il fait	天気を表す表現 数字1000-10 000
9	Leçon 11 Poser des questions et parler des son emploi du temps	質問の作り方、近接未来
10	Leçon 11 Poser des questions et parler des son emploi du temps	動詞 partir、月
11	Leçon 12 Parler d’ événements passés	過去の行為や出来事を語る
12	Leçon 12 Parler d’ événements passés	過去分子の作りから、複合過去形の作り方
13	総復習	すごろく、ボードゲームなどで楽しくフランス語を使う。
14	文化の紹介	フランスの歴史的な人物：簡単なフランス語の動画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プチ・マエストロ 1
北村亜矢子 /ヴァンサン・デュランベルジェ
朝日出版社
ISBN: 978-4-255-35372-2

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In class contribution and participation:100%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語視聴覚(初・中級) I　　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：1単位
定員制(30)
本科目は2026年度の開講をもって、2027年度以降閉講します。
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語のインタビュー映像を主題にした教科書『Quoi de Neuf?』を用いて、主にフランス語の聞く力・読む力・書く力をつけることを目的とします。受講者はフランス語既習者であり、また仏検4級～3級程度、またはDELF A1～A2程度の知識を持っている学生を想定しています。既習事項の基礎を確りと固めると同時に、運用能力を高めて、フランス語力を向上することを目指します。
なお、春学期の授業では、教科書の第1課～第5課までを扱い、1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

【到達目標】
フランス人に対するインタビュー映像を見聞きした上で、その内容を理解することができるようになる。加えて、関連する文章を読解・理解した上で、フランス語の文法事項を修得するだけでなく、文章構成の方法（接続表現など）を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では、教科書の第1課～第5課までを扱い、1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。
なお、課題はHoppii上での提出をしてもらいます。ただし、時には実際に手で記載したものを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Les Nombres Leçon 1: Quels réseaux sociaux utilisez-vous ?①	・自己紹介、教科書・副教材の紹介 ・数の数え方 ・第1課の前半（疑問文、代名動詞）
2	Leçon 1: Quels réseaux sociaux utilisez-vous ?②	・第1課の後半
3	Leçon 2: Où habitez-vous en ce moment ?①	・第2課の前半（関係代名詞）
4	Leçon 2: Où habitez-vous en ce moment ?②	・第2課の後半
5	Leçon 3: Que faites-vous au quotidien pour la planète ?①	・第3課の前半（比較級、最上級）
6	Leçon 3: Que faites-vous au quotidien pour la planète ?②	・第3課の後半
7	Leçon 4: Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?①	・第4課の前半（直接・間接目的代名詞と代名詞en, y）
8	Leçon 4: Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?②	・第4課の後半
9	Leçon 5: Quel est votre budjet mensuel ?①	・第5課の前半（複合過去、半過去）
10	Leçon 5: Quel est votre budjet mensuel ?②	・第5課の後半
11	追加教材①：音楽	・楽曲を聞き、特徴的なフランス語表現を理解する。
12	追加教材②：映画	・映像作品を見て、特徴的なフランス語表現を理解する。
13	追加教材③：文学	・文学作品を読み、特徴的なフランス語表現を理解する。
14	期末テスト	・授業内テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
・授業で扱う範囲のテクストを１回は音読し、文章の主語・動詞に下線を引いてから参加することを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
レナ・ジュンタ他著『Quoi de neuf? / クワ・ドゥ・ヌフ？ Z世代のリアル・フランス』白水社、2023年（https://www.hakusuisha.co.jp/book/b613785.html）.
＊上記サイトではサンプルページを閲覧でき、また音声資料を聞くことができます。

【参考書】
副教材として、以下の2点を挙げます。
①斎藤昌三著『3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』白水社、2003年（https://www.hakusuisha.co.jp/book/b203078.html）.
②モーリス・ジャケ他著『映像＋Interviewで学ぶフランス語』駿河台出版社、2024年（https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00580-9）.

【成績評価の方法と基準】
平常点（参加度、課題など）：40％
期末テスト：60％

【学生の意見等からの気づき】
初回担当であるため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
できるだけ「仏和辞書」を持参してほしいです。

【Outline (in English)】
OUTLINE AND GOALS :
Using the textbook "Quoi de Neuf?" (which features French interview videos as its main content), this course aims primarily to develop students'French listening, reading, and writing skills. The course is intended for students who have previously studied French and who possess knowledge equivalent to Level 4-3 of the French Proficiency Test (Futsuken) or DELF A1-A2. While reinforcing the fundamentals of previously learned material, students will also work to strengthen their communicative competence and improve their overall French proficiency.
In the spring semester, the course will cover Lessons 1 through 5 of the textbook, completing each lesson in two class sessions. The remaining three sessions will be based on materials prepared by the instructor. A final exam will be administered in the last class.
PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 30% (presence, participation and homework), final exam: 70%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語視聴覚(初・中級) II　2017年度以降入学者

南　玲子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：1単位
定員制(30)
本科目は2026年度の開講をもって、2027年度以降閉講します。
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語のインタビュー映像を主題にした教科書『Quoi de Neuf?』を用いて、主にフランス語の聞く力・読む力・書く力をつけることを目的とします。受講者はフランス語既習者であり、また仏検3～4級程度、またはDELF A1～A2程度の知識を持っている学生を想定しています。既習事項の基礎を確りと固めると同時に、運用能力を高めて、フランス語力を向上することを目指します。
なお、秋学期の授業では、教科書の第6課～第10課までを扱い、原則として1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

【到達目標】
フランス人に対するインタビュー映像を見聞きした上で、その内容を理解することができるようになる。加えて、関連する文章を読解・理解した上で、フランス語の文法事項を修得するだけでなく、文章構成の方法（接続表現など）を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
秋学期の授業では、教科書の第6課～第10課までを扱い、原則として1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。
なお、課題はHoppii上での提出をしてもらいます。ただし、時には実際に手で記載したものを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 6: Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ? ①	・受動態
2	Leçon 6: Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ? ②	・第6課の後半
3	Leçon 7: Que faites-vous de votre temps libre ? ①	・第7課の前半（現在分詞・ジェロンディフ）
4	Leçon 7: Que faites-vous de votre temps libre ? ②	・第7課の後半
5	Leçon 8: Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ? ①	・第8課の前半（単純未来形・強調構文）
6	Leçon 8: Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ? ②	・第8課の後半
7	Leçon 9: Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ? ①	・第9課の前半（条件法現在・中性代名詞）
8	Leçon 9: Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ? ②	・第9課の後半
9	Leçon 10: Quel estle travail idéal pour vous ? ①	・第10課の前半（指示代名詞・接続法現在）
10	Leçon 10: Quel est le travail idéal pour vous ? ②	・第10課の後半
11	追加教材①：音楽	・楽曲を聞き、特徴的なフランス語表現を理解する。
12	追加教材②：映画	・映像作品を見て、特徴的なフランス語表現を理解する。
13	追加教材③：文学	・文学作品を読み、特徴的なフランス語表現を理解する。
14	期末テスト	・授業内テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。授業で扱う範囲のテクストを１回は音読し、文章の主語・動詞に下線を引いてから参加することを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
レナ・ジュンタ他著『Quoi de neuf? / クワ・ドゥ・ヌフ？ Z世代のリアル・フランス』白水社、2023年（https://www.hakusuisha.co.jp/book/b613785.html）.
＊上記サイトではサンプルページを閲覧でき、また音声資料を聞くことができます。

【参考書】
副教材として、以下の2点を挙げます。
①斎藤昌三著『3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』白水社、2003年（https://www.hakusuisha.co.jp/book/b203078.html）.
②モーリス・ジャケ他著『映像＋Interviewで学ぶフランス語』駿河台出版社、2024年（https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00580-9）.

【成績評価の方法と基準】
平常点（参加度、課題など）：40％
期末テスト：60％
を基本とします。
（公欠・感染症・大学による配慮願がある場合を除き、遅刻・欠席による教室不在時間が400分を超えた場合は、学期末試験を受けたとしても原則として単位を出すことはできません。）

【学生の意見等からの気づき】
初回担当であるため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
できるだけ「仏和辞書」を持参しましょう。

【Outline (in English)】
OUTLINE AND GOALS :

Using the textbook "Quoi de Neuf?" (which features French interview videos as its main content), this course aims primarily to develop students'French listening, reading, and writing skills. The course is intended for students who have previously studied French and who possess knowledge equivalent to Level 3-4 of the French Proficiency Test (Futsuken) or DELF A1-A2. While reinforcing the fundamentals of previously learned material, students will also work to strengthen their communicative competence and improve their overall French proficiency.
In the fall semester, the course will cover Lessons 6 through 10 of the textbook, completing each lesson in two class sessions. The remaining three sessions will be based on materials prepared by the instructor. A final exam will be administered in the last class.
PREPARATION :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅰ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅰ」を紹介するヴィジュアル資料です https://x.gd/JEXrY（ＰＤＦスライド、学内者のみ閲覧できます）
この科目「時事フランス語Ⅰ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（ TV5Monde や Radio France Internationale ）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう１つの視点	パリ18区に住む小学３年（CE2）生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランスという国のかたち	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方 =ものづくりの大切さ	フランスの伝統的な産品をあなたはなにか知っていますか。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。７月の３週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/RkJnE

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典。小学館ロベール仏和大辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。« JapanKnowledge »　からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末試験、期末レポートはありません（0%）
●２．授業への毎週の参加（①）
●３．授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
●４．到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
●５．その他（100%の枠外で5〜20%程度の加点をします）
（ア）授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています）
（イ）実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
カテゴリーA ①50%,②30%,③20%
カテゴリーB ①40%,②30%,③30%
カテゴリーC ①33%,②33%,③34%
カテゴリーD ①50%,②30%,③20%
—-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/4WEFD

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有や課題の提出などに、Google ClassroomやWebClass、Boxを使いますので、タブレットやノートパソコンのような情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/ Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅱ」を紹介する動画です　https://x.gd/KrAUW　（約7分１２秒）
この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（ TV5Monde や Radio France Internationale ）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください
https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう１つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭においたフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるというフェミニズムのかたち
Séance 5	第４回の続き	仕事探しのフランス語→履歴書につながるライティング（Production écrite）
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	第６回の続き	昼食を権利として考えたことがありますか？
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	フランス語によるニュースのヘッドライン（実物）にいよいよ挑戦です。
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元に根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、世界の一握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/ROO6q

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典。小学館ロベール仏和大辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。« JapanKnowledge » からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】
●1．期末試験、期末レポートはありません（0%）
●2．授業への毎週の参加（①）
●3．授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
●4．到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
●5．その他（100%の枠外で5〜20%程度の加点をします）
（ア）授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています）
（イ）実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
カテゴリーA ①50%,②30%,③20%
カテゴリーB ①40%,②30%,③30%
カテゴリーC ①33%,②33%,③34%
カテゴリーD ①50%,②30%,③20%
—-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅱ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/kTKoR

【学生が準備すべき機器他】
音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランスの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木　正道

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。
「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。
皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリ』1 2001 年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？
3	『アメリ』3 オードリー・トトゥとマティュー・カソヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優
4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロン主演のフランス・イタリア合作映画	このタイトルはどういう意味か。誤訳かわざとか。外国映画の邦題について。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽のせい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いたことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエール兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作： 原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 「外国映画の邦題について」その２
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ベルモンドとジーン・セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァーグその２： トリュフォー	アントワーヌ・ドゥワネルのシリーズ：成長する主人公を成長する同じ俳優が演じる
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる17世紀の実在の女優はアクロバットもこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ 14 世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ；宮廷の豪華絢爛と場末の猥雑さ
14	『女優マルキーズ』3 舞台に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。
1：モンマルトルについて調べる。
2：アメリの行く様々な地域について調べる。
3：出演者の他の作品について調べる。
4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
5：「完全犯罪」は可能かを考える。
6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
7：創世期の映画について調べる。
8：外国映画の邦題について考える。
9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
12：17世紀の俳優について調べる。
13：17世紀の古典主義作家について調べる。
14：出演者たちの他の作品について調べる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】
『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎　ちくま学芸文庫　C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】
This course is to analyse various aspects of life in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see people's different problems, joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films. The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in French society.
The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to do some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).
All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランスの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木　正道

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。
「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
21世紀に入って大ヒットした、いかにもフランスらしい？ 映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。
皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、『最強のふたり』１：2011年のヒット作	「ふたり」とはどんな人たちか？
2	『最強のふたり』２：格差社会と移民	パリの郊外とは？富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』３：北の海岸での出会い	「介護者」と「パートナー」：助ける人とお膳立てする人
4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル；原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽；1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとっての1960年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』3 *Westside Story* の向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』1 1945年の大作 19世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。続編を予想させる、終わったようで終わらない結末？
12	『シラノ・ド・ベルジュラック』１：17世紀の実在の人物をモデルにした19世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ・ド・ベルジュラック』2：17世紀の宮廷と社会状況	過剰な繊細華麗（préciosité）と過酷な戦争（30年戦争とアラスの包囲）
14	『シラノ・ド・ベルジュラック』3：普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。
1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
2：フランスの社会階層について調べる。
3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
5：アルジェリア戦争について調べる。
6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】
『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎　ちくま学芸文庫　C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】
This course is to analyse various aspects of life in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see people's different problems, joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films. The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in French society.
The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to do some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).
All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス生活文化論ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：近代フランスの食文化史

梶谷　彩子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】
この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】
フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見る予定です。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。
また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ ／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観
第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により２回から３回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。教科書として指定した書籍は学期中に読み切ること。

【テキスト（教科書）】
①オリジナルの授業資料
この資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。
②『「美食の国」フランスの誕生　ガストロノミーが作ったおいしい歴史』梶谷彩子著、慶應義塾大学出版会、2025年、本体2,700円＋税

【参考書】
①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
③北山晴一『世界の食文化⑯　フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】
平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】
履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。
開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.
Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス生活文化論ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランスの食文化史(古代から現代まで)

梶谷　彩子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】
この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】
フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。
最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第9回	20世紀半ば	全国の美食を求めて―ガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌ―健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。 主に「美食の国　フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してきてください。

【参考書】
①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
③北山晴一『世界の食文化⑯　フランス』、農村漁村文化協会、2008年。
④梶谷彩子『「美食の国」フランスの誕生　ガストロノミーが作ったおいしい歴史』慶應義塾大学出版会、2025年。

【成績評価の方法と基準】
平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】
履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。
開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション初級Ⅰ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：1単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
構文をしっかり覚える。
発音を正確にする。
日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞 会話（1）	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	述語 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第6回	受け答え	「是」その他
第7回	場所と方位	在と有
第8回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第9回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方 レストランでの会話を作成する
第10回	連用修飾語 授業内発表（2）	副詞と時間詞を学ぶ 講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第11回	完了と変化 会話（3）	「了」の様々を知る 買い物する時の会話パターンを作成する
第12回	助動詞と前置詞構造 授業内発表（3）	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第13回	三量補語	三量補語と離合詞
第14回	まとめ及び期末テスト	文法をまとめ、会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や発表の準備など、毎回１時間ほどの予習・復習をする。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】
教員による教材配布

【参考書】
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
受講者それぞれのレベルの差に配慮をする。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,
and talk the Chinese daily conversation well.
We should prepare and review about one hour a week.
It is better to take the test of HSK.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション初級 II　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：1単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々を知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週1時間を目途に予習・復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】
教員による教材配布

【参考書】
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
受講者それぞれのレベルの差に配慮する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should do the exercise of reading,writing,listening and talking.
We should talk the chinese daily conversation well.
We should prepare and review about one hour a week.
It is better to take the test of HSK.
Term-end test:60%
presentation:40%

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

資格中国語初級Ⅰ

2017年度以降入学者

青木　正子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：1単位
定員制(40)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
HSK（☒☒水平考☒）１級～３級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的ですが、例年レベルが高い学生が多いため、春学期中に２－３級、秋学期中に３ー４級に合格できるよう指導します。HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。中国語を１年以上履修した学生に限ります。中国語が好きな人が集まりますので、気軽に情報交換できる楽しいクラスを目指します。毎年全員が高得点で合格しています。

【到達目標】
春学期はHSK２ー３級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。秋学期はHSK3－4級合格を目指します。昨年の３級合格者は７名でした。平均点は２４７点で、内訳は、聴力７８点、閲読８６点、写作８３点でした。日本人が苦手な聴力の得点も良好で、閲読では４人が１００点（満点）でした。また４級には４人合格しました。履修者は２年生が多いですが、就活を終えた４年生もいます。１年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。必ずレベルアップを感じていただけると思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めます。ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解します。フィードバックは授業内とメールで行います。メールは、qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK１級過去問①	HSK１過去問①を解き解説します。
3	HSK１過去問②	HSK１過去問②を解いて解説します。
4	HSK２過去問①	HSK２過去問①を解いて解説します。
5	HSK２過去問②	HSK２過去問②を解いて解説します。
6	HSK２級過去問③	HSK２級過去問③を解いて解説します。
7	HSK２級過去問④	HSK２級過去問④を解いて解説します。
8	HSK３級過去問①	HSK３級過去問①を解いて解説します。
9	HSK３級過去問②	HSK３級過去問②を解いて解説します。
10	HSK３級過去問③	HSK３級過去問③を解いて解説します。
11	HSK３級過去問④	HSK３級過去問④を解いて解説します。
12	HSK３級過去問⑤	HSK３級過去問⑤を解いて解説します。
13	HSK３級過去問⑥	HSK３級過去問⑥を解いて解説します。
14	春学期復習と学習のまとめ	復習テストと学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
過去問はプリントを配布します。法政大学のHSK合格講座のサイトも活用します。次のテキストを使用します。履修を決めてから購入してください。HSK/中検対応『中国語基本単語帳』　早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】
HSK過去問、HSK公式アプリ単語、法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】
出席状況80％と期末テスト20％で評価します。HSK合格者は、S評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎や構造を理解していただけるように工夫します。プリント教材の質を向上させて、復習しやすいように心がけます。また欠席者が困らないように、授業内容は、hoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマホ

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.
The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

資格中国語初級 II

2017年度以降入学者

青木　正子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：1単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
HSK３－４級合格レベルの中国語を身につけることが目的です.この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。中国語が好きで意欲的な学生の参加を歓迎します。

【到達目標】
HSK３－４級合格以上を目指します。昨年は４級は４人合格しました。詳細は春学期のシラバスをご覧ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
プリント教材を使って、HSK３－４級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。フィードバックは授業内とメールで行います。qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK３級昨年度の過去問を使ったレベルチェックテスト	HSK３級昨年度の過去問を使って皆さんのレベルをチェックします。
2	HSK３級過去問①	HSK３級過去問①を解いて解説します。
3	HSK４級単語解説	HSK４級に出る単語を解説します。
4	HSK４級過去問リスニングチェックテスト①	HSK４級過去問リスニングを解いてリスニング力をチェックします。
5	HSK４級過去問リスニング②	HSK４級過去問リスニング②を解いて解説します。
6	HSK４級過去問リスニング③	HSK４級過去問リスニング③を解いて解説します。
7	HSK４級過去問リスニング④	HS４級過去問④を解いて解説します。
8	HS４級過去問閲読①	HSK４級過去問閲読①を解いて解説します。
9	HSK４級過去問閲読②	HSK４級過去問閲読②を解いて解説します。
10	HSK４級過去問閲読③	HSK４級過去問③を解いて閲読の解説します。
11	HSK４級過去問閲読④	HSK４級過去問閲読④を解いて、閲読の解説をします。
12	HSK４級過去問作文①	HSK４級過去問の２作文練習をします。
13	HSK４級過去問	HSK４級過去問の作文②を学習します。
14	授業の総まとめ期末テスト実施	期末テスト実施、解説をしながら学習の総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布します。プリント以外に、次の単語帳テキストを使用します。
『中国語基本単語帳』　早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。またポイント学習中国語を持参することが望ましいです。

【参考書】
HSKー４３級過去問、単語集。法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】
出席状況80％、期末テスト20％で評価します。HSK３級以上合格者はSランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
欠席者が困らないように、授業内容はhoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、PC。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.
The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

髙柳　浩平

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(60)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ことばは一般に「コミュニケーションのための手段」と見なされることが多いですが、ことばが使われる時、その背後には整然としたしくみが存在しています。本授業は、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった分野に分けて学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】
中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	中国語の文字（１）	漢字の起源と変遷
③	中国語の文字（２）	漢字の簡略化及び文字改革と簡体字
④	中国語の音韻（１）	古代の音とその表記法
⑤	中国語の音韻（２）	古代の音から現代の音へ
⑥	中国語の音韻（３）	ピンインの成立とその表記法
⑦	中国語の語彙（１）	古代の語彙とその分類
⑧	中国語の語彙（２）	古代の語彙から現代の語彙へ
⑨	中国語の語彙（３）	日中語彙交流と外来語・新語・流行語
⑩	中国語の文法（１）	中国語の文構造と品詞分類
⑪	中国語の文法（２）	中国語文法研究の変遷
⑫	共通語と方言（１）	共通語の成立と広がり
⑬	共通語と方言（２）	共通語と諸方言の比較
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】
参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）、期末試験（70％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。
※リアクションペーパーと期末試験は日本語で回答することが必須となります。

【学生の意見等からの気づき】
前年度よりもペースを落として、じっくり進めていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .
【Learning activities outside of classroom】
4 hours for preparation and review for each class.
【Grading Criteria /Policy)】
Term-end examination: 70%、Short reports and in class contribution: 30%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

髙柳　浩平

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(60)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に引き続いて本授業では、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】
中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	類型論からみる中国語（１）	形態的類型論における中国語
③	類型論からみる中国語（２）	語順類型論における中国語
④	中国語文法の分析（１）	中国語と西洋文法の受容
⑤	中国語文法の分析（２）	中国語とアスペクト
⑥	中国語文法の分析（３）	中国語と補語
⑦	中国語文法の分析（４）	中国語と類像性
⑧	中国語史（０）	中国語史における時代区分
⑨	中国語史（１）	上古中国語の特徴
⑩	中国語史（２）	中古早期中国語の特徴
⑪	中国語史（３）	中古中国語の特徴
⑫	中国語史（４）	近代中国語の特徴
⑬	応用演習	中国語と能格性
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】
参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）、期末試験（70％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。
※リアクションペーパーと期末試験は日本語で回答することが必須となります。

【学生の意見等からの気づき】
前年度よりもペースを落として、じっくり進めていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .
【Learning activities outside of classroom】
4 hours for preparation and review for each class.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 70%、Short reports and in class contribution: 30%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本　律

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(60)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
　日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。
　本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】
　日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式で授業を行います。
　毎回コメントペーパーを出してもらいます。
　その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。
　最終回には教場レポートを提出してもらいます。
　出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』(第3回) 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本　律

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
　映画は、その国の文化と社会を映し出します。
　今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として香港の社会と文化についてみていきます。

【到達目標】
　中国香港の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　基本的には講義形式で授業を行います。
　毎回コメントペーパーを出してもらいます。
　その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。
　最終回には教場レポートを提出してもらいます。
　出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てきてください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、毎回のコメントペーパー）60％、レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＣ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳　瀟瀟

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(60)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中国の文化および社会に関する基礎知識を体系的に学ぶ。中国の食文化、民俗行事、芸術工芸、文化遺産などの伝統文化を概観するとともに、現代中国社会における学校教育、社会構造、生活様式、流行文化などについても取り上げ、具体的な事例を交えながら理解を深める。これらの学習を通じて、中国文化の多様性と現代中国社会の実態を多角的に捉える視点を養い、異文化に対する理解力および国際社会における異文化交流能力の向上を目的とする。

【到達目標】
・中国の文化および社会に関する基礎的な知識を習得する。
・中国社会における諸事象を理解し、その背景を踏まえて分析・考察する力を養う。
・中国のマナー、文化習慣、商習慣に対する理解を深める。
・現代中国社会の事象や流行を、客観的かつ多角的な視点で捉える力を養う。
・異文化理解力および異文化交流能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションも行う。
課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。
※授業は対面で実施する。授業形態に変更がある場合は、大学の方針が確定次第、学習支援システムにて随時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスおよび授業内容の説明 ・授業計画、進め方および成績評価の基準の説明
第2回	行政区画・地理	・中国の東西南北と地理の概念 ・地域ごとの特徴と差
第3回	漢民族と少数民族	・漢民族 ・少数民族
第4回	中国語という言語	・漢字の歴史と発展 ・普通話と方言
第5回	食文化	・中華料理の特徴 ・「南北」の食文化の違い ・円卓文化の理解 ・デリバリー文化の流行
第6回	コミュニケーション文化１	・茶文化 ・酒文化
第7回	コミュニケーション文化２	・中国におけるビジネスマナー ・「面子（メンツ）」の概念と理解
第8回	祝祭日と民俗行事	・二十四節気と祝祭日 ・民俗行事
第9回	芸術：音楽、絵画と戯曲	・音楽：燕楽、琴楽、民謡 ・絵画：花鳥画、山水画 ・戯曲：昆劇、京劇、川劇
第10回	学校教育	・「科挙」と「高考」 ・現代中国の教育制度 ・都市と農村における教育格差
第11回	「巻」と「躺平」	・「巻」の概念 ・「躺平」の意味と背景 ・若者世代の現状と特徴
第12回	「二次元文化」と「国潮」	・急成長する二次元文化 ・新しいカルチャー「国潮」
第13回	異文化コミュニケーション	・異文化コミュニケーションのギャップ ・異文化コミュニケーションスキル ・プレゼンテーション・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・プレゼンテーション・ディスカッション ・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に、学習支援システムにアップロードされた講義資料を必ず読んでおくこと。
・授業後は、関連知識を振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で提示される課題やディスカッションの内容に対応すること。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布するほか、講義資料は事前に学習支援システムにアップロードされる場合があり、その際は同システムで通知する。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。
・上記の成績評価に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解を深めるため、音声・映像などのマルチメディアを積極的に活用する。
私語を控え、授業に集中しやすい学習環境を整える。
学生が学んだ知識を今後の仕事や日常生活に活かせるように、本授業では中国の文化と社会に加え、異文化交流や国際社会における礼儀・マナーも一取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセス可能なパソコンまたはタブレット。

【その他の重要事項】
学習支援システムにて本授業の連絡事項を必ず確認すること。
質問や不明点がある場合は、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp までご連絡ください。

【Outline (in English)】
This course aims to provide a systematic introduction to Chinese culture and society. It covers key aspects of traditional culture, including food culture, folk customs, arts and crafts, and cultural heritage, while also examining contemporary Chinese society through topics including education, social structure, lifestyles, and popular culture. Through these explorations, the course aims to deepen students'understanding of cultural diversity and contemporary social realities in China, and to enhance their intercultural awareness and cross-cultural communication skills in a global context.
【Learning Objectives】
・Acquire fundamental knowledge of Chinese culture and society.
・Analyze and interpret various aspects of Chinese society in context.
・Develop an understanding of Chinese manners, cultural practices, and business customs.
・Develop the ability to view contemporary Chinese society phenomena and trends from an objective and multifaceted perspectives.
・Enhance intercultural understanding and cross-cultural communication skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session, for a total of four hours per session.
【Grading Criteria /Policies】
Grading will be based on in-class participation (60%) and term-end report (40%).A total score of 60% or higher is required to pass the course.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＤ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳　瀟瀟

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中国の文化および社会に関する基礎知識を体系的に学ぶ。まず、中国の宗教、文学、美術工芸、世界遺産、冠婚葬祭などを概観し、歴史的・文化的背景を理解する。次に、現代中国社会に焦点を当て、情報化やグローバル化に伴う価値観の変化、消費行動の変化、ジェンダー構造の変容について考察する。これらの学習を通じて、中国の文化と社会の特徴を理解し、その変遷を多角的に捉える力を養うことを目指す。また、異文化理解と異文化交流の視点を深めるとともに、自らの考えを発展させるとともに、国際社会での異文化交流能力の向上を目的とする。

【到達目標】
・中国の文化および社会に関する基礎的な知識を習得する。
・中国社会の諸事象を理解し、その背景を踏まえて分析・考察する力を養う。
・中国の冠婚葬祭に関するマナーや文化習慣への理解を深める。
・現代中国社会の事象や流行を、客観的かつ多角的な視点から捉え、自らの考えを発展させる。
・異文化理解および異文化交流能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションも行う。
課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。
※授業は対面で実施する。授業形態に変更がある場合は、大学の方針が確定次第、学習支援システムに随時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教	・民間信仰と祖先崇拝 ・道教と仏教
第2回	文学	・古代文学 ・唐詩と宋詞 ・近現代文学
第3回	美術工芸	・ガラス工芸 ・陶器、磁器、景泰藍 ・刺繍
第4回	中国の世界遺産１	・故宮 ・万里の長城 ・始皇帝陵と兵馬俑
第5回	中国の世界遺産２	・パンダ保護区群 ・莫高窟、龍門石窟、雲崗石窟、大足石刻 ・九寨溝、黄龍、黄山、桂林
第6回	冠婚葬祭	・結婚式 ・葬儀
第7回	SNSとショート動画	・SNSと「自媒体」 ・ショート動画の急成長 ・娯楽性と実用性
第8回	消費行動の変化	・店頭購入とネットショッピング ・爆買いから理性消費へ ・モノ消費からコト消費へ
第9回	ジェンダー構造の変容とフェミニズム	・男尊女卑と男女平等 ・フェミニズム ・ジェンダー構造の変容
第10回	異文化コミュニケーション１	・カルチャーショック ・異文化受容と異文化適応 ・自文化の変容
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション１	・カルチャーショック ・異文化理解・自文化理解 ・ディスカッション
第12回	異文化コミュニケーション２	・多文化社会とは ・多文化共生へ ・マイノリティへの理解
第13回	プレゼンテーション・ディスカッション２	・プレゼンテーション ・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に、学習支援システムにアップロードされた講義資料を必ず読んでおくこと。
・授業後は、関連知識を振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で提示される課題やディスカッションの内容に対応すること。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布するほか、講義資料は事前に学習支援システムにアップロードされる場合があり、その際は同システムで通知する。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。
・上記の成績評価に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解を深めるため、音声・映像などのマルチメディアを積極的活用する。
私語を控え、授業に集中しやすい学習環境を整える。
学生が学んだ知識を今後の仕事や日常生活に活かせるように、本授業では中国の文化と社会に加え、異文化交流や国際社会における礼儀・マナーも取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセス可能なパソコンまたはタブレット。

【その他の重要事項】
学習支援システム上の本授業の連絡事項を必ず確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jpまでご連絡ください。

【Outline (in English)】
This course provides a systematic introduction to Chinese culture and society. It covers traditional culture, including religion, literature, arts and crafts, World Heritage sites, and life-cycle rituals, with a focus on their historical and cultural contexts.The course also explores contemporary society, examining changes in values, consumer behavior, and gender structures.Through these studies, students will develop a multifaceted understanding of Chinese culture and society, foster critical thinking, and enhance intercultural understanding and communication skills.

【Learning Obejectives】
・Acquire fundamental knowledge of Chinese culture and society.
・Understand various aspects of Chinese society and develop the ability to analyze them in context.
・Gain a deeper understanding of etiquette and cultural practices related to Chinese life-cycle rituals.
・Critically analyze contemporary Chinese society and trends and develop personal perspectives.
・Develop intercultural understanding and cross-cultural communication skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend approximately four hours per session on preparation and review.
【Grading Criteria /Policies】
Grading will be based on in-class participation(60%) and term-end report (40%). A total score of 60% or higher is required to pass the course.

法政大学
HOSEI University